

第六條 農具ハ現品ヲ以テ一戸ニ付左ノ如ク支給ス

- 一 鋏 大小 各一挺
- 二 唐鋏 大二挺 小一挺
- 三 砥 荒砥 各一箇 中砥
- 四 山刀 一挺
- 五 鑪 二挺
- 六 鑪 一挺
- 七 鋸 大小 各一挺
- 八 鎌 柴刈 各一柄 草刈
- 九 鋤 三十枚
- 十 蠶籠 二十箇
- 十一 麻拔函 一箇 板
- 十二 培養桶 一箇 壺共

第七條 種物ハ現品ヲ以テ一戸ニ付左ノ如ク支給ス

- 一 麻種子 一斗
- 二 大麥 一斗
- 三 小麥 一斗
- 四 大豆 一斗
- 五 小豆 五升
- 六 馬鈴薯 四斗

七 蠶卵紙

四半枚

第八條 扶助米及鹽菜料ハ三箇年間人員ニ應シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ支給ス

- 一 米七合五勺 十五歳以上及六十歳未満ノ者一人一日分
- 二 米五合 六十歳以上及十五歳未満七歳迄同上
- 三 米三合 七歳未満同上
- 四 金壹錢五厘 十五歳以上及六十歳未満ノ者同上
- 五 金壹錢 六十歳以上及十五歳未満同上
- 六 金七厘 七歳未満同上

第九條 夜具扶助米及鹽菜料給否ノ區別ハ左ノ各項ニ依ル

- 一 婚嫁縁組出産等正當ノ理由アリテ戸籍ニ入ル者ニハ扶助米及鹽菜料ニ限り之ヲ給ス但移住前他ノ戸籍ニ入り移住後復籍シタル者ハ總テ給セス
- 二 公務ニ服シ軍隊ノ給與ヲ受クル者ハ其日ノ扶助米及鹽菜料ヲ給セス
- 三 家族中仕官又ハ其他ノ事故ノ疾病或ハ一時アリ徵募ノ際居殘リ他日移住スル者ニハ扶助米及鹽菜料ニ限り之ヲ給ス
- 四 家族中体給恩給ヲ受クル者ハ扶助米及鹽菜料ヲ給セス
- 五 附籍者ニシテ附籍主ニ從ヒ移住スル者ハ課算孤獨ニシテ自營ノ力ナク親戚ノ縁故ニ由リ附籍セシメタル者ニ限り諸給與トモ家族ト同シク支給シ其他ノ附籍者ニハ一切之ヲ給セス

第十條 屯田兵移著ノ時ニ限り毎中隊ニ事業場及學校ヲ給ス但修理交換等ハ之ヲ爲サス

一 事業場四棟養蠶製絲器具及麻蒸場竝製麻器具ヲ屬ス

- 二 學校一棟所用ノ器具ヲ屬ス
- 第十一條 屯田兵家族ノ者藥餌費ハ左ノ各項ニ依ル
 - 一 扶助年限中ノ醫藥ハ凡テ官費トシ扶助滿限ノ者ハ藥劑ノ實價ヲ徵收シ小兒七年未滿ハ其半價ヲ徵收ス
 - 二 扶助年限中病院ニ入りタル者ノ醫藥食料ハ凡テ官費トシ扶助米及鹽菜料ハ扣除ス扶助滿限ノ者ハ凡テ自辨トス
- 第十二條 屯田兵家族ノ者扶助年限中死スルトキハ左ノ割合ヲ以テ埋葬料ヲ給ス
 - 一 金七圓 家族七歳以上ノ者
 - 二 金三圓五十錢 同 七歳未滿ノ者

朕中央備荒儲蓄金會計規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十二日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七十七號(官報 五月十三日)

中央備荒儲蓄金會計規則

- 第一條 左ノ諸收入ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳入トス
 - 第一 預金利子
 - 第二 米穀賣拂代

第三 雜收入

- 第二條 左ノ諸支出ヲ以テ中央備荒儲蓄金ノ歳出トス
 - 第一 府縣備荒儲蓄金補助
 - 第二 米穀購入代
 - 第三 米穀運送費
 - 第四 初摺及搗精費
 - 第五 米穀保存及取扱費
 - 第六 藏敷料及諸手数料
- 第三條 歳入歳出ノ豫定計算書及決定計算書ハ大藏大臣之ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト共ニ帝國議會ニ提出ノ手續ヲナスヘシ
- 第四條 大藏大臣ハ其年三月三十一日現在ノ中央備荒儲蓄金高明細表ヲ調製シ毎年度ノ豫定計算書ニ添付スヘシ
- 第五條 收入官吏ハ歳入ヲ收納スルトキハ中央備荒儲蓄金ノ寄托トシテ直ニ之ヲ預金局ニ拂込ヘシ
- 第六條 大藏大臣ハ府縣ノ備荒儲蓄金補助トシテ中央備荒儲蓄金ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄托金ヲ支出セシメ之ヲ一般ノ歳入ニ繰入ルヘシ
- 第七條 大藏大臣ハ米穀ノ賣買保存ニ關スル費用ヲ支出セントスルトキハ命令ヲ預金局ニ下シテ寄托金ヲ支出シ之ヲ主任官吏ニ交付セシメ主任官吏ヲシテ仕拂ヲ執行セシムヘシ
- 第八條 毎年度内ニ收入ヲナスヘキ權利ヲ得テ當該年度内ニ收入濟トナラサルモノハ收入未濟トシテ順次翌年度ヘ繰越シ現ニ收入ヲナシタル年度ノ歳入ニ組入ルヘシ

第九條 毎年度内ニ仕拂ヲナスヘキ義務ヲ生シ當該年度内ニ支出ノ請求ナキモノハ支出未済トシテ其定額ヲ順次翌年度ヘ繰越シ支出ノ請求アル毎ニ仕拂ノ命令ヲ發スヘシ

第十條 米穀ヲ購入スルニ當リ臨時急施ヲ要スルトキハ競争ニ附セス隨意ノ約定ニ依ルコトヲ得

第十一條 入札ノ方法ヲ以テ米穀ヲ賣却スルトキハ其入札期日ヨリ少ナクモ三日以前ヨリ揭示又ハ官報新聞紙其他ノ方法ヲ以テ成ルヘク廣ク公告スヘシ

第十二條 收入官吏仕拂官吏及物品會計官吏ヨリ會計檢査院ニ提出スヘキ計算書ヲ大藏大臣ニ送附スルハ毎年度經過後二箇月以内トス

第十三條 本規則ニ掲ケサル中央備荒儲蓄金會計ノ規程ハ總テ明治二十二年勅令第六十號會計規則ニ準據スヘシ

朕監軍部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七十八號 (官報 五月十七日)
監軍部條例中左ノ通改正ス

第五條中「參謀部ニ少佐大尉各一人」ヲ「參謀部ニ中(少)佐及大尉各一人」ニ改ム

第七條中「砲兵監ノ下ニ副官一人ヲ置キ砲兵少佐及砲兵大中尉ヲ以テ之ニ補シ」ヲ「砲兵監ノ下ニ副

官四人ヲ置キ砲兵少佐二人及砲兵大中尉一人ヲ以テ之ニ補シ」ニ改ム

第十一條中「砲兵監ハ本科ニ關スル」ヲ「砲兵監ハ野戰砲兵要塞砲兵ニ關スル」ニ改メ「砲兵會議砲兵射的學校ヲ管轄ス」ヲ「砲兵會議砲兵射的學校砲工學校要塞砲兵幹部練習所ヲ管轄ス」ニ改ム

第十二條中「工兵會議ヲ管轄ス」ヲ「工兵會議砲工學校ヲ管轄ス」ニ改ム

第十四條中「其法陸軍檢閱條例ニ詳悉ス」ヲ「其法陸軍軍隊檢閱條例ニ詳悉ス」ニ改ム

朕要塞砲兵配備ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七十九號 (官報 五月十七日)

要塞砲兵配備表

師管	防禦管區	聯隊番號	衛戍地
第一	東京灣	第一聯隊	橫須賀
第四	紀淡海峽	第二聯隊	由良
第五		第三聯隊	
第六	下關海峽	第四聯隊	赤間關

備考 第三聯隊ノ防禦管區及其衛戍地ハ追テ之ヲ定ム

朕日本帝國領事規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此規則ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年五月十九日

外務大臣子爵青木周藏

勅令第八十號(官報五月二十日)

日本帝國領事規則

- 第一條 領事ハ日本帝國ノ利益殊ニ貿易交通及航海ノ利益ヲ保護獎勵シ日本ト駐在國トノ間ニ締結セル條約ノ施行ヲ觀察シ日本臣民竝ニ日本ト友好アル外國ノ臣民ヨリ倚賴アルトキハ之ニ相當ノ勸告若クハ保護ヲ與フヘシ
- 領事ハ諸般ノ事務ヲ執行スルニ當テハ日本ノ法律及命令ニ準據スヘシ但特別ノ條約又ハ慣例アル國ニ駐在スル者ノ外駐在國ノ法律及慣例ニ違フコトヲ得ス
- 第二條 領事ハ駐在國ニ於テ日本臣民ノ爲メ名簿ヲ備置キ日本臣民ヨリ居住婚姻出生死亡ノ届出ヲ受ケタルトキハ之ヲ其名簿ニ登錄スヘシ其請求アルトキハ右事項ニ關シ證明書ヲ付與スヘシ
- 第三條 領事ハ駐在國ニ於テ日本臣民死亡ノ際其遺留財産ヲ相續スヘキ者不在ナルカ又ハ其他ノ事故アリテ遺留財産ニ危險アルトキハ之ヲ保護スルノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 領事ハ駐在國ニ於テ救助ヲ要スル日本臣民アルトキハ之ニ一時ノ救助ヲ爲シ若クハ之ヲ本邦ニ送還スヘシ

第五條 領事ハ必要アルトキハ日本ノ海軍艦船及其乘組員ヲ幫助スヘシ

第六條 領事ハ駐在國ニ於テ日本海軍艦船乘組員脱走シタルトキハ艦船長ノ要求ニ依リ其逮捕ヲ駐在國ノ官廳ニ照會スヘシ

第七條 領事ハ災厄ニ遭遇セル日本船舶ニ對シ必要ノ救助ヲ爲シ及駐在國ヨリ與フル救助ヲ監視スヘシ

領事ハ船難報告及船難證書ヲ證明スヘシ

第八條 領事ハ日本船舶ノ國旗ヲ監視スヘシ

領事ハ國旗掲揚ノ認可書ヲ付與スヘシ

第九條 領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ海員雇入雇止定約ヲ公認スヘシ

第十條 領事ハ日本船舶ノ賣却及抵當ヲ公認スヘシ

第十一條 領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ船長ヲシテ出入港届出ヲ爲サシムルコトヲ得

入港地ニ於テ船舶諸證書ヲ領事ノ保管ニ附スヘキ成規又ハ慣例アル時ハ領事之ヲ保管スヘシ

第十二條 領事ハ日本臣民ニ旅券ヲ付與シ及其旅券ヲ查證スルコトヲ得

領事ハ日本ニ旅行セントスル外國人ノ倚賴ニ依リ其旅券ノ查證ヲ爲スコトヲ得

第十三條 領事ハ日本船舶及日本ニ航行スル外國船舶ニ對シ其船長ノ倚賴ニ依リ船舶健康證書ヲ付與スルコトヲ得

第十四條 領事ハ駐在國ノ官廳ヨリ發セル證書ノ署名捺印ヲ證明スルコトヲ得

第十五條 領事ハ駐在國ニ於テ日本船舶ノ海員脱走シタルトキハ船長ノ申出ニ依リ其復役ヲ強制スル爲メ駐在國ノ官廳ニ照會スルコトヲ得

第十六條 日本船舶ノ船長疾病死亡其他ノ事故ニ由リ船舶ノ指揮運轉ニ差支ヲ生シタルトキハ領

事ハ其船舶關係人ノ申出ニ依リ假ニ船長ヲ選定スルコトヲ得

第十七條 條約若クハ慣例ニ從ヒ領事裁判權ヲ行フヘキ國ニ駐在スル領事ハ裁判權ヲ行フヘシ

第十八條 領事ハ日本臣民相互ノ間若クハ日本臣民ト外國人トノ間ニ生シタル民事上ノ爭論ニ關

シ勸解ノ倚頼ヲ受ケタルトキハ之ヲ勸解スルコトヲ得

第十九條 領事ハ駐在國ノ法律規則及慣例ニ矛盾セサル限りハ日本臣民及日本船舶ニ對シ取締ヲ

爲スコトヲ得

第二十條 領事ハ職務上必要アルトキハ日本軍艦ニ幫助ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條 領事ハ此規則ニ掲グル領事手数料及出張入費表目ニ據リ手数料及出張入費ヲ徵收ス

ヘシ但別ニ法律規則ノ明文アル事項ニ付テハ其規定ニ從フヘシ

第二十二條 表目第一第二ノ手数料ハ其關係者無資力ナル場合ニ於テハ之ヲ免除スルコトヲ得

第三ノ手数料ハ遺留財産ノ價額五拾圓未満ナルトキハ之ヲ免除ス

第二十三條 領事ノ取扱ヲ願出タル後中途ニシテ之ヲ願下ルトキハ其手数料ノ半額ヲ徵收スヘシ

第二十四條 外國語ヲ以テ證明書ヲ付與シタルトキハ規定ノ手数料ニ十分ノ五ヲ増課スヘシ

翻譯ヲ要スルモノアルトキハ更ニ其實費ヲ拂ハシムヘシ

第二十五條 各地ノ法律規則又ハ慣例ニ依リ領事ノ證明又ハ取扱ヲ要スヘキ事項ニシテ表目中明

文ナキモノニ付テハ其地ノ慣例ニ從ヒ五圓以内ノ手数料ヲ徵收スヘシ

第二十六條 日本臣民ノ願出ニ依リ領事館所在地外ニ出張シテ事務ノ取扱ヲ要スルトキハ規定ノ

手数料ノ外其出張入費ヲ出願人ヨリ拂ハシムヘシ

第二十七條 領事ノ裁判權執行ニ付テハ民事訴訟用印紙規則ヲ適用スヘシ

第二十八條 領事ハ其職務上ノ事項ニ付外務大臣ニ報告スヘシ

第二十九條 領事ト本邦他官廳トノ往復文書ハ開封ニテ外務省ヲ經由スヘキモノトス但緊急ノ場
合ニ於テ直接ノ通信ヲ爲シタルトキハ次便ヲ以テ其寫ヲ外務大臣ニ送達スヘシ

第三十條 此規則ニ於テ領事ト稱スルハ總領事領事又ハ其代理及ヒ委任狀ヲ有スル副領事又ハ

其代理ヲ云フ

領事手数料及出張入費表目

一 居住婚姻出生死亡ノ届出登錄 貳拾錢

二 同上證明書 五拾錢

三 遺留財産取調書及封緘保管公賣

價額五百圓以下 百分一

但最少額貳圓

價額五百圓以上 貳百分一

但最多額貳拾圓

四 旅券 貳圓

五 同上查證 壹圓

六 船難報告 壹圓

七 船難證書 五圓

八 同上謄寫 壹圓

九 船舶出入港届出及船舶諸證書保管 五圓

十 船舶賣却及抵當ノ公認 四圓

十一 國旗掲揚ノ認可書 四圓

十二 脱走船員復役取扱 貳圓

六		第二十		第	佐	賀
對	馬	五	島	長	崎	上縣郡下縣郡
長	崎	南松浦郡	長崎南高來郡	長崎四彼杵郡	長崎東彼杵郡	北松浦郡
福	岡	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市	福岡市
佐	賀	佐賀	佐賀	佐賀	佐賀	佐賀
山	門	山門郡	山門郡	山門郡	山門郡	山門郡
三	池	三池郡	三池郡	三池郡	三池郡	三池郡
福岡	生	福岡生業郡	福岡生業郡	福岡生業郡	福岡生業郡	福岡生業郡
福岡	志	福岡志摩郡	福岡志摩郡	福岡志摩郡	福岡志摩郡	福岡志摩郡
福岡	早	福岡早良郡	福岡早良郡	福岡早良郡	福岡早良郡	福岡早良郡
福岡	御	福岡御井郡	福岡御井郡	福岡御井郡	福岡御井郡	福岡御井郡
福岡	原	福岡原郡	福岡原郡	福岡原郡	福岡原郡	福岡原郡
福岡	山	福岡山本郡	福岡山本郡	福岡山本郡	福岡山本郡	福岡山本郡
福岡	久	福岡久留米市	福岡久留米市	福岡久留米市	福岡久留米市	福岡久留米市
福岡	上	福岡上妻郡	福岡上妻郡	福岡上妻郡	福岡上妻郡	福岡上妻郡
福岡	下	福岡下妻郡	福岡下妻郡	福岡下妻郡	福岡下妻郡	福岡下妻郡
福岡	御	福岡御笠郡	福岡御笠郡	福岡御笠郡	福岡御笠郡	福岡御笠郡

朕要塞砲兵ノ服制ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八十三號(官報五月二十二日)

陸軍下士以下服制中要塞砲兵ニ在テハ肩章ノ記號ヲ緋絨トシ外套ハ徒步外套ヲ用フ

朕佐世保軍港境域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

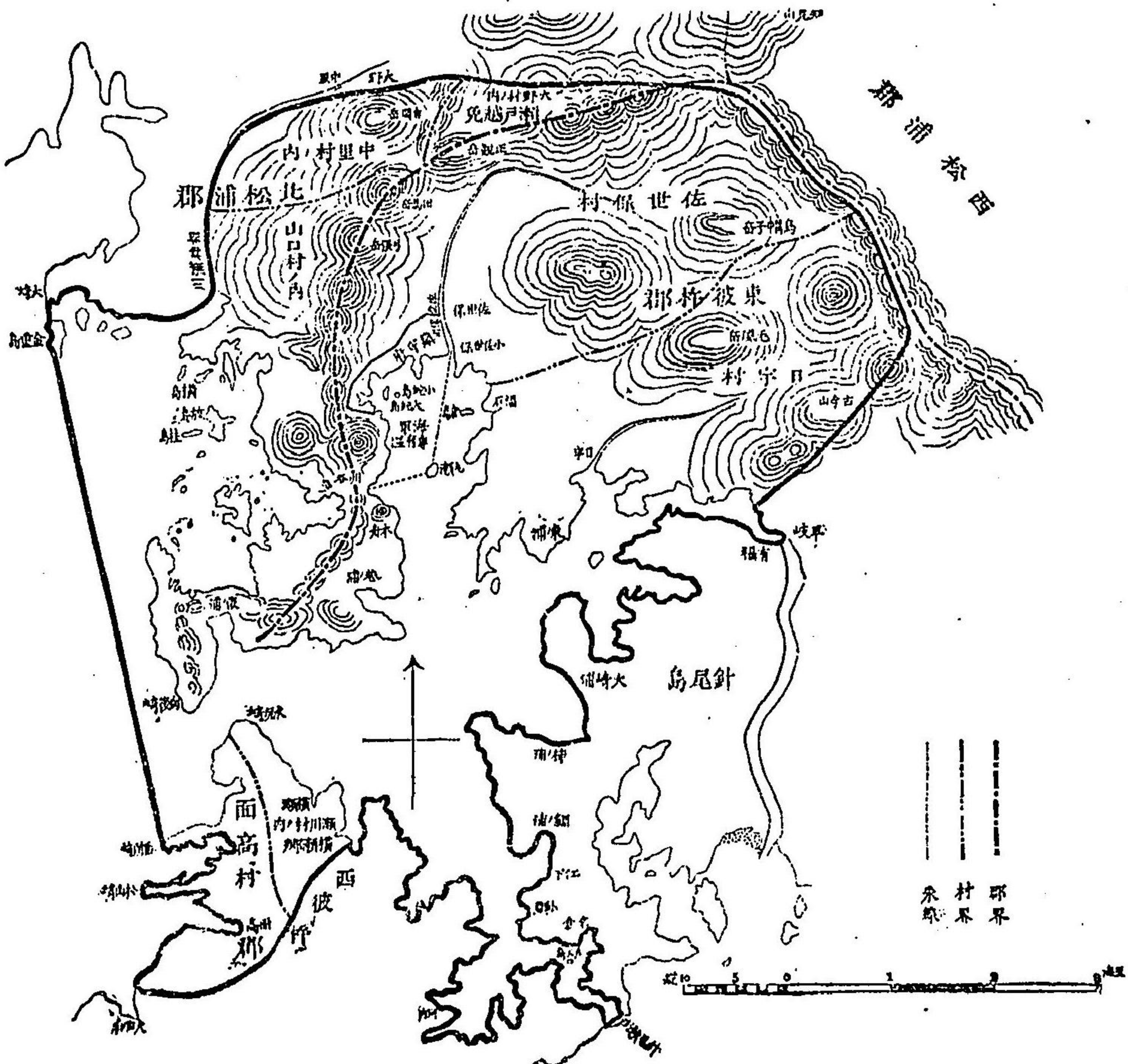
御名 御璽

明治二十三年五月二十一日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第八十四號(官報五月二十二日)

佐世保軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黒線以內ト定メ其海軍專有區ヲ朱線以內ト定ム



佐世保軍港境域内ノ村落ハ左ノ如シ

肥前國東彼杵郡佐世保村日宇村

同國北松浦郡山口村及中里村ノ内相神浦川大野橋ノ下流ナル川岸南東ノ地

同國同郡大野村ノ内瀬戸越免

同國西彼杵郡面高村

同國同郡瀬川村ノ内横瀬郷

朕屯田兵條例中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八十五號(官報 五月二十三日)

明治二十二年^七月^七勅令第百二號屯田兵條例第十七條中「中尉」ノ下ニ「一二三等軍吏」ノ六字ヲ追加ス

朕陸軍下士文官採用規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八十六號(官報 五月二十六日)

陸軍下士官採用規則中左ノ通改正追加ス

第一條 陸軍下士ニシテ左ニ掲クル者ハ文官奉職ヲ請願スルコトヲ得

一 戰役若クハ公務上ノ傷痍疾病ニ因リ免官シ尙文官ノ勤務ニ堪ヘ且伎倆證明書ヲ所持スル者

二 現役七箇年以上服役滿期ノ下士ニシテ伎倆證明書ヲ所持スル者

第二條 陸軍下士ハ本人ノ請願ニ因リ前條恰當ノ者ハ試験ヲ要セスシテ判任官トナルコトヲ得

第四條 文官タランコトヲ望ム者ハ服役滿期前一箇月間又滿期若クハ免役後三箇月間ニ之ヲ請願

ス可シ

第七條第二項追加

本人ノ伎倆及任務ノ必要ニ依リテハ前項ノ順序ニ拘ハラズ採用スルコトアルヘシ

第十一條 本則施行ニ要スル細則及伎倆證明書ノ規程ハ陸軍大臣之ヲ定ム可シ

朕明治二十三年徵集スヘキ新兵ノ員數表ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月三十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第八十七號(官報 六月二日)

明治二十三年徵集新兵員數表

所管	兵種	陸						水兵	火夫	計
		近衛	第一師團	第二師團	第三師團	第四師團	第五師團			
歩兵	騎兵	砲兵	工兵	輜重兵	輜重輪卒	水兵	火夫	計		
		一、六〇五	八二	一〇六	五〇	六〇	三六〇	一、八四三		
		一、九三六	八二	五四三	二〇	六〇	三六〇	三〇九一		
		一、九三七	四二	一九二	二〇	六〇	三六〇	二、七〇一		
		一、九三三	八二	一九二	二一	六〇	三六〇	二、七三八		
		一、九三二	八二	一九二	二〇	六〇	三六〇	二、七三五		
		一、九二〇	四四	一九二	二〇	六〇	三六〇	二、六八六		
		一、九二〇	八二	五四三	二〇	六〇	三六〇	三、〇七五		
海軍						八三五	四一	一、二四六		
總計		一、三、一八二	四九六	一、九六〇	七一	三六〇	二、一六〇	八三五	四一一	
								二〇、一一五		

對馬國ノ徵集相當者ハ悉皆現役ニ徵集スルヲ以テ本表ニ其員數ヲ掲ケス

朕地方官ヲシテ御料地ヲ管理セシムルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月三日

内務大臣伯爵西郷從道

勅令第八十八號(官報 六月四日)

地方長官ハ宮内大臣ノ委託ニ由リ御料地ヲ管理スヘシ其管理ニ係ル費用ハ皇室ノ支辨トス

朕陸軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月三日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八十九號(官報 六月四日)

陸軍編修官官制

第一條 兵要戰史地誌政表編修ノ業務ニ從事セシムル爲メ陸軍編修官ヲ置ク

第二條 陸軍編修官ハ陸軍大臣ノ管轄ニ屬シ其業務ニ關シテハ參謀總長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 陸軍編修官ヲ分テ陸軍編修及陸軍編修書記トス

第四條 陸軍編修ハ奏任トシ陸軍編修書記ハ判任トス

第五條 陸軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ

編修 四人

編修書記 十四人

朕海軍編修官官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月三日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第九十號(官報 六月四日)

海軍編修官官制

第一條 海軍ニ於テ戰史外國政誌及水路誌ノ編修ニ從事セシムル爲メ海軍編修官ヲ置ク

第二條 海軍編修官ハ海軍參謀部長及水路部長ノ指揮監督ヲ承ク

第三條 海軍編修官ヲ分テ海軍編修及海軍編修書記トス

第四條 海軍編修ハ奏任四等以下トシ海軍編修書記ハ判任トス

第五條 海軍編修官ノ定員ハ左ノ如シ

編修 二人

編修書記 十一人

朕法制局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月十一日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第九十一號(官報六月十二日)

法制局官制

第一條 法制局ハ内閣ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 内閣總理大臣ノ命ニ依リ法律命令案ヲ起草シ理由ヲ具ヘテ上申ス
- 二 法律命令ノ新定廢止改正ニ付意見アルトキハ案ヲ具ヘテ内閣ニ上申ス
- 三 各省大臣ヨリ閣議ニ提出スル所ノ法律命令案ヲ審査シ意見ヲ具ヘ又ハ修正ヲ加ヘテ内閣ニ上申ス

四 前項ニ掲グルモノ、外内閣總理大臣ヨリ諮詢アルトキハ意見ヲ具ヘテ上申ス

第二條 法制局ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	一人	勅任
部長	三人	勅任又ハ奏任一等
參事官	十五人	奏任
書記官	二人	參事官ヨリ兼ネシム
試補	六人	
關	三十八人	判任

第三條 奏任官ノ進退ハ長官之ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官ハ之ヲ專行ス

第四條 法制局ニ三部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一部 内務外務軍制及教育ニ關スル事項

第二部 財務勸業運輸及通信ニ關スル事項

第三部 民法商法訴訟法刑法治罪法恩赦其他司法ニ關スル事項

第五條 長官ハ法制局ニ屬スル一切ノ事務ヲ總管シ部長參事官ヲ統督ス

第六條 長官ハ各部ノ分掌ニ拘ラス臨時ニ調査委員ヲ命シ又ハ書記官ヲシテ議案ヲ調製セシムルコトヲ得

第七條 長官故障アルトキハ席次ニ依リ部長ヲ指定シテ長官ノ事務ヲ代理セシムヘシ

第八條 部長ハ各部ノ事務ヲ提掌シ部會議ヲ整理ス

第九條 法制局ニ於テ要用アルトキハ總會議ヲ開キ部長參事官合同會議シ長官議事ヲ整理シ主査ノ參事官又ハ書記官議案ヲ辯明ス

長官ハ臨時ニ部長ノ一人ヲ指定シテ議事整理ノ任ヲ代理セシムルコトヲ得

第十條 各省大臣ハ其ノ主務ニ係ル事件ニ關リ主任官ヲ差シテ法制局ノ總會議ニ參席シ辯明ヲ爲

サシムヘシ但表決ノ數ニ預ラス

各省大臣ハ自ラ參席スルコト隨意タルヘシ

第十一條 法制局ニ於テ要用アルトキハ各省ノ主任官ヲ呼出スコトヲ得



朕東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トナスノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月十一日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
文部大臣 芳川顯正
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第九十二號(官報 六月十二日)

東京農林學校ヲ帝國大學ノ分科大學トナシ明治十九年七月勅令第五十六號東京農林學校官制ヲ廢ス

朕帝國大學令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月十一日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
文部大臣 芳川顯正

勅令第九十三號(官報 六月十二日)

明治十九年三月勅令第三號帝國大學令中左ノ通改正ス

第十條中「及理科大學」トアルヲ「理科大學及農科大學」ト改ム

同條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

農科大學ヲ分テ農學科林學科及獸醫學科ノ三部トス

御名 御璽

明治二十三年六月十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

朕陸軍將校馬具制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

勅令第九十四號(官報 六月十三日)

陸軍將校馬具制中左ノ通改正ス

鞍囊外覆ノ部一段第八區畫ヲ「近衛騎兵下副官」ト改メ同區畫ノ下ヲ「本隊所用ノ鞍覆前部」ヲ用ヒ

櫻章ハ金色金物櫻花徑三寸左右各一箇ヲ附シ縁邊ハ茜絨線幅二寸一條ヲ附ス」ト改ム

備考中「鞍」ノ下ニ「近衛騎兵下副官」ハ「鞍」ノ十字ヲ加フ

「鞍囊外覆圖中」下副官ヲ「近衛騎兵下副官」ト改ム

朕參謀本部條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月十三日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第九十五號(官報 六月十四日)

參謀本部條例中左ノ通改正ス

第六條中及ノ下「書記」ノ二字ヲ削除ス

第十條中或ハノ下「文官」ノ二字ヲ「陸軍編修」ノ四字ニ改メ又之ニノ下「屬」ノ一字ヲ「陸軍編修書記」ノ六字ニ改ム

朕陸軍乘馬飼養條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月十三日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

勅令第九十六號 (官報 六月十四日)

陸軍乘馬飼養條例中左ノ通改正ス

第一條

八中 「工兵中隊長」ヲ「工兵生徒隊長」ニ改ム

九中 「砲工學校」ノ下「教導團」ノ三字ヲ加フ

十中 「師團」ノ上「近衛各」ノ三字ヲ加フ

十一ヲ削除シ十二ヲ十一トス

第二條

三中 「輜重兵」ノ上「工兵」ノ二字ヲ加フ

第六條削除

第七條中「本官ニ同シ」ノ下三十二字削除

第八條第九條削除

第十一條第一項但書ヲ左ノ如ク改ム

但癘疾斃死ニ罹ルトキハ相當ノ馬代金ヲ徵收シテ更ニ支給スルコトヲ得

第十四條削除

第十五條 各所管長官ハ委員ヲシテ本條例ニ依リ飼養ノ自馬ヲ臨時検査セシメ若シ軍用ニ堪ヘ難

シト認定シタルトキハ本人ニ命シテ更ニ適當ノ馬匹ヲ飼養セシムヘシ但委員所在地外ニ在テハ

臨時委員ヲ設ケ検査セシムルモ妨ナシ

第十六條 外國在勤若クハ留學將校ニハ本條例ヲ適用セス

第十七條 陸軍大臣ハ經理上ノ都合ニ依リ各官ノ職務ニ妨ナキ限りハ一時其飼養ヲ停ムルコトヲ

得



朕吳軍港境域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

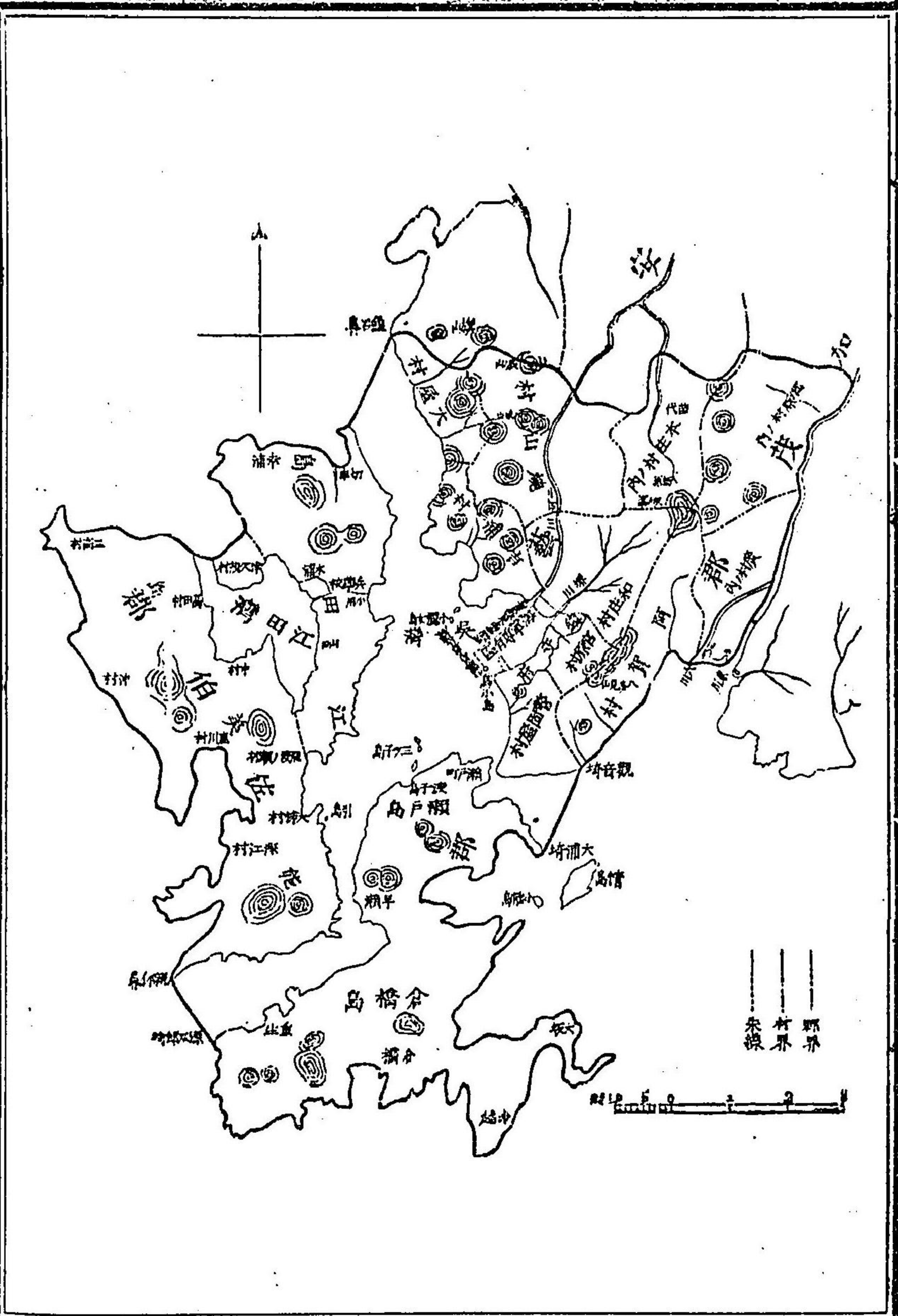
御名 御璽

明治二十三年六月十三日

海軍大臣 子爵 樺山資紀

勅令第九十七號 (官報 六月十四日)

吳軍港ノ境域ハ左圖ニ記スル黑線以内ト定メ其海軍專有區ヲ朱線以内ト定ム



吳軍港境域内ノ村落ハ左ノ如シ

安藝國安藝郡警固屋村宮原村和庄村莊山田村吉浦村饒山村大屋村江田島村瀬戸島村渡子島村倉橋島村

同國同郡本庄村ノ内字枋原字苗代

同國佐伯郡能美島諸村

同國賀茂郡阿賀村

同國同郡廣村及郷原村ノ内東川以西ノ地

朕茲ニ文官判任官以上ノ者退官賜金ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第九十八號(官報 六月二十一日)

文官判任以上ノ者在官滿一年以上十五年未滿ニシテ退官シタル者ニハ退官現時ノ俸給半箇月分ヲ以テ在官年數ノ一箇年ニ當テ其年數ニ應スル金額ヲ一時支給ス但非職滿期ニ由リ退官シタル者ハ其在職最終ノ俸給額ニ依リ之ヲ給ス
本令施行前ニ滿年賜金若クハ一時賜金ヲ受ケタル者又ハ前項ノ賜金ヲ受ケタル者再ヒ任官シ自後退官シタルトキハ前項ニ掲クル在官年數ヲ其再任ノ日ヨリ起算ス
恩給ヲ受クル者竝自己ノ便宜ニ由リ退官シタル者又ハ懲戒處分若クハ刑事裁判ニ由リ免官シタル

者ニハ本令ノ賜金ヲ給セス

本令ハ明治二十三年七月一日ヨリ施行ス

朕陸海軍軍人現役年限年齢ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

陸軍大臣伯爵大山 巖
海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第九十九號(官報六月二十一日)

第一條 陸海軍軍人左ニ掲クル年限ノ年齢ニ達スルトキハ現役ヲ退クヘシ

陸軍

中將	年限	七十年
少將 監督長	同	六十五年
軍醫總監	同	六十年
一等監督 軍醫監	同	五十七年
憲兵屯田兵大中佐	同	五十七年
二二三等監督 一二等軍醫正	同	五十七年
藥劑監 獸醫監	同	五十七年

步騎砲工輜重兵大中佐	年限	五十四年
憲兵屯田兵少佐 監督補	同	五十四年
一等軍吏 一等軍醫	同	五十四年
一等藥劑官 一等獸醫	同	五十四年
步騎砲工輜重兵少佐	同	五十四年
憲兵屯田兵大尉	同	五十四年
二等軍吏 二等軍醫	同	五十四年
二等藥劑官 二等獸醫	同	五十四年
一等軍樂長 砲工兵上等監護	同	五十四年
步騎砲工輜重兵大尉	同	五十四年
憲兵屯田兵中少尉 三等軍吏	同	五十四年
三等軍醫 三等藥劑官	同	五十四年
三等獸醫 二等軍樂長	同	五十四年
砲工兵監護 諸工長	同	五十四年
諸工下長	同	五十四年
步騎砲工輜重兵中少尉	同	五十四年
憲兵屯田兵下士 軍吏部下士	同	五十四年
衛生部下士 軍樂部下士	同	五十四年
步騎砲工輜重兵下士	同	五十四年
憲兵屯田兵卒 看護卒	同	五十四年
樂手補 雜卒 諸卒	同	五十四年

步騎砲工輜重兵卒	同	三十五年
海軍	同	三十五年
中將	同	六十五年
少將	同	六十五年
機技總監	同	六十年
軍醫總監	同	六十年
主計總監	同	六十年
大佐	同	六十年
機關大監	同	六十年
大技監	同	六十年
軍醫大監	同	六十年
主計大監	同	六十年
少佐	同	六十年
機關少監	同	六十年
少技監	同	六十年
軍醫少監	同	六十年
藥劑監	同	六十年
主計少監	同	六十年
上等兵曹	同	六十年
軍樂師	同	六十年
機關師	同	六十年
上等技工	同	六十年
船匠師	同	六十年
大尉	同	六十年
大機關士	同	六十年
大技士	同	六十年
大軍醫	同	六十年
大藥劑官	同	六十年
大主計	同	六十年
下士	同	六十年
少尉	同	六十年
少機關士	同	六十年
少技士	同	六十年
少軍醫	同	六十年
少藥劑官	同	六十年
少主計	同	六十年
卒	同	六十年

第二條 陸海軍軍人定限ノ年齢ニ達スルモ他人ヲ以テ代フヘカラサル職ニ在ルトキハ留任ヲ命スルコトアルヘシ

第三條 陸海軍軍人定限ノ年齢ニ達セサルモ現役十一年以上ニシテ現役ニ堪ヘサルトキハ將官ハ上諭ニ依リ上長官士官ハ陸海軍大臣准士官ハ所管長官旨ヲ諭シテ現役ヲ退カシムルコトアルヘシ

朕司法省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
司法大臣 伯爵山田顯義

勅令第百號 (官報 六月二十一日)

司法省官制

第一條 司法大臣ハ司法上ノ行政及警察並恩赦ニ關スル事務ヲ管理シ裁判ノ執行ヲ監査シ行政事務ニ付テ裁判所ヲ監督ス

第二條 司法省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム

- 一 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 - 二 裁判所附屬吏員及代言人ノ身分ニ關スル事項
 - 三 判事檢事巡回ニ關スル事項
- 第三條 司法省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第四條 司法省ニ左ノ諸局ヲ置ク

民事局

刑事局

會計局

第五條 民事局長及刑事局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第六條 民事局ニ於テハ民事ノ法律命令ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 刑事局ニ於テハ刑事ノ法律命令ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 會計局ニ於テハ本省會計事務並裁判所ノ豫算及決算ニ關スル事務ヲ掌ル

第九條 司法省試補ハ五人ヲ以テ定員トス

第十條 司法省屬ハ百六十人ヲ以テ定員トス

附則

第十一條 裁判所構成法實施ノ日ニ至ルマテ第三條ノ規程ニ拘ラス參事官七人書記官一人ヲ増置スルコトヲ得

○

朕文部省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
文部大臣 芳川顯正

勅令第五百一號 (官報 六月二十一日)

文部省官制

第一條 文部大臣ハ教育學問ニ關スル事務ヲ管理ス

第二條 文部省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外教科用圖書ノ檢定教育上必要ナル圖書ノ編纂及外國圖書ノ翻譯其他各局ノ所掌ニ屬セサル事務ヲ掌ラシム

第三條 文部省專任參事官專任書記官ハ各四人ヲ以テ定員トス

第四條 文部省ニ左ノ諸局ヲ置ク

專門學務局

普通學務局

會計局

第五條 專門學務局長及普通學務局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第六條 專門學務局ニ於テハ大學校中學校專門學校技藝學校高等圖書館學士會院學術會及學位ニ關スル事務ヲ掌ル

第七條 普通學務局ニ於テハ師範學校小學校幼稚園女學校普通圖書館教育會及通俗教育ニ關スル事務ヲ掌ル

第八條 會計局ニ於テハ本省及所轄學校ノ豫算決算及省中ノ會計事務並所轄ノ地所建物ニ關スル事項ヲ掌ル

第九條 文部省ニ視學官五人ヲ置キ奏任トシ專門學務局及普通學務局ニ屬シテ學事ノ視察及學校檢閱ノ事ヲ掌ラシム又課長ヲ兼テシムルコトヲ得

第十條 文部省ニ技師二人ヲ置キ會計局ニ屬シテ學校建築ニ關スル事ヲ掌ラシム
 第十一條 文部省ニ試補四人及技師試補一人ヲ置ク
 第十二條 文部省ニ屬百三十人及技手四人ヲ置ク

○
 朕農商務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
 農商務大臣 陸奥宗光

勅令第百二號(官報六月二十一日)

農商務省官制

- 第一條 農商務大臣ハ農、商工及水産、林野、鑛山、地質、發明、意匠及商標ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 大臣官房ニ於テハ通則ニ掲クルモノ、外褒賞ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第三條 農商務省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム
 - 一 農商工諮詢會ニ關スル事項
 - 二 圖書並報告書類ノ刊行及管理ニ關スル事項
 - 三 内外博覽會及共進會ニ關スル事項
 - 四 其他各局ノ主掌ニ屬セサル事項
- 第四條 農商務省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス
- 第五條 參事官ハ通則ニ掲クル事項ノ外臨時命ヲ承テ鑛山山林其他農商工ノ事ヲ巡視ス

第六條 農商務省ニ左ノ諸局ヲ置ク

- 農務局
- 商工局
- 山林局
- 鑛山局
- 特許局
- 會計局

第七條 農務局長商工局長及山林局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ鑛山局長特許局長及會計

局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第八條 農務局商工局及山林局ニ局長ヲ置ク

第九條 農務局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 農會及農業組合ニ關スル事項
- 二 農業及園藝ノ改良保護ニ關スル事項
- 三 農業土木及土地生産力ノ改良ニ關スル事項
- 四 農産物虫害豫防及驅除ニ關スル事項
- 五 蠶茶業ノ改良及組合ニ關スル事項
- 六 獸醫開業免許及試験ニ關スル事項
- 七 蹄鐵工開業免許及試験ニ關スル事項
- 八 免許獸醫及蹄鐵工ノ犯則處分ニ關スル事項
- 九 家畜家禽ノ衛生ニ關スル事項

- 十 牛馬籍ニ關スル事項
- 十一 狩獵免許ニ關スル事項
- 十二 家畜家禽及有益蟲類ノ蕃殖改良ニ關スル事項
- 十三 漁業組合ニ關スル事項
- 十四 漁業漁場ノ區域及監督ニ關スル事項
- 十五 漁具漁船漁法ノ改良及取締ニ關スル事項
- 十六 水産ノ蕃殖改良及水産物製造ノ改良ニ關スル事項
- 十七 鹽田ノ改良及保護ニ關スル事項
- 十八 農事及家畜家禽水産ニ係ル報告並統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十條 商工局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 商業會議所及商工同業組合ニ關スル事項
 - 二 度量衡ニ關スル事項
 - 三 商事會社ニ關スル事項
 - 四 商業仲立人及仲立人組合ニ關スル事項
 - 五 内外通商ニ關スル事項
 - 六 相場所ノ營業ニ關スル事項
 - 七 工場製造所ニ關スル事項
 - 八 保險營業ニ關スル事項
 - 九 商工業ニ係ル報告及統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十一條 山林局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 森林施業方按ニ關スル事項
- 二 林野ノ區域及境界ノ調査ニ關スル事項
- 三 官有林野ノ土地及物産ノ利用ニ關スル事項
- 四 官有林野ノ保護蕃殖ニ關スル事項
- 五 官有林野ノ土木ニ關スル事項
- 六 民有林ノ保護ニ關スル事項
- 七 保存林ニ關スル事項
- 八 林野臺帳調整ニ關スル事項
- 九 林野ニ係ル報告及統計ノ材料蒐集ニ關スル事項
- 第十二條 鑛山局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 鑛業ノ許否ニ關スル事項
 - 二 鑛區ノ境界及位置訂正ニ關スル事項
 - 三 鑛區ノ合併分割ニ關スル事項
 - 四 鑛業ノ保護ニ關スル事項
 - 五 鑛業ノ技術ニ關スル事項
- 第十三條 特許局ニ於テハ發明意匠及商標ニ關スル事項ヲ掌ル
 - 特許局ニ圖書館ヲ置キ審判及審査ニ關スル圖書見本及雛形ヲ保管セシム
- 第十四條 會計局ニ於テハ本省及各大林區署ノ豫算決算及省中ノ會計事務並所轄ノ地所建物ニ關スル事項ヲ掌ル
- 第十五條 農商務省特許局ニ專任審判官二人專任審査官七人ヲ置ク

審判官ハ奏任トス審判ノ事ヲ掌ル

○ 審査官ハ奏任トス審査ノ事ヲ分掌ス

第十六條 農商務省試補ハ五人ヲ以テ定員トス

第十七條 農商務省ニ技師十七人審査官補十二人及技手五十六人ヲ置ク

○ 審査官補ハ判任トス特許局ニ屬シ審査官ノ事務ヲ佐ク

第十八條 農商務省ニ技師試補十二人ヲ置ク

第十九條 農商務省屬ハ二百人ヲ以テ定員トス

○ 朕地質調査所官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第三百三號 (官報 六月二十一日)

地質調査所官制

第一條 地質調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 土性調査ニ關スル事項

二 主産植物及土性ノ關係試驗ニ關スル事項

三 地質ノ關係地層ノ構造及鑛床ノ驗定ニ關スル事項

四 有用鑛物ノ驗定ニ關スル事項

五 有用物料ノ分析試驗ニ關スル事項

六 地形測量ニ關スル事項

七 土性圖及其説明書編纂ニ關スル事項

八 地質圖及其説明書編纂ニ關スル事項

九 實測地形圖編製ニ關スル事項

第二條 地質調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人 奏任

技師 十八人

技師試補 六人

技手 二十五人

書記 五人 判任

第三條 所長ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ地質調査所全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 技師及技師試補ハ所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第六條 書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○

朕貨幣鑄造ニ要スル地金買入ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月 勅令 第四百四號

明治二十三年六月二十一日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第四百四號(官報六月二十三日)
貨幣鑄造ニ要スル地金銀銅白銅ノ買入ハ日本銀行ヲシテ之ヲ取扱ハシム此場合ニ於テハ競争ニ付セサルコトヲ得

○ 朕郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十一日

大藏大臣 伯爵松方正義
逓信大臣 伯爵後藤象二郎

勅令第四百五號(官報六月二十三日)

第一條 郵便爲替金及郵便貯金ヲ取扱フ出納官吏ハ明治二十三年勅令第四號第一條ノ制限ニ依ラス身元保證金ヲ納ムヘシ

第二條 三等郵便電信局及三等郵便局ノ前條出納官吏ニハ明治二十三年勅令第四號第二條ノ但書ヲ適用セス

第三條 會計規則第四百四條第五百五條及明治二十三年勅令第四號第六條ニ依リ大藏大臣ノ爲スヘキ職務ハ逓信大臣之ヲ行フヘシ

○ 朕大藏省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十四日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第四百六號(官報六月二十五日)

大藏省官制

第一條 大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ會計、出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ府縣都市町村ノ財務ヲ監督ス

第二條 大藏省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲グルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム

一 大藏省所管ノ收入經費及特別會計ノ計算書下検査ニ關スル事項

二 大藏省所屬出納官吏ノ身元保證及損失金辨償ニ關スル事項

三 大藏省所管營造物ノ監督ニ關スル事項

四 政府ノ特別資金ニ關スル事項

五 貨幣制度ニ關スル事項

六 訴訟ニ關スル事項

七 保護會社會計ノ監督ニ關スル事項

八 外國文書ノ翻譯ニ關スル事項

第三條 大藏省專任參事官ハ五人專任書記官ハ三人ヲ以テ定員トス

第四條 大藏省ニ左ノ諸局ヲ置ク

主計局

主稅局
關稅局
出納局
國債局
銀行局
預金局
會計局

- 第五條 主計局長主稅局長關稅局長及出納局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ國債局長銀行局長預金局長及會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス
- 第六條 主計局主稅局預金局及會計局ニ局次長ヲ置ク
- 第七條 主計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 總豫算總決算ニ關スル事項
 - 二 特別會計ノ豫算決算ニ關スル事項
 - 三 仕拂豫算ノ檢視ニ關スル事項
 - 四 歲入歲出現計書ノ調製ニ關スル事項
 - 五 主計簿ノ登記ニ關スル事項
 - 六 豫備金支出ニ關スル事項
 - 七 定額繰越過年度支出ノ承認及定額戻入年度開始前現金支出ノ檢視ニ關スル事項
 - 八 收入支出ノ科目ニ關スル事項
 - 九 收入支出ノ報告ニ關スル事項

- 十 出納官吏ノ監督ニ關スル事項
- 十一 出納官吏ノ身元保證ニ關スル事項
- 十二 國庫ヨリ下付スル金額ニ對シ府縣市町村ヨリ支出スヘキ金額ノ認可ニ關スル事項
- 十三 物品會計ニ關スル事項
- 第八條 主稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 內國稅ノ賦課ニ關スル事項
 - 二 內國稅ノ徵收ニ關スル事項
 - 三 內國稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 四 土地臺帳ニ關スル事項
 - 五 內國稅收入官吏ノ監督ニ關スル事項
 - 六 內國稅徵收費ノ仕拂豫算ニ關スル事項
 - 七 內國稅ノ收入計算書及徵收費ノ計算書下檢查ニ關スル事項
 - 八 印紙類ノ出納命令ニ關スル事項
 - 九 府縣稅市町村稅ニ關スル事項
- 第九條 關稅局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 海關稅則及關稅諸規則ノ施行ニ關スル事項
 - 二 海關稅務ノ管理監督ニ關スル事項
 - 三 海關稅及稅關諸收入ノ計算書下檢查ニ關スル事項
 - 四 海關稅率ノ調査ニ關スル事項
 - 五 外國貿易ノ形況調査及製表ニ關スル事項

- 六 保稅借庫及稅關倉庫ニ關スル事項
 - 七 海外貿易ノ船舶及納稅未濟品運漕ノ車艇取締ニ關スル事項
 - 八 特別輸出港ニ航行スル外國船雇入ニ關スル事項
 - 九 稅關ノ地所建物船舶其他ノ物件ニ係ル調査ニ關スル事項
- 第十條 出納局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國庫金ノ管理出納ニ關スル事項
 - 二 國庫金ノ運轉配賦ニ關スル事項
 - 三 國庫出納簿ノ登記ニ關スル事項
 - 四 金庫ノ管理監督ニ關スル事項
 - 五 國庫ノ出納計算書調製ニ關スル事項
 - 六 金庫出納役計算書ノ下檢査ニ關スル事項
 - 七 金庫ノ區域ニ關スル事項
- 第十一條 國債局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 公債ノ募集借入及償還ニ關スル事項
 - 二 公債原簿ノ登記ニ關スル事項
 - 三 紙幣、公債證書、大藏省證券及借入證書ノ取扱ニ關スル事項
 - 四 豫備紙幣、公債證書及大藏省證券用紙ノ出納命令ニ關スル事項
 - 五 國債計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 六 年金、恩給及諸祿ノ給與ニ關スル事項
 - 七 公債元利金、公債取扱手数料、年金、恩給及諸祿ノ仕拂豫算ニ關スル事項

- 八 國債費ノ支拂命令調製ニ關スル事項
 - 九 國債、恩給及諸祿計算書ノ下檢査ニ關スル事項
 - 十 府縣郡ノ公債及市町村ノ負債ニ關スル事項
- 第十二條 銀行局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 國立銀行、私立銀行其他特別ノ法律ニ據リテ設立シタル銀行ノ監理ニ關スル事項
 - 二 日本銀行兌換銀行券及國立銀行紙幣ニ關スル事項
 - 三 國立銀行紙幣用紙ノ出納命令ニ關スル事項
- 第十三條 預金局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 政府ニ於テ保管スル金錢、證券ノ受渡ニ關スル事項
 - 二 預金計算書ノ調製ニ關スル事項
 - 三 預金及預金利子仕拂元金ノ運用ニ關スル事項
 - 四 預金及預金利子仕拂元金ニ關スル證券ノ保管及出納ニ關スル事項
 - 五 預金簿ノ登記ニ關スル事項
 - 六 預金利子ノ計算ニ關スル事項
 - 七 預金利子仕拂元金ノ豫算決算調製ニ關スル事項
 - 八 預金利子仕拂元金ノ仕拂命令ニ關スル事項
 - 九 預金利子仕拂元金ノ收入ニ關スル事項
- 第十四條 會計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 大藏省所管經費ニ關スル豫定經費要求書、仕拂豫算決算報告書ノ調製及定額戻入、繰越、過年度支出ニ關スル事項

- 二 大藏省經費ノ仕拂命令調製ニ關スル事項
- 三 大藏省所管ノ收入ニ關スル事項
- 四 大藏省所用ノ官有財産ニ關スル事項
- 五 大藏省所用ノ物品保管及出納ニ關スル事項
- 六 工事及物件ノ賣買貸借ニ關スル事項
- 七 稅關經費ノ計算書下檢査ニ關スル事項
- 第十五條 大藏省ニ主計官八人主稅官七人ヲ置ク奏任トス各局ニ分屬シテ共事務ヲ掌リ局中各課ノ長ヲ兼メルコトヲ得
- 第十六條 大藏省試補ハ十人ヲ以テ定員トス
- 第十七條 大藏省屬ハ五百五十二人ヲ以テ定員トス

朕茲ニ技手官等俸給改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年六月二十四日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七號(官報六月二十五日)

技手ハ判任官一以下六等以上トシ其官等俸給ハ判任官官等俸給令ニ依ラシム
本令ハ本年七月一日ヨリ施行ス

朕内務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
内務大臣伯爵西鄉從道

勅令第八號(官報六月二十七日)

内務省官制

- 第一條 内務大臣ハ地方行政、議員選舉、警察、監獄、土木、衛生、地理、氣象、社寺、出版、版權、戶籍、賑恤及救濟ニ關スル事務ヲ管理シ中央衛生會警視總監及地方官ヲ監督ス
- 第二條 内務省ニ總務局ヲ置ク
- 第三條 内務省專任參事官ハ六人專任書記官ハ二人ヲ以テ定員トス
- 第四條 内務省參事官ハ通則ニ掲クル職務ノ外監獄巡閱ノ事ヲ掌ル
- 第五條 内務省ニ左ノ諸局ヲ置ク

- 縣治局
- 警保局
- 土木局
- 衛生局
- 地理局
- 社寺局
- 圖書局

會計局

第六條 縣治局長警保局長及土木局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ衛生局長地理局長社寺局長圖書局長及會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス

第七條 縣治局警保局土木局及會計局ニ局次長ヲ置ク

第八條 縣治局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 議員選舉ニ關スル事項
 - 二 府縣會、府縣經濟其他總テ府縣行政ニ關スル事項
 - 三 郡區會、郡ノ經濟其他總テ郡區行政ニ關スル事項
 - 四 市會町村會及市町村經濟其他總テ市町村行政ニ關スル事項
 - 五 府縣費ニ關スル事項
 - 六 賑恤及救濟ニ關スル事項
 - 七 府縣立以下ノ貧院、盲啞院、癲癩院、育兒院其他慈惠ノ用ニ供スル營造物ニ關スル事項
 - 八 徵兵及徵發ニ關スル事項
 - 九 地方行政事務ニシテ他ノ主管ニ屬セサル事項
- 第九條 警保局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 行政警察ニ關スル事項
 - 二 高等警察ニ關スル事項
 - 三 監獄ニ關スル事項
 - 四 假出獄及監視假免ニ關スル事項
- 第十條 土木局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 本省直轄ノ土木工事ニ關スル事項
 - 二 府縣經營ノ土木工事ノ監督ニ關スル事項
 - 三 河港道路其他公共ノ土木工事ニ關スル事項
 - 四 直轄工費及府縣工費ノ補助ニ關スル事項
- 第十一條 衛生局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 傳染病及地方病ノ豫防、種痘其他總テ公衆衛生ニ關スル事項
 - 二 檢疫停船ニ關スル事項
 - 三 醫師及藥劑師ノ業務並藥品賣藥取締ニ關スル事項
 - 四 地方衛生工事ノ監督ニ關スル事項
 - 五 地方衛生會及地方病院ニ關スル事項
- 第十二條 地理局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 官有地處分並管理ニ關スル事項
 - 二 土地收用ニ關スル事項
 - 三 地所名稱並地種目變換ニ關スル事項
 - 四 水面埋立ニ關スル事項
 - 五 氣象ニ關スル事項
- 第十三條 社寺局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 神宮、官國幣社、招魂社並神社格及古社寺保存ニ關スル事項
 - 二 神佛各派ノ教規、宗制並神職僧侶教師ノ身分、社寺其他宗教ノ用ニ供スル堂宇ノ存廢其他總テ宗教ニ關スル事項

第十四條 圖書局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 圖書出版及版權登錄ニ關スル事項
- 二 圖書保存ニ關スル事項
- 三 戸口及民籍ニ關スル事項
- 四 褒賞ニ關スル事項

第十五條 會計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 本省及所轄廳費ノ豫算決算省中ノ會計事務及所轄ノ地所建物ニ關スル事項
- 二 神社費及本省所轄ニ屬スル廳府縣等ノ豫算決算ニ關スル事項
- 第十六條 內務省ニ技師十二人技手二十九人ヲ置ク
- 第十七條 內務省試補ハ十八人ヲ以テ定員トス
- 第十八條 內務省ニ技師試補十六人ヲ置ク
- 第十九條 內務省屬ハ三百四十九人ヲ以テ定員トス

朕外務省官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十七日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
外務大臣 子爵青木周藏

勅令第百九號(官報六月二十八日)

外務省官制

第一條 外務大臣ハ左ノ事項ヲ掌管シ交際官及領事ヲ監督ス

- 一 海外各國ニ關スル政略ヲ施行スル事
- 二 外國ニ於ル帝國ノ商利ヲ保護シ及外國ニ於ル帝國ノ利害ニ關スル各般ノ事項ヲ諦察審案シテ適宜ノ處置ヲ爲ス事
- 三 外國ニ在留スル帝國臣民ノ業務其他ノ諸事ニ關シ彼我同一ノ保護ヲ得ル爲メ外國政府ト商辨スル事

第二條 外務省ニ總務局ヲ置キ通則ニ掲クルモノ、外左ノ事務ヲ掌ラシム

- 一 政略ニ關スル各般ノ商議條約及宣言ニ關スル事項
- 二 條約ノ決行ニ關スル事項
- 三 外國ニ在留スル帝國臣民ニ關スル事項及外國旅行券交付ニ關スル事項
- 四 外國臣民ノ攜帶スヘキ内地旅行免狀ノ交付ニ關スル事項
- 五 本省職員交際官及領事館員ノ進退身分ニ關スル事項
- 六 交際官ノ委任狀、赴任及再任國書、解任狀及御親書ニ關スル事項
- 七 帝國ニ駐在スル交際官ノ謁見及其待遇ニ關スル事項
- 八 外國交渉ノ儀式ニ關スル事項
- 九 帝國ニ駐在スル交際官並領事ノ名簿ニ關スル事項
- 十 外國人敘勳ニ關スル事項
- 十一 帝國ニ駐在スル各國領事ノ認可狀ニ關スル事項
- 十二 雇外國人ニ關スル事項
- 十三 外國人居留地外住居ニ關スル事項

- 十四 在本邦各國公使館地所並雇人鑑札ニ關スル事項
- 十五 内外人結婚ニ關スル事項
- 十六 在外公使及領事等ノ報告ヲ調査公刊スル事項
- 第三條 外務省ニ專任參事官ヲ置カス無任所外交官ヲ以テ之ニ補ス
- 第四條 外務省專任書記官ハ四人ヲ以テ定員トス
- 第五條 外務省ニ左ノ諸局ヲ置ク
 - 通商局
 - 取調局
 - 翻譯局
 - 會計局
- 第六條 通商局長取調局長ハ勅任二等以下又ハ奏任二等以上トシ翻譯局長及會計局長ハ奏任一等以下三等以上トス
- 第七條 通商局ニ局長ヲ置ク
- 第八條 通商局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 通商航海條約ノ締結ニ關スル事項
 - 二 内外交渉貨幣問題ニ關スル事項
 - 三 版權意匠及商標ノ保護ニ關スル條約締結ノ事項
 - 四 萬國電信郵便ニ關スル事項
 - 五 帝國公使館及領事館ニ於テ徵收スヘキ手数料ニ關スル事項
 - 六 帝國公使館及領事館ニ於テ海外旅券及内外各官衙ノ證書ヲ検査シ又ハ公認スルノ規則ニ關

スル事項

- 七 領事ノ權限ニ關スル事項
- 八 領事ノ委任狀ニ關スル事項
- 第九條 取調局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 萬國公法及萬國私法ニ關スル事項
 - 二 諸條約ノ解釋
 - 三 往復公書ニ起由シタル問題
 - 四 帝國政府ニ對スル外國人ノ訴願及詞訟並帝國臣民ノ外國政府ニ對スル訴願及詞訟
 - 五 交際官領事ノ特權及免稅ニ關スル事項
 - 六 犯罪者交付條約並該條約ニ起由スル問題
 - 七 在外帝國臣民ニ對シ帝國法律ノ施行ニ關スル事項
 - 八 帝國人民外國政府ニ勤仕シ外國人帝國政府ニ勤仕スル事件ニ關スル問題
 - 九 外國人ニ對スル帝國警察權ノ執行ニ關スル事項
 - 十 外國人居留地ノ取締ニ關スル事項
 - 十一 外國人追放ニ關スル事項
 - 十二 身分證書ノ檢閱認定及其交付ニ關スル事項
- 第十條 翻譯局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 法律規則ノ翻譯
 - 二 本省文書ノ翻譯
 - 三 官譯ノ例文文格ニ關シ帝國各官衙ノ質問ニ答ル事

- 第十一條 會計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 本省及在外公館ノ豫算決算金繰ノ出納諸帳簿ノ整頓並計算表ノ調整
 - 二 金繰出納ノ當否及各般證書ノ検査
 - 三 本省所轄ノ地所建物其他一切ノ需用品ニ關スル事務
- 第十二條 外務省ニ翻譯官八人ヲ置キ委任トス翻譯局ニ屬シテ其事務ニ從事セシム
- 第十三條 外務省試補ハ八人ヲ以テ定員トス
- 第十四條 外務省屬ハ百人ヲ以テ定員トス

朕陸軍武官等表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百十號(官報六月二十八日)
陸軍武官等表中各兵科下士ノ部左ノ通改正ス

下		士	
陸軍憲兵曹長	陸軍憲兵一等軍曹	陸軍憲兵二等軍曹	陸軍憲兵二等軍曹
陸軍步兵曹長	陸軍步兵一等軍曹	陸軍步兵二等軍曹	陸軍步兵二等軍曹
陸軍騎兵曹長	陸軍騎兵一等軍曹	陸軍騎兵二等軍曹	陸軍騎兵二等軍曹
陸軍砲兵曹長	陸軍砲兵一等軍曹	陸軍砲兵二等軍曹	陸軍砲兵二等軍曹
陸軍工兵曹長	陸軍工兵一等軍曹	陸軍工兵二等軍曹	陸軍工兵二等軍曹
陸軍輜重兵曹長	陸軍輜重兵一等軍曹	陸軍輜重兵二等軍曹	陸軍輜重兵二等軍曹
陸軍屯田兵曹長	陸軍屯田兵一等軍曹	陸軍屯田兵二等軍曹	陸軍屯田兵二等軍曹

陸軍騎兵曹長	陸軍騎兵一等軍曹	陸軍騎兵二等軍曹	陸軍騎兵二等軍曹
陸軍砲兵曹長	陸軍砲兵一等軍曹	陸軍砲兵二等軍曹	陸軍砲兵二等軍曹
陸軍工兵曹長	陸軍工兵一等軍曹	陸軍工兵二等軍曹	陸軍工兵二等軍曹
陸軍輜重兵曹長	陸軍輜重兵一等軍曹	陸軍輜重兵二等軍曹	陸軍輜重兵二等軍曹
陸軍屯田兵曹長	陸軍屯田兵一等軍曹	陸軍屯田兵二等軍曹	陸軍屯田兵二等軍曹
陸軍砲兵曹長	陸軍砲兵一等軍曹	陸軍砲兵二等軍曹	陸軍砲兵二等軍曹
陸軍工兵曹長	陸軍工兵一等軍曹	陸軍工兵二等軍曹	陸軍工兵二等軍曹
陸軍輜重兵曹長	陸軍輜重兵一等軍曹	陸軍輜重兵二等軍曹	陸軍輜重兵二等軍曹
陸軍屯田兵曹長	陸軍屯田兵一等軍曹	陸軍屯田兵二等軍曹	陸軍屯田兵二等軍曹
陸軍砲兵曹長	陸軍砲兵一等軍曹	陸軍砲兵二等軍曹	陸軍砲兵二等軍曹
陸軍工兵曹長	陸軍工兵一等軍曹	陸軍工兵二等軍曹	陸軍工兵二等軍曹
陸軍輜重兵曹長	陸軍輜重兵一等軍曹	陸軍輜重兵二等軍曹	陸軍輜重兵二等軍曹
陸軍屯田兵曹長	陸軍屯田兵一等軍曹	陸軍屯田兵二等軍曹	陸軍屯田兵二等軍曹

朕行政裁判所評定官ノ員數並書記ノ員數及職務ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月二十八日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第百一十一號(官報六月三十日)

- 第一條 行政裁判所評定官ノ定員ハ十一人トス
- 行政裁判所書記ノ定員ハ十五人トス
- 第二條 行政裁判所書記ハ行政裁判法其他法律勅令ニ於テ特定シタル事務ヲ取扱フ
- 第三條 行政裁判所書記ハ往復會計記録其他庶務ニ従事ス
- 第四條 行政裁判所書記ハ行政裁判所長官ノ命令ニ従フ
- 審判ニ關シテハ裁判長ノ命令ニ従フ

朕帝國遞信省ト貌列頓郵政院トノ間ニ郵便爲替改正定約ヲ締結セシメタルニ依リ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月三十日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
遞信大臣伯爵藤原義典

大日本帝國遞信省ト大貌列頓郵政院トノ間ニ締結セル改正郵便爲替定約

大日本帝國遞信省及大貌列頓郵政院ハ兩國間ノ現行爲替法ヲ改正セン事ヲ希望シ末尾ニ記名セル者ハ各其政府ノ命令ニ依リ左ノ條々ヲ締結セリ

- 第一條 大日本帝國及大貌列頓トノ間ニ每週郵便爲替ノ交換ヲ執行スヘシ
- 第二條 此締盟兩國間ノ爲替事務ハ總テ交換局ヲ經テ之ヲ取扱フヘシ日本ニ於テハ東京ヲ以テ交換局ト定メ英國ニ於テハ倫敦ヲ以テ交換局ト定ムヘシ
- 第三條 凡ソ爲替金額ハ雙方トモ英貨(ステルリング)ヲ以テ記載スヘシ而シテ此兩國間ノ貨幣相場ニ時々昇降アルカ爲ニ日本遞信省ハ適當ノ割合ヲ以テ爲替金額ヲ引直シ得ルコトヲ約ス即チ英國ニ爲替ヲ振出ス爲ニ日本遞信省ニ於テ受領シタル金額ハ時ノ貨幣相場ヲ以テ英貨ニ引直シ又英國ヨリ振出シタル爲替ノ金額ハ日本遞信省ニ於テ之ヲ拂渡ス前日本貨幣ニ引直スヘシ
- 第四條 兩國間ニ振出シ得ル爲替金額ハ一口七「ポンド」ヲ超過スヘカラス
- 「ペンニー」以下ノ端數ハ爲替トナスヲ得ス
- 第五條 公衆ニ爲替ヲ拂渡スニ方リ銀貨相場ノ昇降ヨリ拂高ニ異同ヲ生セサラシメンカ爲爲替金ハ總テ金貨若ハ金貨ニ最近ノ價格ヲ以テ之ヲ拂渡スヘシ
- 第六條 日本遞信省及英國郵政院ハ雙方共其振出ス爲替料ノ割合ヲ時々更定スルヲ得ヘシ其爲替料ハ總テ振出局ノ收入ニ歸スルモノトス但日本遞信省ハ日本ヨリ振出シ英國ニ於テ拂渡シタル爲替金總額ノ千分ノ五ノ歩合金ヲ英國ノ郵政院ニ支拂フヘシ又英國郵政院ハ英國ヨリ振出シ日本ニ於テ拂渡シタル爲替金總額ノ前同様ノ歩合金ヲ日本遞信省ニ支拂フヘシ
- 第七條 爲替ハ其請求者ヨリ差出人ノ氏名及受取人ノ宿所氏名又會社組合差出人ナレハ其名號受取人ナレハ其名號所在ヲ詳述スルニ非レハ之ヲ振出サ、ルヘシ但其請求者ヨリ差出人及受取人ノ名稱ヲ一層詳細ニ陳述セルトキハ其陳述スル通り通知スヘシ
- 第八條 爲替證書ノ不達紛失或ハ破損シタル場合ニ於テ其受取人ヨリ緊要ナル條件ヲ書面ニ認メ

爲替拂渡國ノ爲替本局ニ再度ノ爲替證書ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ此場合ニ於テ該局ハ再度ノ爲替料ヲ要求スルヲ得但郵便遞送中ニ證書ヲ紛失シタルトキハ此限ニアラス

第九條 受取人ヨリ緊要ノ條件ヲ認メ爲替拂渡ノ停止ヲ請求スルトキハ其拂渡ヲ停止スヘシ

第十條 爲替受取人若ハ差出人ノ氏名ニ誤謬アリテ其改正ヲ要シ或ハ差出人ニ於テ爲替金額ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ差出人ヨリ其爲替振出國ノ爲替本局ヘ申立ツヘシ此場合ニ於テハ該局ハ再度ノ手数料ヲ要求スルヲ得但爲替取扱吏員ノ過誤ニ起因スルモノハ此限ニアラス

第十一條 爲替金ハ初度ノ振出ト再度ノ振出トヲ論セス拂渡國ノ爲替本局ニ於テ未タ之ヲ拂渡サハルコトヲ證明シタル後ニアラサレハ振出國ニ於テ之ヲ差出人ニ拂戻サハルヘシ

第十二條 爲替ハ雙方振出シタル月ノ翌月ヨリ十二箇月間其効力ヲ有スルモノトス

右期限經過前ニ拂渡サハル爲替金ハ總テ其振出國ノ所得ニ歸スヘシ

第十三條 爲替交換局ハ各自ノ國ニ於テ先方ヘ拂渡ノ爲受取リタル爲替金額ヲ每週ノ郵便ヲ以テ互ニ通知スヘシ但此場合ニハ目錄甲號離形ヲ用フヘシ

通知スヘキ爲替ノ振出ナキ場合ニ於テハ每便空白ノ目錄ヲ送付スヘシ

目錄本書ノ紛失ヨリ不都合ヲ生セサラシメンカ爲兩局互ニ次便ヲ以テ前便ニ遞送シタル目錄ノ副本ヲ送付スヘシ

第十四條 目錄ニ記入スル爲替ニハ外國爲替番號ト稱スル特殊ノ番號ヲ附シ毎月第一號ヨリ始ムヘシ

目錄ハ其差立ノ順序ニ從ヒ第一第二第三等ノ番號ヲ附シ毎年第一號ヨリ始ムヘシ

第十五條 爲替目錄領收ノ旨ハ雙方共領收後始メテ遞送スヘキ目錄中ニ記入スヘシ而シテ受取交換局ニ目錄達セサルトキハ直ニ其差立局ニ請求スヘシ

此ノ如キ場合ニ於テハ差立交換局ハ遲滞ナク目錄副本ヲ新製シテ其正當ノモノタルコトヲ證明

シ之ヲ受取交換局ヘ送付スヘシ

第十六條 爲替目錄ハ其受取交換局ニ於テ丁寧ニ之ヲ査閲シ其誤謬ノ明白ナルモノハ之ヲ訂正スヘシ而シテ其校正ノ點ハ校正セシ目錄受領書ニ記載シテ之ヲ差立交換局ニ通知スヘシ

其他目錄中不正ノ記入アルトキハ受取交換局ハ差立交換局ニ對シ説明ヲ求ムヘシ而シテ差立局ハ可成速ニ之ニ應スヘシ尤モ右誤謬アル爲替ハ其照會中内國拂渡爲替ノ振出ヲ停止スヘシ

第十七條 爲替目錄ノ受取交換局ニ到達次第該局ニ於テ目錄ニ照シ受取人ヘ宛拂渡國ノ貨幣ニテ相當ノ金額ニ對スル内國爲替ヲ發行シ兩國共ニ現行内國爲替拂渡規則ニ從ヒ受取人若クハ拂渡局ヘ送付スヘシ

第十八條 日本ヨリ一箇月分ノ目錄ヲ差立次第日本遞信省ハ附録乙丙及丁號表ニ從テ月次總計表ヲ調製シ而シテ丁號表ノ半面ニハ同月間日本ヨリ發シ各目錄ノ總金額ト此定約第六條ニ定メタル千分ノ五ノ歩合金竝ニ同月間英國ニテ拂戻スヘキ爲替金額及沒收(第十二條)ノ爲替金額トヲ以テ英國ノ貸高トシテ之ヲ記入スヘシ

又他ノ半面ニハ同月間英國ヨリ受取リタル各目錄ノ總金額ト此定約第六條ニ定メタル千分ノ五ノ歩合金竝ニ同月間日本ニテ拂戻スヘキ爲替金額及沒收(第十二條)ノ爲替金額トヲ以テ日本ノ貸高トシテ之ヲ記入スヘシ

右ノ對算ヨリ生スル差引殘額ハ總計表差引項目部中ニ記載スヘシ

此手續ハ毎年一月ヨリ十一月迄ノ間之ヲ履行シ十二月分ノ月次總計表ニハ其年一月ヨリ十二月三十一日迄ニ日本ヨリ英國ヘ振出シタル爲替總額ト英國ヨリ日本ヘ振出シタル爲替總額トヲ合記スヘシ

此月次總計表ハ二通ヲ調製シ日本遞信省ヨリ英國郵政院ニ送付スヘシ但其一通ハ承諾ノ上日本遞信省ニ返付スヘシ

第十九條 日本遞信省ヨリ總計算ノ差引殘額ヲ支拂フトキハ總計表ト同時ニ之ヲ遞送スヘシ又英國郵政院ヨリ差引殘額ヲ支拂フトキハ總計表ノ一通ヲ返付スルト同時ニ之ヲ遞送スヘシ

此差引殘額日本ノ貸高トナリタルトキハ東京若ハ橫濱ヘ宛又英國ノ貸高トナリタルトキハ倫敦ヘ宛支拂フヘシ但此支拂ハ之ヲ受取ル國ノ貨幣ヲ用フヘキモノトス

第二十條 日本遞信大臣及英國郵政院長ハ此定約ニ抵觸セサル限リハ詐偽防禦ノ爲若ハ爲替事業改良ノ爲附加條目ヲ設クルヲ得ヘシ

但甲國ニ於テ此附加條目ヲ設ケタルトキハ之ヲ乙國ノ郵政廳ニ通知セサルヘカラス
第二十一條 日本若ハ英國ノ商人ノ此爲替ヲ以テ金員ヲ遞送スルモノ夥多ニシテ隨テ其金員巨額ニ至ルトキハ兩國ノ郵政廳ニ於テ其爲替料ヲ增加シ若ハ一時全ク其振出ヲ停止スルヲ得ヘシ

第二十二條 此定約ハ兩國間ノ爲替交換ニ關スル從前ノ諸定約ニ代ヘ千八百九十年七月一日ヨリ實施シ甲國ヨリ乙國ヘ廢止ノ報知ヲ爲シタル日ヨリ十二箇月間効力ヲ有スヘシ
此定約ハ二通ヲ調製シ一通ハ明治二十三年五月二十日東京ニ於テ記名調印シ一通ハ千八百九十年三月二十一日倫敦ニ於テ記名調印スルモノナリ

大日本帝國遞信大臣 後 藤 象 二郎
大貌列頓郵政院長 ヘンリー・セシル・レーキス

英國ヨリ振出シ日本居住人ニ拂渡ス
ヘキ爲替金額總計何磅何志何片ノ千八百何年第何號目錄正ニ領收致候

形 局印
爲替目錄

日本金額	英國金額	於網注	ニノ拂渡名	局用拂渡番號	英國使替番號	爲替番號	振出番號	爲替番號	振出番號	差出入宿所及ヒ氏名	受取人氏名	受取人宿所
總計												

形 局印
目錄第 號 甲 號 離
日本ヨリ振出シ英國ニ於テ拂渡スヘキ

甲 號 離 形 局印

日本ニ於テ拂渡スヘキ爲替目錄

受取人宿所	英國貨幣金額	日本貨幣金額	於網注	ニノ拂渡名	局用拂渡番號	英國使替番號	爲替番號	振出番號	爲替番號	振出番號	差出入宿所及ヒ氏名	受取人氏名	受取人宿所
總計													

當番ヨリ最後ノ目錄第何號差立後英國ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ爲メ領收致候金額ノ明細計算書今便差進候條御查收有之度候也
於東京 千八百何年 遞信省 倫敦 爲替局 御中
日本ヨリ振出シ英國內居住人ニ拂渡スヘキ千八百何年第何號爲替金額總計何磅何志何片ノ目錄正ニ領收致候當局ヨリ最後ノ目錄第何號差立後日本ニ於テ拂渡スヘキ爲替ノ爲メ領收

目錄第 號

乙 號 離 形

千八百九十年第 月

英國及英國以外ヨリ振出シ

申振出國ニ於テ差出人ヘ拂戻シタル爲替ノ目錄

リ振出シタル爲替		日本ヨリ振出シタル爲替		振出月日	外國爲替番號	爲替番號	振出局名	差出人宿所及ヒ氏名	受取人氏名
振出局名	金額	月日	爲替番號	振出局名	金額				
	圓 占 片				圓 占 片				
總計				總計					

八百九十年 日本 遞信省

致候金額ノ明細計算書今便差進候條
御查收有之度候也
於倫敦
千八百何年 爲替局

東京 遞信省
御中

丙 號 離 形

千八百 年 第 月

爲替振出ノ月ヨリ滿十二ヶ月内ニ拂渡サスシテ効力ヲ失ヒタル爲替ノ目錄

第 月

英國ヨリ振出シタル爲替				日本ヨリ振出シタル爲替				英國ヨ	
月日	爲替番號	振出局名	金額	月日	爲替番號	振出局名	金額	月日	爲替番號
			圓 占 片				圓 占 片		
			總計				總計		

東京千八百九十 年 日本 遞信省 東京千

形 雜 號 丁
 月 第 年 百 八 千
 日本帝國ト大英國トノ間ニ交換シタル爲替ノ總計表

日本國ノ貸高				英國ノ貸高			
金額				金額			
		圓	分			圓	分
英國ヨリ提出シ日本ニ於テ	仕拂フヘキ爲替金額	目録第	號	日本ヨリ提出シ英國ニ於テ	仕拂フヘキ爲替金額	目録第	號
"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"
"	"	"	"	"	"	"	"
歩合金千分ノ五				歩合金千分ノ五			
拂戻爲替ノ金額				拂戻爲替ノ金額			
効力ヲ失ヒタル爲替ノ金額				効力ヲ失ヒタル爲替ノ金額			
日本ノ貸高 總計				英國ノ貸高 總計			
差引英國へ支拂フヘキ高				差引日本へ支拂フヘキ高			

東京千八百九十 年

日本 逓 信 省

朕 逓 信 省 官 制 ノ 改 正 ヲ 裁 可 シ 茲 ニ 之 ヲ 公 布 セ シ ム

御 名 御 璽

明治二十三年六月三十日

内閣總理大臣 伯 爵 山 縣 有 朋
 逓 信 大 臣 伯 爵 後 藤 象 二 郎

勅令第百十二號(官報 七月一日)

逓 信 省 官 制

- 第一條 逓信大臣ハ郵便、電信、航路標識及船舶海員ニ關スル事務ヲ管理ス
- 第二條 逓信省ニ總務局ヲ置カス
- 第二條 逓信大臣官房ハ通則ニ揭クル官房及總務局掌理事務ノ外左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 理財ニ關スル事項
 - 二 會計ノ下檢査ニ關スル事項
 - 三 廳舎建築ニ關スル事項
 - 四 物品ノ購買賣却ニ關スル事項
 - 五 電信及航路標識用品製作ノ管理ニ關スル事項

第四條 逓信省ニ左ノ諸局ヲ置ク

- 郵務局
- 電務局
- 管船局

燈臺局
會計局

- 第五條 郵務局ハ郵便ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第六條 電務局ハ電信ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第七條 管船局ハ船舶海員ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第八條 燈臺局ハ航路標識ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第九條 會計局ハ金錢物品ノ出納管守ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第十條 郵務局長及電務局長ハ勅任二等又ハ奏任二等以上トシ管船局長燈臺局長及會計局長ハ奏任一以下三等以上トス
- 第十一條 遞信省專任參事官ハ二人專任書記官ハ六人ヲ以テ定員トス
- 第十二條 郵務局及電務局ニ局次長ヲ置ク
- 第十三條 遞信省ニ通信事務官八人ヲ置ク通信事務官ハ郵便、電信又ハ計算ノ事務ヲ分掌シ若クハ郵務局及電務局ノ課長ヲ兼テ課務ヲ掌理ス
- 通信事務官ハ奏任四等以下トス
- 第十四條 遞信省ニ司檢官十人及司檢官補十一人ヲ置ク司檢官ハ管船局ニ屬シ海員水先人ノ試験、審問、船舶ノ検査測量及新造船ノ工事監督ヲ掌リ司檢官補ハ管船局ニ屬シ司檢官ノ事務ヲ佐ク
- 司檢官ハ奏任トシ司檢官補ハ判任トス
- 第十五條 遞信省ニ技師十二人技手二百五十六人ヲ置ク
- 第十六條 遞信省ニ試補二人ヲ置ク

第十七條 遞信省ニ屬シ二百九十八人ヲ置ク

朕郵便爲替貯金局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月三十日

內閣總理大臣伯爵山縣有朋
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第四百十三號(官報 七月一日)

郵便爲替貯金局官制

- 第一條 郵便爲替貯金局ハ遞信大臣ノ管理ニ屬シ郵便爲替及郵便貯金ニ關スル事務ヲ掌ル
- 第二條 郵便爲替貯金局ニ左ノ職員ヲ置ク
局長 一人
事務官 三人
書記 百七十八人
書記補 四百十八人
- 第三條 局長ハ奏任一以下三等以上トス遞信大臣ノ命ヲ承ケ局中ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 事務官ハ奏任四等以下トス局長ノ指揮ヲ承ケ局中ノ事務ヲ分掌ス
- 第五條 書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事務ニ從事ス
- 第六條 書記補ハ判任六等トス書記ノ事務ヲ助ク

第七條 遞信大臣ハ必要ト認ムル地ニ便宜郵便爲替貯金分局ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

朕内閣所屬職員官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年六月三十日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第四百十四號(官報七月一日)

内閣所屬職員官制

第一條 内閣所屬ノ職員左ノ如シ
書記官長
恩給局長
記録局長
統計局長
官報局長
會計局長
書記官
内閣總理大臣祕書官
恩給局審査官

試補

屬

技手

第二條 書記官長ハ勅任トシ各局長ハ奏任一等以下三等以上トシ書記官祕書官及審査官ハ奏任トス

第三條 書記官長ハ命ヲ内閣總理大臣ニ承ケ機密ノ文書ヲ管掌シ閣内ノ庶務ヲ統理シ及屬以下ノ任免ヲ專行ス

第四條 各局長ハ事ヲ内閣總理大臣ニ承ケ又ハ内閣書記官長ノ指揮ニ從ヒ局務ヲ掌理シ所屬僚員ヲ統督ス

第五條 恩給局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一 恩給及扶助料ヲ受クヘキ資格及權利ノ審査竝裁決ニ關スル事項
二 恩給及扶助料ノ支給ニ關スル事項

第六條 記録局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 大日本帝國憲法及法律勅令ノ原本ノ保存竝内閣記録ノ編纂及出納ニ關スル事項
二 内閣所管圖書ノ類別購買保存及出納竝其目錄調製ニ關スル事項
三 内閣所用圖書ノ出版ニ關スル事項

第七條 統計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 諸般ノ統計表編製ニ關スル事項
二 統計材料ノ様式ニ關スル事項
三 統計材料ノ徵集ニ關スル事項

- 四 各官廳統計主任ノ招集及會議ニ關スル事項
- 五 内外統計表ノ交換ニ關スル事項
- 第八條 官報局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 官報ノ編輯印刷發賣及配送ニ關スル事項
 - 二 官報ニ登載スヘキ外國文書ノ翻譯ニ關スル事項
 - 三 法令全書ノ編輯及發賣ニ關スル事項
 - 四 官報及法令全書ノ諸收入並納付ニ關スル事項
- 第九條 會計局ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
 - 一 内閣ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
 - 二 内閣所用ノ地所建物ニ關スル事項
- 第十條 書記官ハ機密文書ノ保存公文ノ查閱起草淨寫及受授ニ關スル事務ヲ掌ル專任書記官ハ四人ヲ以テ定員トス
- 第十一條 内閣總理大臣祕書官ハ大臣官房ニ關スル事務ヲ掌ル專任祕書官ハ二人ヲ以テ定員トス
- 第十二條 恩給局審査官ハ恩給局ノ事務ヲ掌ル專任審査官ハ二人ヲ以テ定員トス
- 第十三條 試補ハ二人ヲ以テ定員トス
- 第十四條 屬ハ百五十人ヲ以テ定員トス
- 第十五條 技手ハ五人ヲ以テ定員トス
- 第十六條 内閣所屬ノ高等官ハ本務ノ外閣内各局ノ事務ヲ兼勤スルコトアルヘシ

朕海軍監獄則ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月三日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第四百十五號(官報 七月四日)

海軍監獄則

- 第一條 海軍監獄ヲ別テ左ノ三種トス
 - 一 監倉 刑事被告人ヲ拘禁又ハ留置スル所トス但東京ノ監倉ニ於テハ拘留及十日以下ノ禁錮ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルコトヲ得
 - 二 輕禁錮場 輕禁錮若クハ拘留ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スル所トス又懲治人ヲ一時留置スルコトヲ得但他ノ拘禁者ト區別ス可シ
 - 三 重禁錮場 重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ヲ拘禁スルノ所トス
- 第二條 海軍監獄ハ海軍大臣ノ監督ニ屬ス
- 第三條 海軍大臣ハ隨時部下ノ高等官ニ命ジ各監獄ヲ巡閱セシム可シ
- 第四條 鎮守府司令長官ハ毎年一回以上所轄ノ監獄ヲ巡視ス可シ
- 第五條 判士長判士ハ時々監倉ヲ巡視ス可シ
- 主理ハ時々監獄ヲ巡視ス可シ
- 第六條 新ニ入監スル者アルトキハ司獄官先ツ令狀又ハ宣告書ヲ查閱シテ之ヲ領シタル後入監セシム可シ其文書ナキ者ハ之ヲ入監セシムルコトヲ得ス

第七條 入監ノ婦女ハ男子ト監房ヲ別異ス可シ若シ其子ヲ乳養セント請フトキハ其齡滿三歲ニ至ル迄之ヲ許ス

第八條 入監人ノ携有スル財貨物件ハ司獄官悉ク點檢シテ之ヲ領置ス可シ

第九條 囚人及刑事被告人ハ左ノ區別ニ從ヒ其監房ヲ別異ス

一 准士官以上ノ軍人及同等ノ軍屬並各候補生生徒

二 下士及同等以下ノ判任軍屬

三 卒及等外ノ軍屬

以上ノ區別内ニ於テ尙ホ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別シ監房ヲ別異ス可シ

刑事被告人ニ就キ當該主理ノ指示アルトキ亦其監房ヲ別異ス可シ

第十條 水火風震等非ノ變災ニ際シ監獄園内ニ於テ避災ノ手段ナシト考定スルトキハ司獄官其形勢ヲ量リ囚人及刑事被告人ヲ他所ニ押送シ其災ヲ避ケシム可シ若シ押送スルノ違ナキトキハ一時之ヲ解放スルコトヲ得

解放ニ遭ヒタル者ハ其時ヨリ二十四時以内ニ監署衛兵憲兵部又ハ警察署ニ其旨ヲ申出ツ可シ

第十一條 刑期滿限ノ者ヲ解放スルハ滿期ノ翌日午前第十時ヲ過ク可カラズ

第十二條 囚人及刑事被告人ヲ押送スルトキハ時宜ニ依リ戒具ヲ用フルコトヲ得

第十三條 監倉禁錮場ノ共ニ一區域内ニ在ルモノハ墻壁ヲ以テ之ヲ區畫ス可シ

第十四條 死刑場ハ監獄最近ノ練兵所若クハ射的所等ニシテ發銃ニ障礙ナキ所ヲ撰定ス可シ

第十五條 定役ニ服ス可キ囚人ノ作業ハ其體力ニ應シ之ヲ課ス可シ

第十六條 左ニ記載シタル日ハ定役ヲ免ス

一月一日 一月二日 元始祭 孝明天皇祭

紀元節 春季皇靈祭 神武天皇祭 秋季皇靈祭

神嘗祭 天長節 新嘗祭 十二月三十一日

第十七條 役場ハ丁年以上ノ者ト未丁年者トヲ區別ス可シ

第十八條 囚人及刑事被告人逃走シ監署ニ領置ノ貨物アルトキハ逃走ノ日ヨリ滿一箇年ヲ經テ受クヘキ者ナキトキハ之ヲ沒收ス刑死者死亡者ノ領置貨物ニシテ受クヘキ者ナキトキ亦同シ

第十九條 囚人及刑事被告人監署ニ領置ノ貨物ヲ以テ其父母妻子ノ扶助及正當ノ費用ニ充ント請フトキハ司獄官其事情ヲ取糺シテ之ヲ許可ス可シ

刑事被告人ニ係ルトキハ當該主理ノ允許ヲ經可シ

第二十條 刑事被告人及拘留囚自衣ヲ著セント請ヒ又ハ刑事被告人寢具食糧ヲ自辨セント請フ者アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

第二十一條 囚人及刑事被告人陸海軍刑法陸海軍治罪法及刑法治罪法ヲ看ント請フトキハ之ヲ許ス

第二十二條 囚人書籍ヲ看ント請フトキハ其職務若クハ修身ニ必要ナルモノニ限り之ヲ許ス

第二十三條 囚人其親屬故舊ニ信書ヲ發スルハ二月間ニ一次トシ一通ニ過ルコトヲ得ス但官司ノ訊問等ニ由テ信書ヲ要スルトキ又ハ親屬故舊ニ回答セント請ヒ司獄官之ヲ必要ト認メタルトキハ此限ニ在ラス

第二十四條 囚人及刑事被告人ノ發スル信書又ハ外人ヨリ送リ來ル信書ハ司獄官之ヲ檢閲ス可シ

若シ書中不正不長ニ涉リ又ハ其改悛ヲ妨グルモノト認ムルトキハ之ヲ發送付與スルコトヲ許サ

第二十五條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

第二十六條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

第二十七條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

第二十八條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

第二十九條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十一條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

第三十二條 囚人及刑事被告人ニ接見セント請フ者アルトキ司獄官ニ於テ已ムヲ得サルノ事情アルトキハ之ヲ許スコトヲ得

リト認ムルトキハ之ヲ許ス

死刑ノ執行以前又ハ地方監獄ニ押送以前ニ係ル囚人ニ接見セント請フ者アルトキハ之ヲ許ス但
司獄官ニ於テ形跡ノ疑フヘキアリト認ムルトキハ此限ニ在ラス

第二十六條 囚人及刑事被告人疾病ニ罹ルトキハ病狀ノ輕重ヲ量リ其監房若クハ病室ニ於テ醫療
セシム

第二十七條 囚人及刑事被告人死亡シタルトキハ司獄官醫官會同驗屍ス可
驗屍畢レハ死亡證書ヲ副ヘ本人所管ノ長官ニ申報シ軍人軍屬ニ非サルトキハ其市町村長ニ通知
ス可シ

第二十八條 軍人軍屬ノ死體ハ海軍ノ常例ニ依テ處分ス軍人軍屬ニ非サル者ノ死體ハ死亡若クハ
死刑執行ノ時ヨリ二十四時内ニ請フ者アルトキハ之ヲ下付シ請フ者ナキトキハ之ヲ假葬シ其氏
名ヲ記シタル木標ヲ建ツ可シ

第二十九條 刑事被告人ニ其親屬故舊ヨリ書類書籍寢具衣服用紙其他必要ノ物品又ハ飲食物ヲ贈
ラント請フトキハ之ヲ許ス但書類書籍ハ主理ノ檢閲ヲ受ク可シ
囚人ニハ衣服書籍及用紙ノ外差入ヲ許サス但衣服ハ下著襦袢ノ類ニ限り書籍ハ第二十二條ニ記
載シタル制限ニ從フ

第三十條 囚人獄則ヲ謹守シ且悔改ノ行爲著キ者ト司獄官ニ於テ認ムルトキハ之ヲ賞譽ス可
シ

賞譽セシ者ニハ其賞譽每ニ之ヲ表スル爲メ賞表ヲ與ヘ獄衣ニ縫著セシム可シ
賞表ハ假出獄若クハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲スコトヲ得

第三十一條 囚人獄則ヲ犯シタルトキハ其輕重ヲ量リ左ノ例ニ從テ處罰ス

一 絶信

二 屏禁 晝夜他ノ監房又ハ工場ト隔絶シタル監房ニ獨居セシム

三 減食 乾麵包五十匁若クハ麵包六十匁ヲ最下限トシ單ニ一品ヲ給ス

四 閉室 閉室ニ入レ減食シ仍ホ寢具ヲ禁ス

絶信屏禁ハ有限若クハ無限ト爲シ減食ハ七晝夜以内閉室ハ五晝夜以内トス

第三十二條 減食若クハ閉室ノ罰ニ處ス可キ者アルトキハ醫官ヲシテ診視セシメ身體ニ妨ナキヲ
證シテ後之ヲ行フ可シ其處罰中ハ醫官ヲシテ毎日之ヲ視察セシメ醫官ニ於テ身體ニ妨アルヲ證
スルトキハ處罰ヲ中止ス可シ

第三十三條 刑事被告人及拘留ノ刑ヲ受ケタル者獄則ヲ犯シタルトキハ其輕重ヲ量リ第三十一條
ニ準擬シ減食スルコトヲ得

第三十四條 賞表ヲ有スル者罰ニ處セラレタルトキハ其情狀ニ因リ賞表一箇又ハ數箇ヲ褫奪スル
コトアル可シ

第三十五條 獄則ヲ犯シ罰ニ處セラレシ者悔改ノ情著シキトキハ罰期内ト雖モ之ヲ免スルコトヲ
得

第三十六條 囚人及刑事被告人司獄官吏ノ處置ニ對シ情苦ヲ訴ヘントスルトキハ第三條第四條及
第五條ニ記載レタル官吏巡閱ノ際封書又ハ口述ヲ以テ申告スルコトヲ得

第三十七條 此規則ヲ施行スル方法細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

第三十八條 艦内ニ於テ囚人及刑事被告人ヲ處置スルハ亦此規則ニ從フ可シ但實際已ムヲ得サル
場合ニ於テハ艦船長適宜之ヲ處置スルコトヲ得

朕富岡製絲所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月三日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第一百十六號(官報 七月四日)

富岡製絲所官制

第一條 富岡製絲所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ製絲ノ事業ヲ經營シ其ノ改良ヲ圖リ及之ニ關スル必要ノ事務ヲ處理スルコトヲ掌ル

第二條 富岡製絲所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長 一人

屬 六人

技手 五人

第三條 所長ハ委任二等以下トス農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全部ノ事ヲ掌理ス

第四條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算ノ事ニ從事ス

第五條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ製絲ニ關スル技術ニ從事ス

朕出雲大社神職増置ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月三日

内務大臣伯爵西郷從道

勅令第一百十七號(官報 七月四日)

官幣大社出雲大社へ左ノ神職ヲ増置ス

權宮司

權宮司ハ内務省ニ於テ之ヲ補ス

權宮司ハ奏任ノ待遇ヲ受ケ宮司ノ次トス

朕陸軍乘馬本分ノ將校へ官馬拂下ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第一百十八號(官報 七月五日)

陸軍乘馬飼養條例ニ定ムル乘馬本分ノ將校へハ會計法第二十四條ニ規定スル競争ノ方法ヲ用ヒス
官馬ヲ拂下ルコトヲ得

朕北海道廳官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月五日

内閣總理大臣 伯喬山縣有朋
内務大臣 伯喬西郷從道

勅令第百十九號(官報七月七日)

北海道廳官制

- 第一條 北海道廳ニ左ノ職員ヲ置ク
- 長官 一人
 - 理事官 三人
 - 參事官 二人
 - 技師 十三人
 - 技師試補 三人
 - 屬 百五十人
 - 技手 八十人
 - 警部警部補 四十二人
- 第二條 北海道廳ニ左ノ郡區官ヲ置ク
- 郡長 二十人
 - 區長 二人
 - 郡書記 百三十人
 - 區書記 三十人
- 第三條 北海道廳ニ左ノ監獄官ヲ置ク
- 典獄 六人

副典獄 六人

書記 六十二人

看守長 百五人

監獄醫 十五人

第四條 長官ハ勅任トス内務大臣ノ指揮監督ニ屬シ各省ノ主務ニ就テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承

ケ法律命令ヲ執行シ北海道ノ拓地殖民並部内ノ行政及警察ニ關スル一切ノ事務ヲ統理ス

第五條 長官ハ屯田兵ノ開墾授産ノ事ヲ監督ス

第六條 長官ハ北海道ノ事務ニ付其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ法律命令ノ範圍内ニ於テ管内一

般又ハ其一部ニ廳令ヲ發スルコトヲ得

第七條 廳令ハ内務大臣其他主務ノ大臣ニ於テ公益ヲ害シ成規ニ違ヒ又ハ權限ヲ犯スモノアリト

認ムルトキハ之ヲ取消シ又ハ中止スルコトアルヘシ

第八條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルトキハ師團長旅團

長及屯田兵司令官ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第九條 長官ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十條 長官ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所部ノ官吏ヲ懲戒ス其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大

臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十一條 長官ハ須要ニ從ヒ判任官俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第十二條 長官ハ一週年末ニ其廳豫算定額内ニ於テ奏任官以下特別ノ勤勞アルモノヲ賞與スルコ

トヲ得其奏任官ニ係ルモノハ之ヲ内務大臣ニ具狀シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

第十三條 長官ハ毎年所轄事業ノ情況及其處務ノ方法並功程ヲ具ヘ内務大臣ニ報告スヘシ

第十四條 長官ハ一郡若クハ數郡及毎區ニ警察署ヲ置キ郡區長ヲ以テ署長ニ充テ管内一切ノ警察ヲ掌ラシメ又各警察署ノ部内ニ於テ警察分署ノ配置分合ヲ定ムヘシ

第十五條 長官ハ廳中及其所轄官廳ノ職務細則ヲ定ムルコトヲ得

第十六條 理事官ハ委任トス長官ノ命ヲ承ケ各其主務ヲ掌理ス長官事故アルトキハ上席理事官其職務ヲ代理ス

第十七條 參事官ハ委任トス長官ノ諮詢ニ應シ意見ヲ具ヘ及審議立案ヲ掌ル

參事官ハ臨時命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ助クルコトアルヘシ

第十八條 技師ハ委任トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ各其技術ニ従事ス

第十九條 技師候補ハ長官ノ指命スル所ニ從ヒ職務ヲ練習シ任官ヲ待ツモノトス

第二十條 屬ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ各庶務ニ従事ス

第二十一條 技手ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第二十二條 警部ハ判任一等以下五等以上トシ警部補ハ判任六等トス長官又ハ警察署長ノ指揮監督ヲ承ケ各其主任ニ屬スル警察事務ヲ掌リ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十三條 郡長ハ每郡若クハ數郡ニ一人區長ハ每區ニ一人ヲ置キ委任四等以下トス長官ノ命ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ兼テ郡區警察署長ト爲リ警部警部補ヲ指揮監督ス

第二十四條 郡區書記ハ判任三等以下トス郡區長ノ命ヲ承ケ各庶務ニ従事ス

第二十五條 典獄ハ委任三等以下判任二等以上トス長官又ハ部長ノ命ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理シ書記看守長以下ヲ指揮監督ス

第二十六條 副典獄ハ判任一等以下四等以上トス典獄ノ事務ヲ佐ク典獄事故アルトキハ其職務ヲ

代理ス

第二十七條 書記ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ各庶務ニ従事ス

第二十八條 看守長ハ判任二等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス

第二十九條 監獄醫ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ従事ス

第三十條 北海道廳ノ事務ヲ分掌スル爲メ左ノ各部ヲ置キ理事官ヲ以テ部長ト爲ス

第一部

一 職員ノ進退文書ノ往復ニ關スル事項

二 官印廳印ノ管守ニ關スル事項

三 記録編輯統計報告ニ關スル事項

四 學務衛生社寺ニ關スル事項

五 警察監獄ニ關スル事項

六 兵事戶籍褒賞賑恤及區町村費ニ關スル事項

七 外國人ニ關スル事項

八 他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第二部

一 農工商務ニ關スル事項

二 地理山林ニ關スル事項

三 水陸運輸ニ關スル事項

四 漁獵ニ關スル事項

五 河港堤防道路鐵道橋梁排水溝渠ニ關スル事項

六 官衙ノ建築修繕ニ關スル事項
第三部

- 一 金錢物品ノ管理出納ニ關スル事項
 - 二 豫算決算ニ關スル事項
 - 三 國稅地方稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
- 第三十一條 各部中便宜課ヲ設ケ各課ニ課長一人ヲ置キ部長ノ命ヲ承ケ課務ヲ掌理ス
課長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ但技師ヲ以テ之ニ充ツルコトアルヘシ
- 第三十二條 地方官官制中警察官及郡區官ニ係ル條項本令ニ牴觸セサルモノハ北海道廳警察官及郡區官ニモ之ヲ適用ス

朕陸軍砲兵工科學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第二百二十號(官報 七月七日)

陸軍砲兵工科學舍條例

- 第一條 陸軍砲兵工科學舍ハ砲兵諸工專門ノ工術ヲ教授シ火工下士及較工銃工木工鍛工諸長ニ任
用ス可キモノヲ養成スル所トス
- 第二條 火工ハ砲兵隊上等兵中志願ノモノヲ選抜分遣シテ學生トナシ他ノ諸工ハ現役六箇月以上

ノ各兵諸卒中志願ノ者ヲ選抜シテ生徒トナレ合シテ生徒隊ヲ編成ス
但諸工生徒ニ在テハ時宜ニ因リ一般人民ヨリ採用スルコトアル可シ

第三條 學舍ニ左ノ職員ヲ置ク

舍長	砲兵少佐	一人
副官	砲兵中尉	一人
生徒隊長	砲兵大尉	一人
生徒隊附士官	砲兵中尉	三人
一三軍軍吏		一人
一等軍醫		一人

第四條 舍長ハ東京砲兵工廠提理ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進步ノ責ニ任ス

第五條 副官ハ舍中一般ノ庶務ヲ掌ル

第六條 生徒隊長ハ學生及生徒訓育ノ事ヲ掌リ隊附士官以下ヲ指揮シ隊中諸般ノ事務ヲ總理ス
第七條 生徒隊附士官ハ訓育ノ細務ニ從事シ學術ノ教授ヲ分擔シ殊ニ學生及生徒ノ身上ニ就テハ

日常瑣末ノ事件ニ至ルマテ之ヲ監視スルモノトス

第八條 本部及生徒隊ニ砲兵科下士若干人ヲ置キ其本部附下士ハ副官ノ下ニ在テ庶務ニ服シ生徒
隊附下士ハ隊中ノ細務ニ從事セシム

第九條 前條ノ外陸軍助教若干人ヲ置キ圖書授業ノ事ヲ擔任セシム

第十條 修業期限ハ學生ニ在テハ概ネ一箇年トシ生徒ニ在テハ概ネ二箇年半トス但修業中疾病又

ハ止ムヲ得サル事故アリテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ延期スルコトヲ得

第十一條 學生及生徒各工科専門ノ實業ハ東京砲兵工廠ニ於テ之ヲ教授ス其生徒隊ノ内務ハ概ネ軍隊内務ノ規定ニ依ル

第十二條 生徒召募ノ方法及學生生徒ノ人員ハ陸軍大臣之ヲ定メテ告達ス

第十三條 近衛都督師團長ハ召募ノ告達ニ依リ學生ニ在テハ砲兵隊長ヲシテ身體行狀學術等ヲ調査シ火工術ニ適當ノ者ヲ選抜セシメ入舍期十日前マテニ其名簿ニ履歷書ヲ添ヘ舍長ニ送達セシム

生徒ニ在テハ各隊長ヲシテ志願者中行狀方正ニシテ檢査格ニ適スル者ヲ選抜セシメ其名簿ヲ舍長ニ送達セシム

第十四條 學生所用ノ書籍器具機械雜具消耗品並修業用ノ原料ハ貸與又ハ支給スルモノトス

第十五條 生徒修業ノ費用其他被服食料旅費等ハ一切官給トシ且若干ノ手當金ヲ給ス

第十六條 學生分遣入舍中願屆等ニ關スル事件ハ總テ舍長ノ管理ニ屬ス

第十七條 學生及生徒ハ情願ヲ以テ歸省又ハ退舍スルヲ許サス然レトモ傷痍疾病其他ノ事故ニ依リ卒業ノ前途無キ者ハ退舍セシム其諸卒ヨリ入舍ノ生徒ニ在テハ永久服役ニ堪ヘサル者ヲ除クノ外總テ原兵科ニ復シ舊所管ニ於テ前役入舍中ノ日數ヲ包含スヲ通算シ定規ノ年限間現役又ハ豫備役又ハ後備役ニ服セシム

第十八條 學期末ニ於テ終末試験ヲ施行シ及第スル者ニハ卒業證書ヲ附與シ學生ハ卒業ノ後原隊ニ復歸シ更ニ三年間現役ニ服セシメ該隊ニ於テ缺員アル毎ニ火工二等軍曹ニ任シ生徒ハ卒業後直ニ工下長ニ任ス

朕貴族院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十日

内閣總理大臣伯備山縣有朋

勅令第百二十一號(官報 七月十一日)

貴族院事務局官制

第一條 貴族院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十八人

二人

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記錄筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

朕衆議院事務局官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第百二十二號(官報七月十一日)

衆議院事務局官制

第一條 衆議院事務局ノ職員ハ左ノ如シ

書記官長

書記官

試補

屬

十八

二人

二十人

第二條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ局中一切ノ事務ヲ監督ス

局中ノ分課及職員ノ配置ハ書記官長之ヲ定ム

第三條 書記官ハ書記官長ノ指揮監督ヲ承ケ議事記録筆記印刷庶務會計等ニ關スル事務ヲ分掌ス

第四條 書記官長故障アルトキハ上席書記官其ノ職務ヲ代理ス

第五條 屬ハ判任トス書記官長ノ定ムル所ニ依リ各其ノ事務ニ從フ

朕警察官及消防官服制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十一日

内務大臣伯爵西鄉從道

勅令第百二十三號(官報七月十二日)

警察官及消防官服制左ノ通改正ス

但明治二十三年十二月マテハ従前ノ服ヲ着用スルコトヲ得

警察官及消防官服制圖例

名	稱	名				地質	日章	眼庇	額紐	品質	縫	横	章	頂	上	製	式	形状
		常	正	常	正													
總	總	正	正	常	常	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺
副	副	正	正	常	常	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺
警	警	正	正	常	常	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺
部	部	正	正	常	常	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺
長	長	正	正	常	常	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺	紺

常 帽			名 稱	帽		
消防機關士	消防司令補	警部補		消防機關士	消防司令補	警部補
同	同	同	總 監	同	同	
同	同	同	濃紺絨	同	同	
同	同	同	分至尖心大金 ル頭ヨサ色 五ニリ中	同	同	
同	同	同	黃 裏 表 革 萌 黒	同	同	
同	同	同	徑章形分黒 ヲ内卸金平 三分附ニ日圓三	同	同	
同	同	同	白絨	同	同	
頂端線同	大線幅八分二條 小線ヲ附セス	頂端線同	大線幅六分二條 小線幅一分二條 頂端線幅一分五厘	同	同	
頂端線同	分兩線ノ間隙一寸	同	出頂線ノ間隙一分 シニ附ス	同	同	
同	同	同	如圖	同	同	

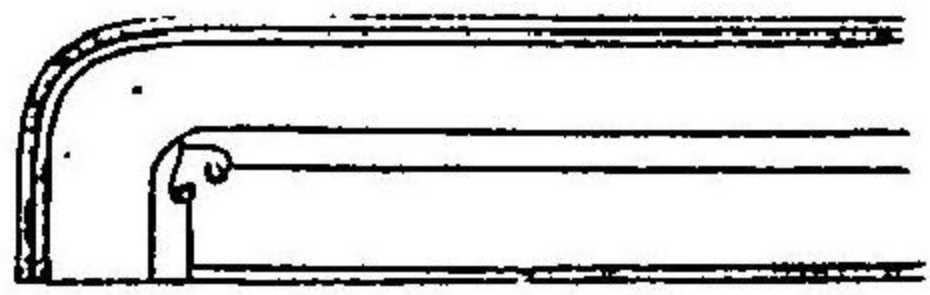
正 帽				名 稱	地 質	卸 品	裝 式	品 質	裝 式	製 式	形 狀
消防司令副長	消防司令長	警部長	副總監								
同	同	同	同	總 監	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	濃紺絨	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	分徑分徑スヲ日內圓金 五小五七六附章ニ形色	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	匣分幅腹線織金大 五一組蛇小平線	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	ス間織上下上 ト地線下線側 ノ縫線ハハ 際織ニ接ハ 小平織シテ二 ヲト平條條	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	匣分幅腹線寸織金大 五一組蛇小平線	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	各小下各小上分五セ但同 三線ノ二線ノ五線ノ其副織 分三警分四警五警其間監ニ 條視察任其警部四ハ小線ヲ 其間部五等長ハ以ハ各一線附	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同

衣		常		名		衣	
名稱	地質	胸章	品質	袖章	製式	形狀	名稱
消防機關士	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防機關士
消防司令部補部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部補部
消防司令部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部
消防司令部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部
消防司令部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部
消防司令部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部
消防司令部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部
消防司令部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部
消防司令部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部
消防司令部	同	同	匣一小黑蛇分五線五	同	同	同	消防司令部

袴		短		名	
名稱	地質	側	章	製	式
消防機關士	同	同	同	同	同
消防司令部補部	同	同	同	同	同
消防司令部	同	同	同	同	同
消防司令部	同	同	同	同	同
消防司令部	同	同	同	同	同
消防司令部	同	同	同	同	同
消防司令部	同	同	同	同	同
消防司令部	同	同	同	同	同
消防司令部	同	同	同	同	同
消防司令部	同	同	同	同	同

衣 正

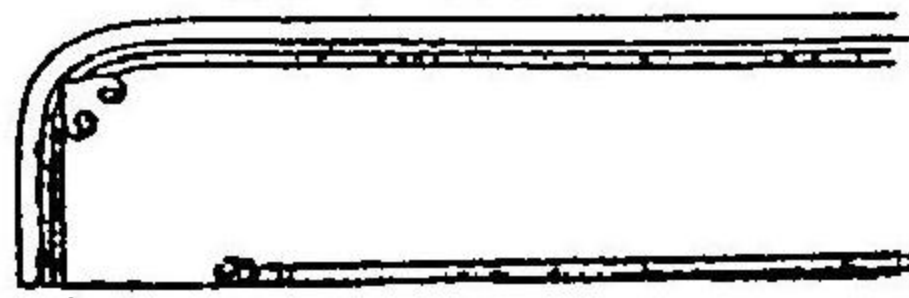
監 總



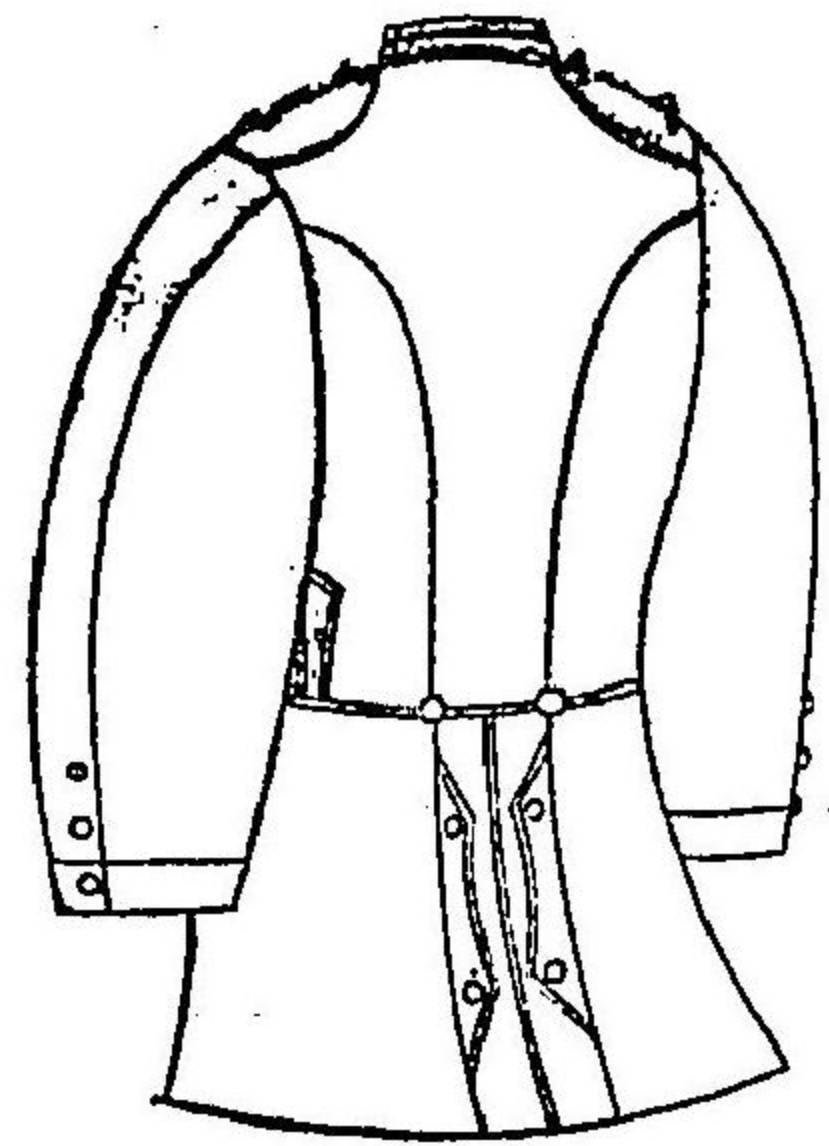
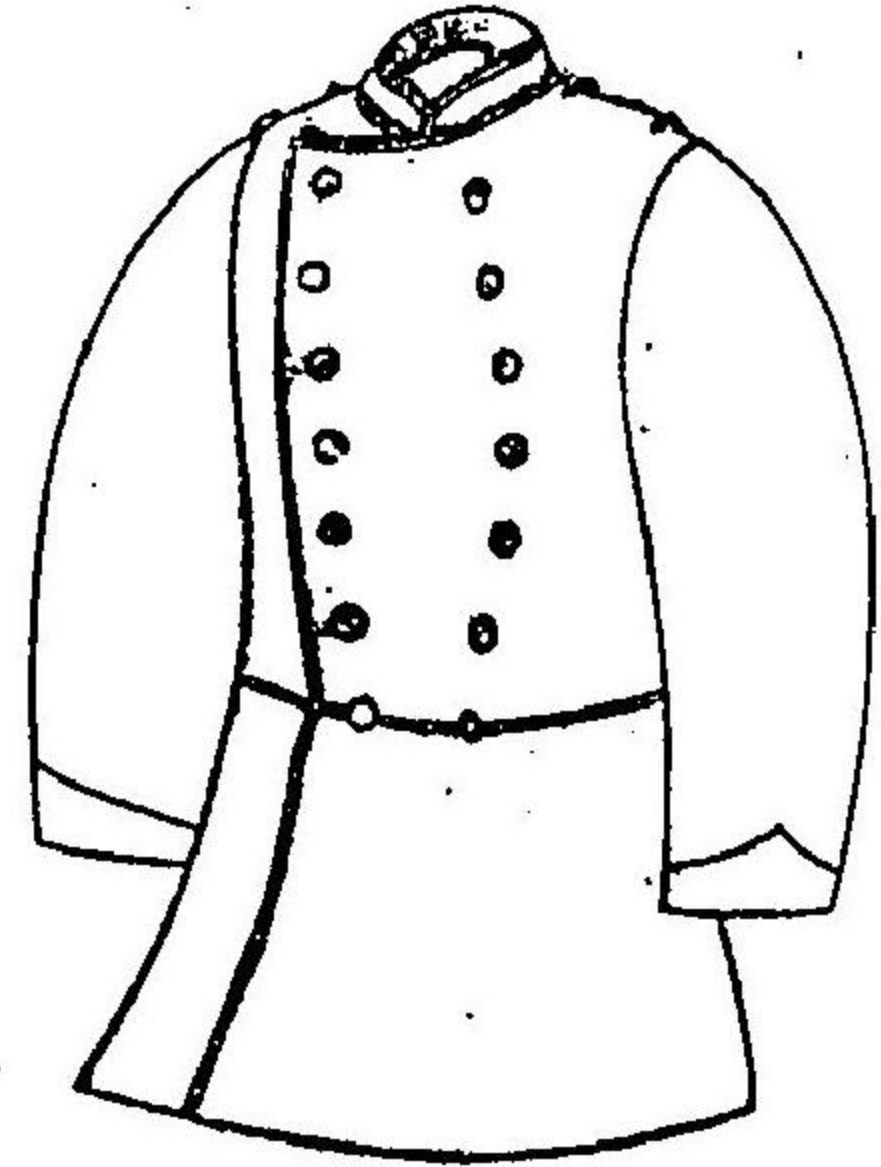
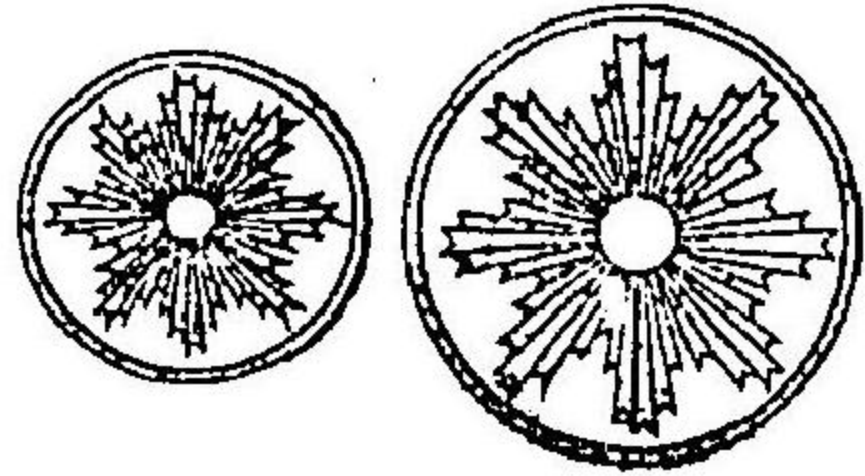
長司正消部視監副
令副防長警警總



關消司令消部警
士防令消防補部
機補防司 警

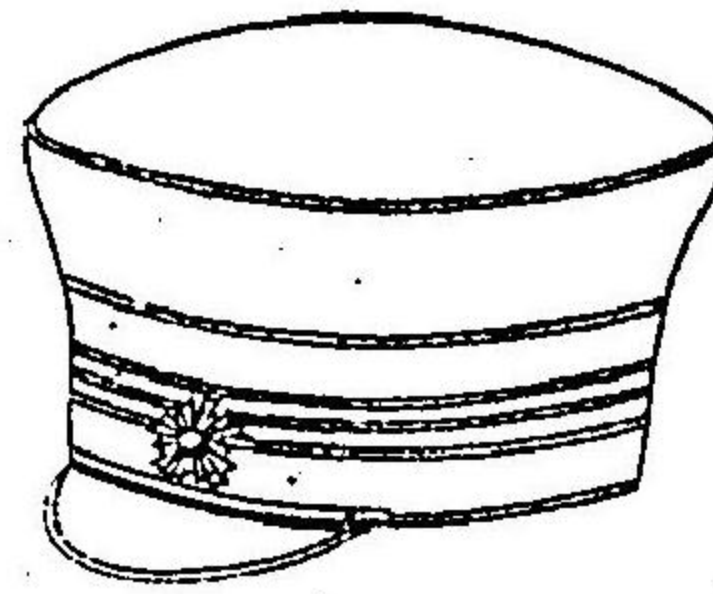


釦

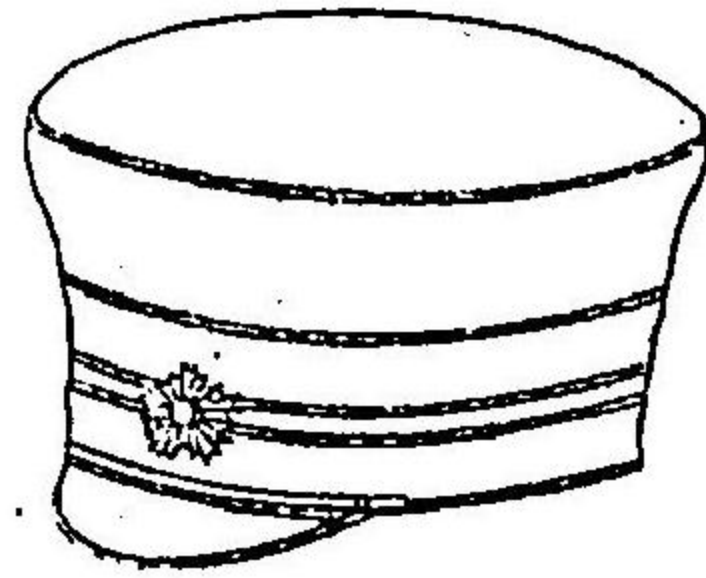


帽 常

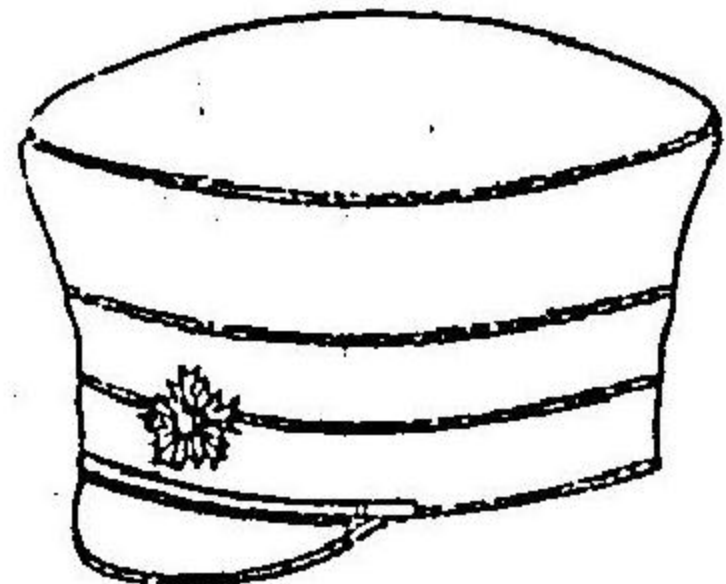
監 總



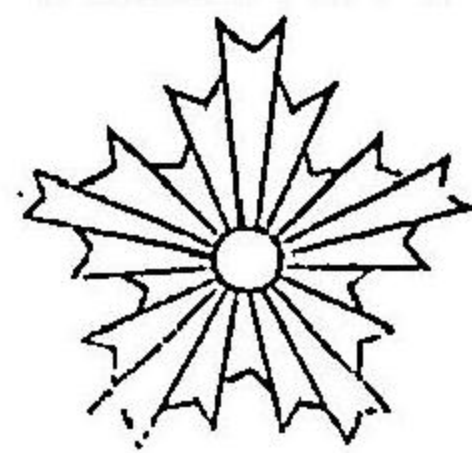
長司正消部視監副
令副防長警警總



關消司令消部警
士防令消防補部
機補防司 警



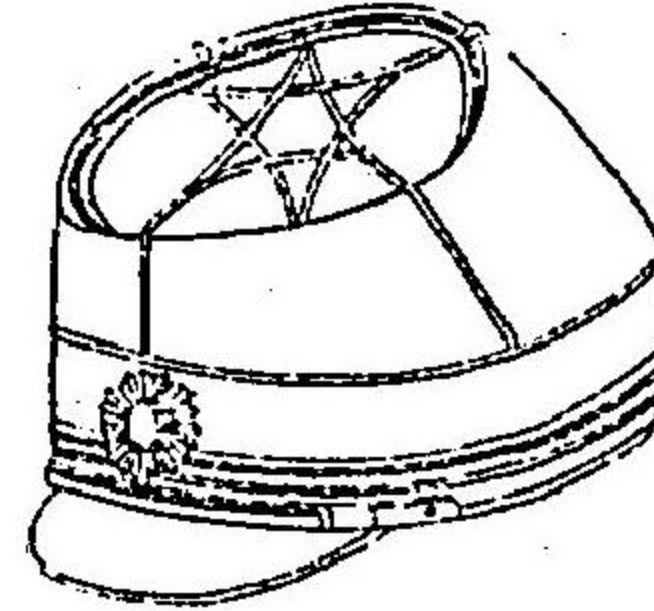
章 日 略



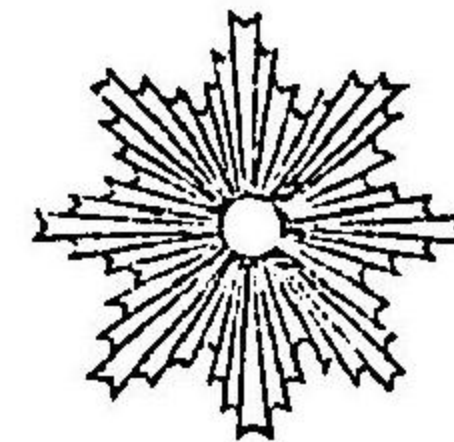
帽 正

監 總

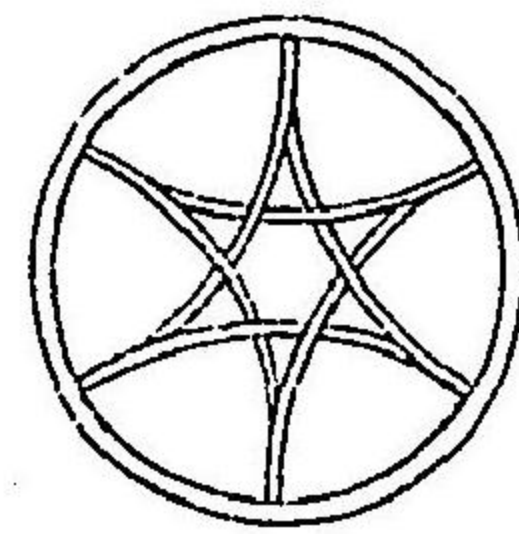
關消司令消部警
士防令消防補部
機補防司 警



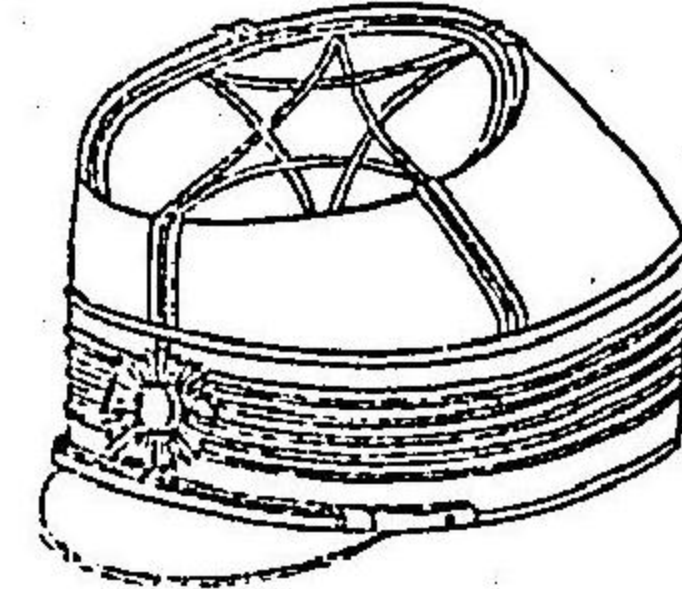
章 日



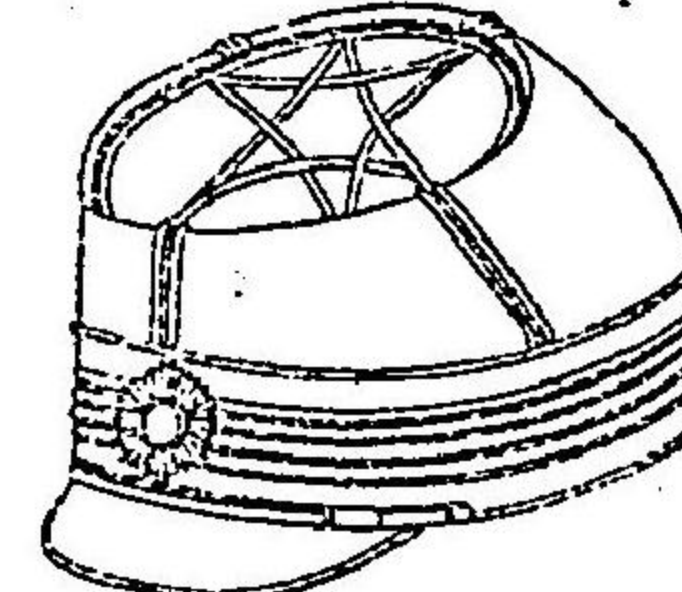
章 上 頂



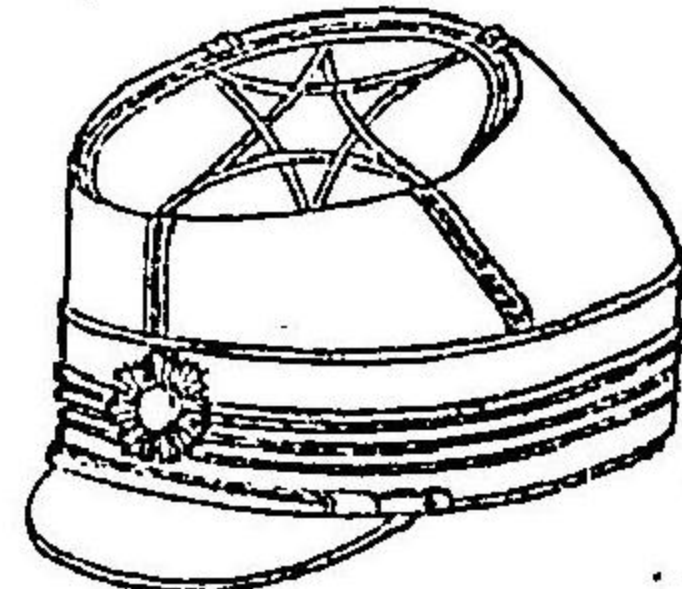
監 總 副



長消視以矣
防警上任
司部ノ四
令長警警

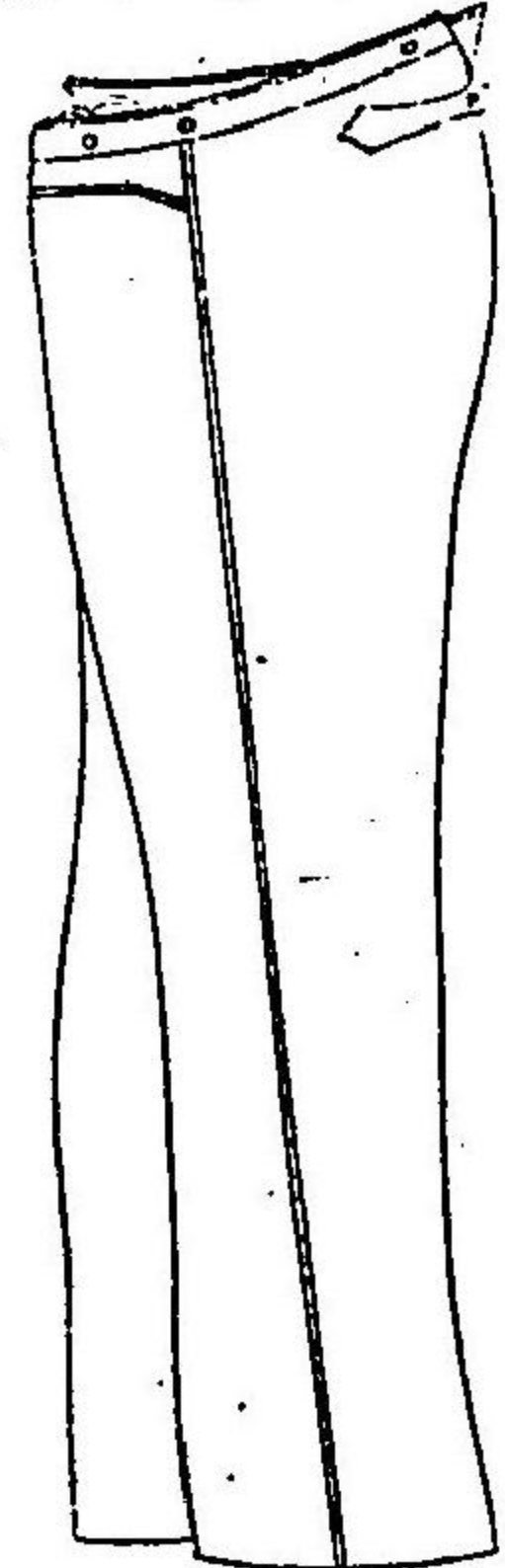


令消警ノ警警
副防部警以任
長司長視下五

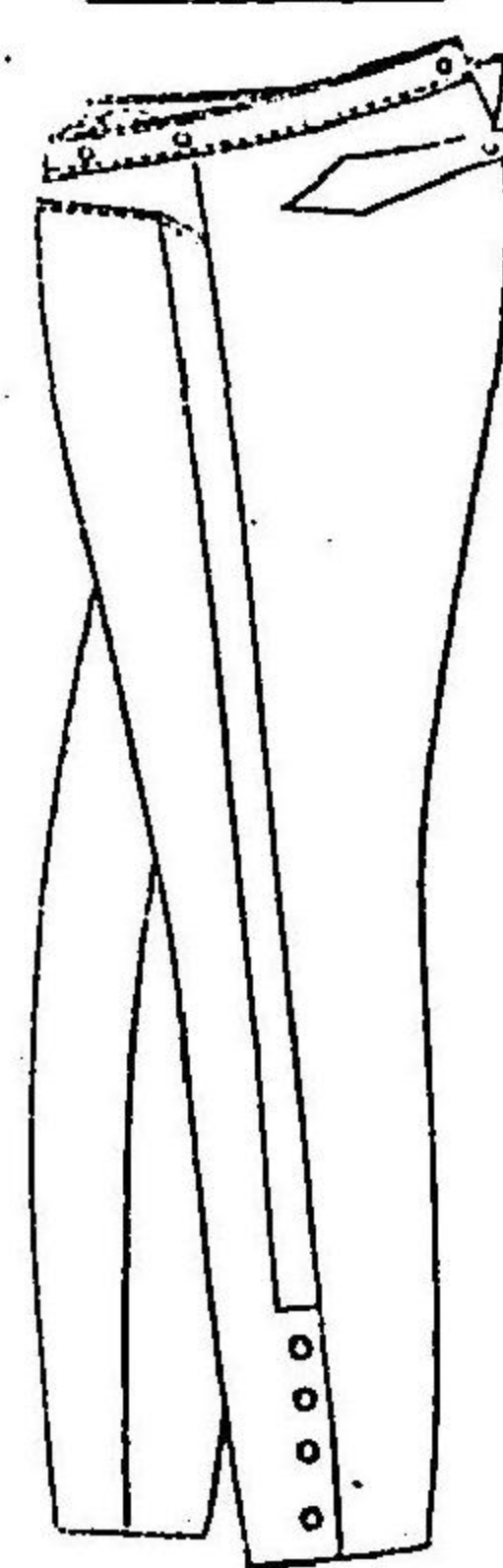


袴常正

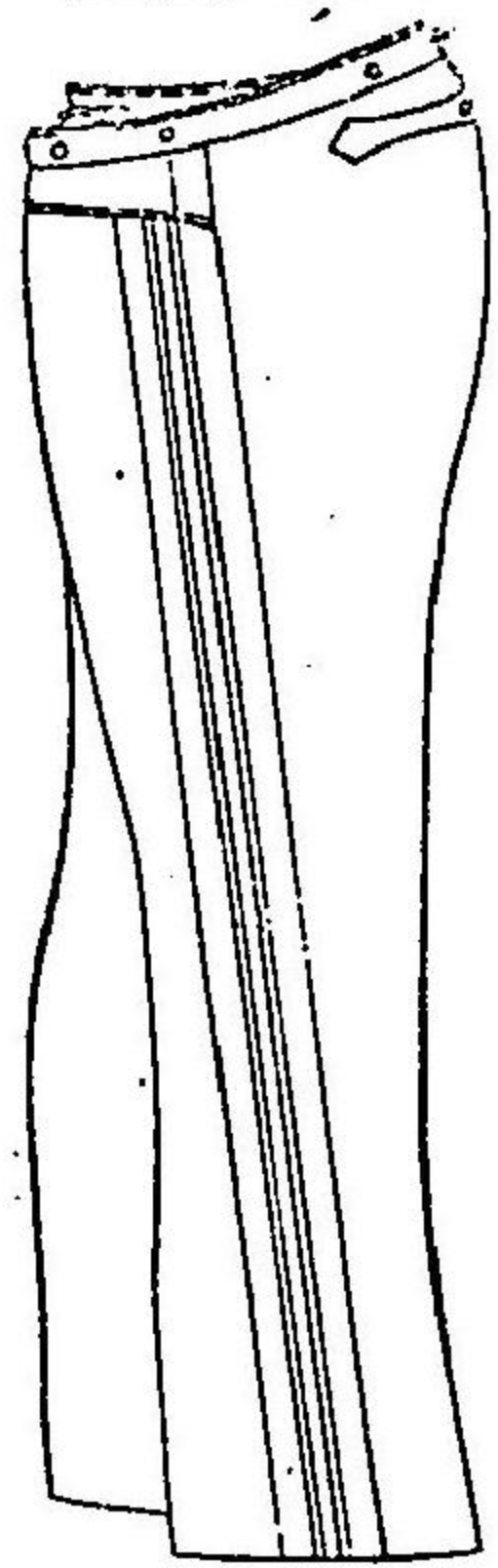
關防補司消司消補警警
士機消令防令防 部部



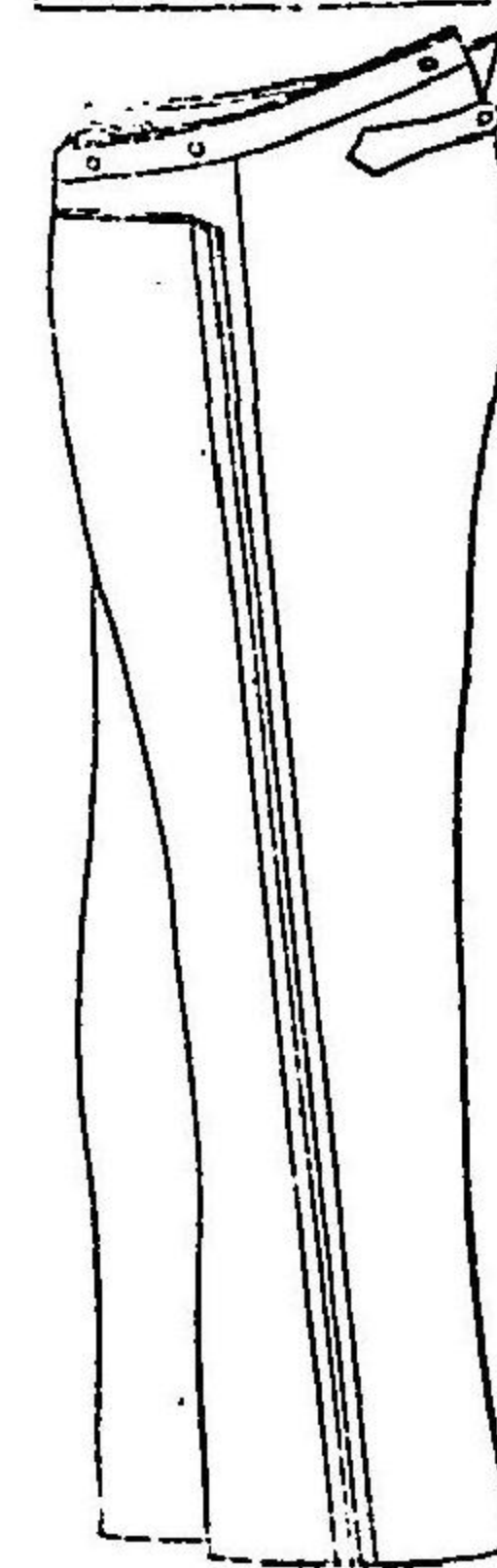
袴 短



監 總

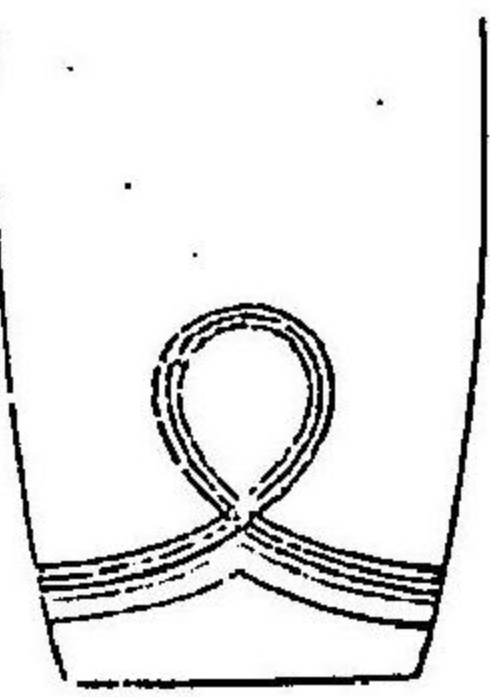


長司正消部或監副
令副防長警警機

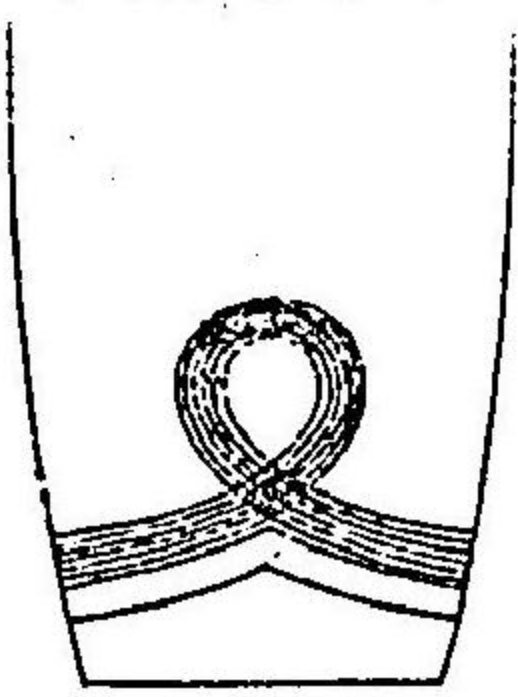


章袖衣常

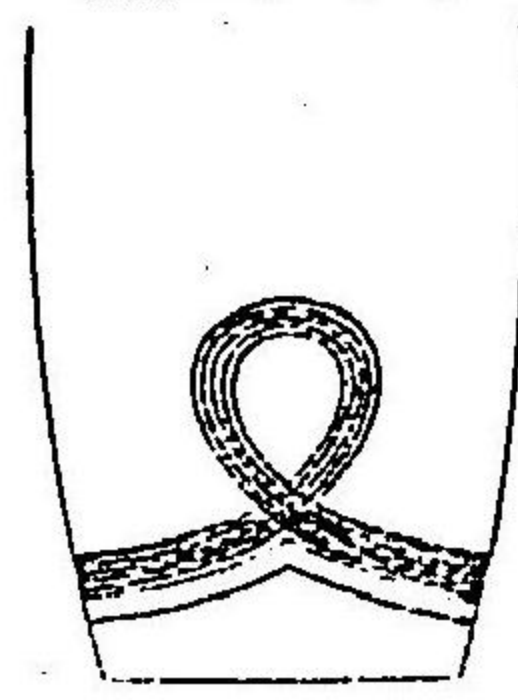
副消長警等奏
長防視以任
司警下官
令部ノ五



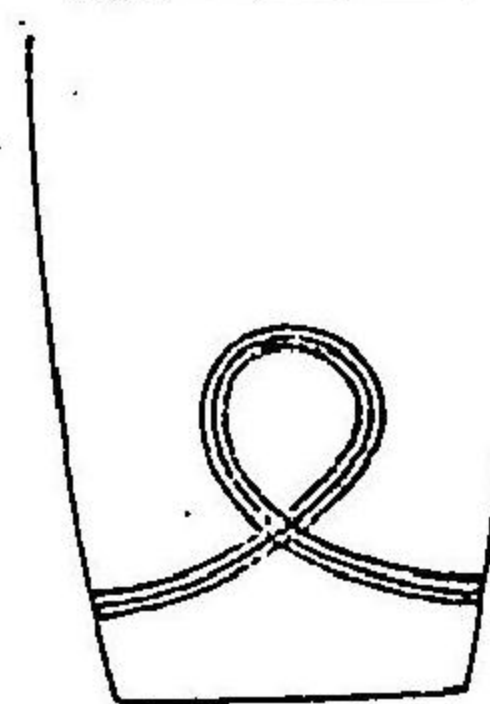
監 總



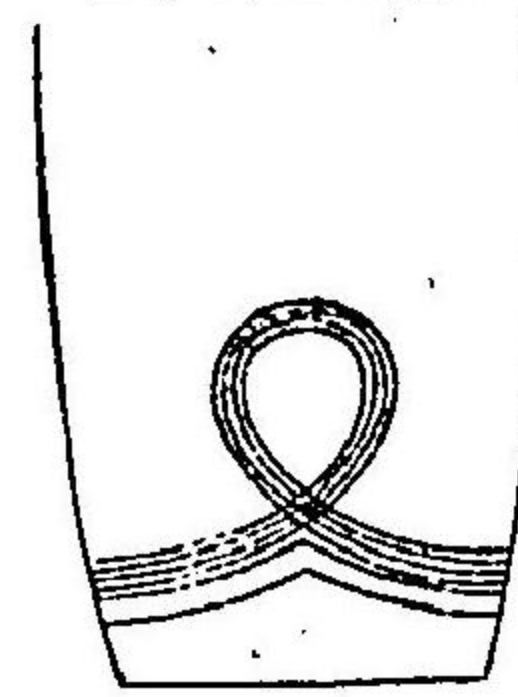
監總副



關消司令消部警
士防令消防補部
機補防司 警



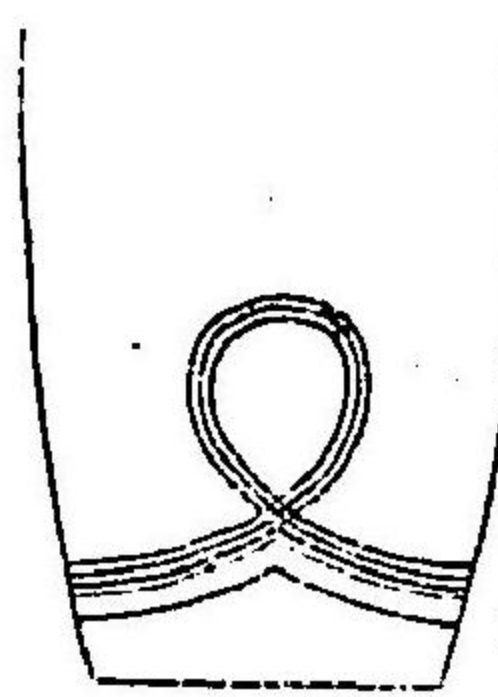
長消視以奏
防警上任
司部ノ四
令長警等



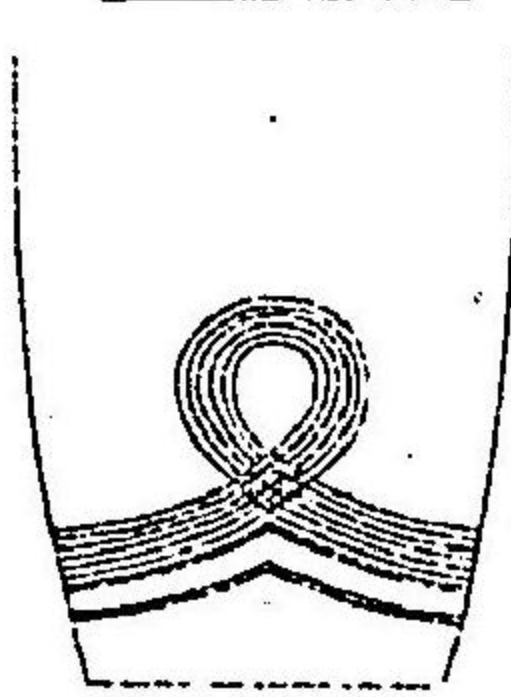
衣 常



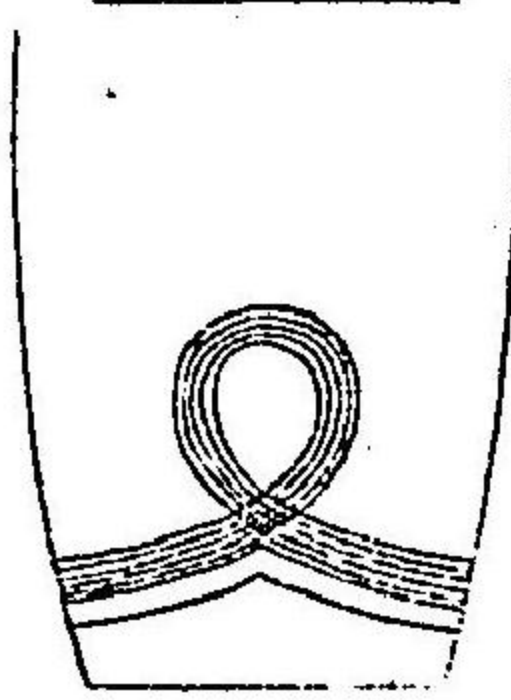
副消視以奏
長防警下任
司部ノ五
令長警等



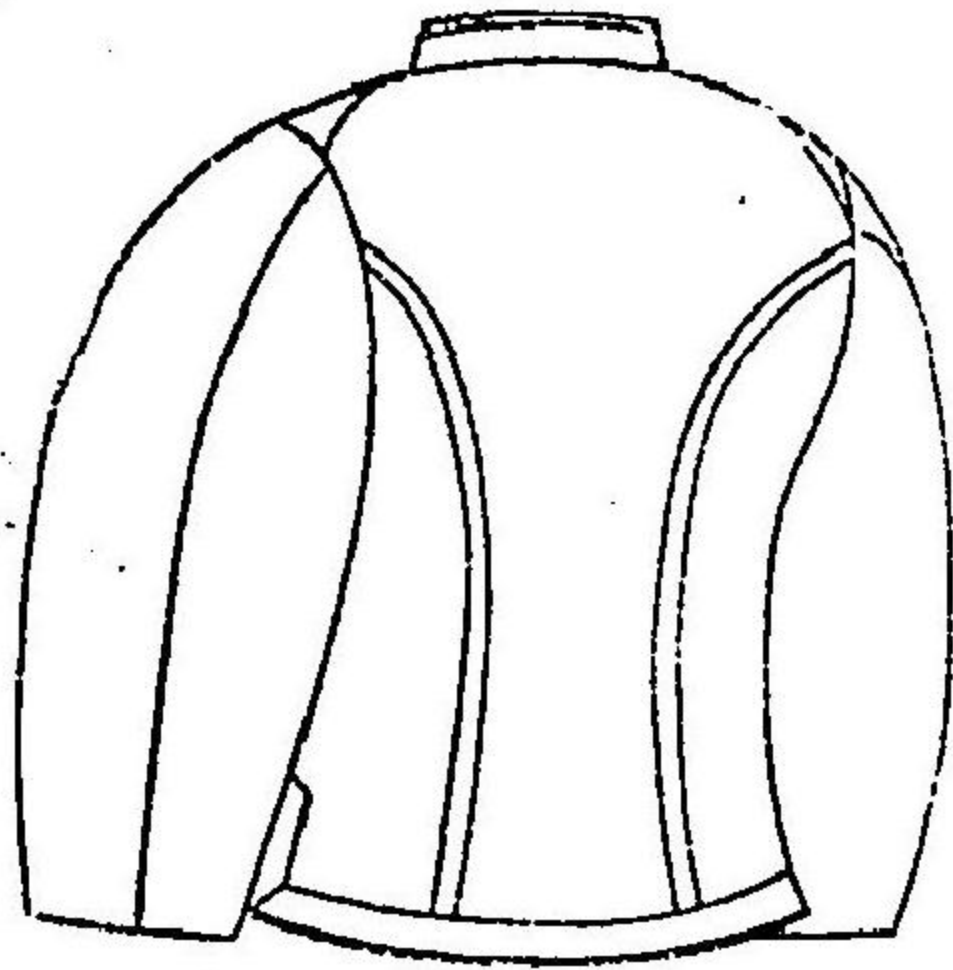
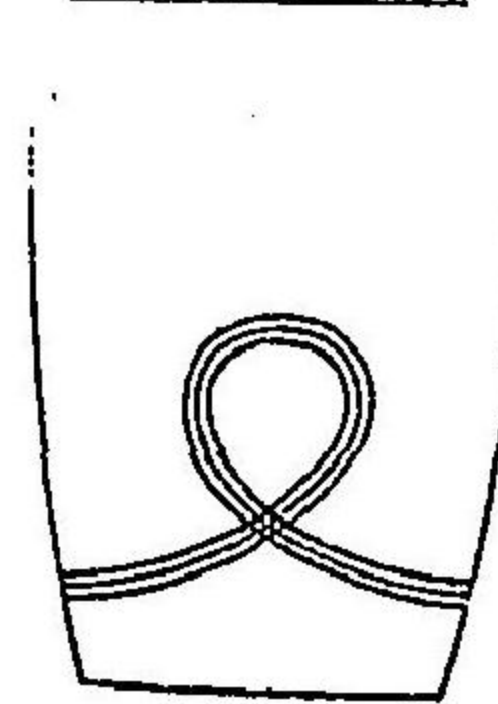
監 總



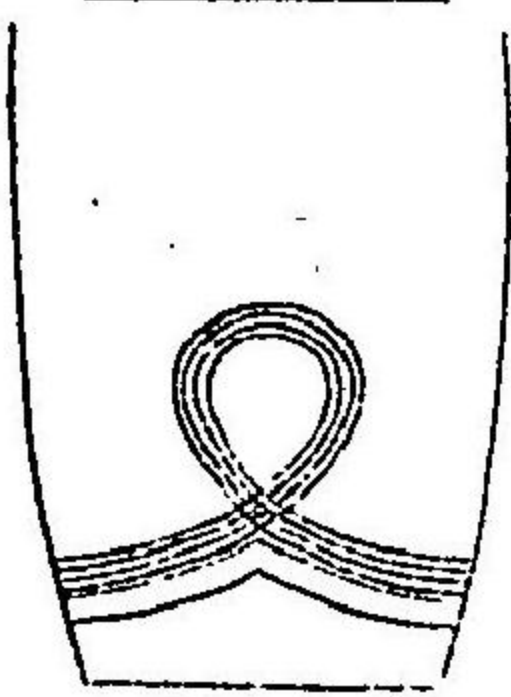
監總副



關消司令消部警
士防令消防補部
機補防司 警

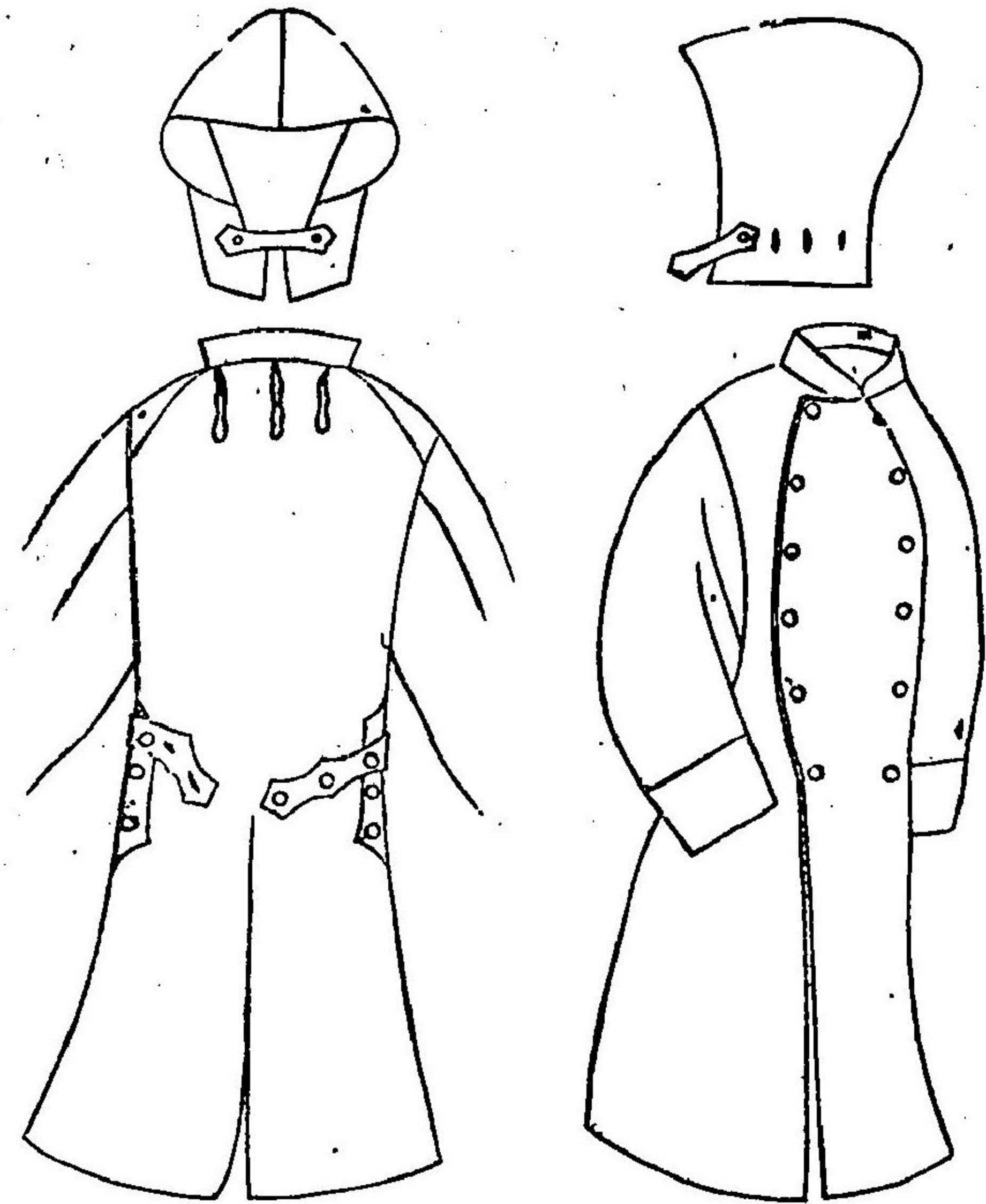


長消視以奏
防警上任
司部ノ四
令長警等

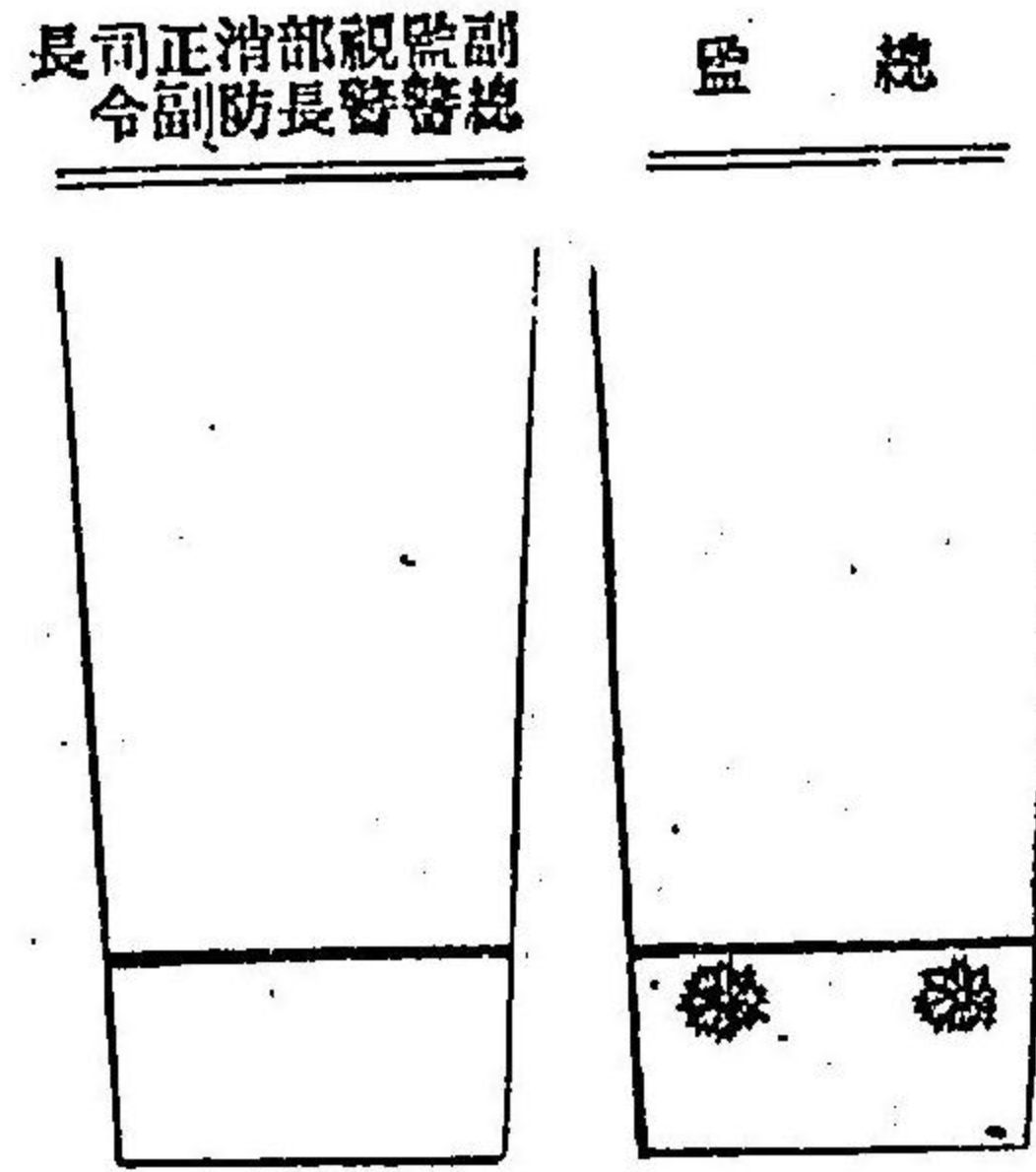


套外種甲

正副警部長
正副警部長
正副警司長
正副警司
正副警士
正副警士
正副警士



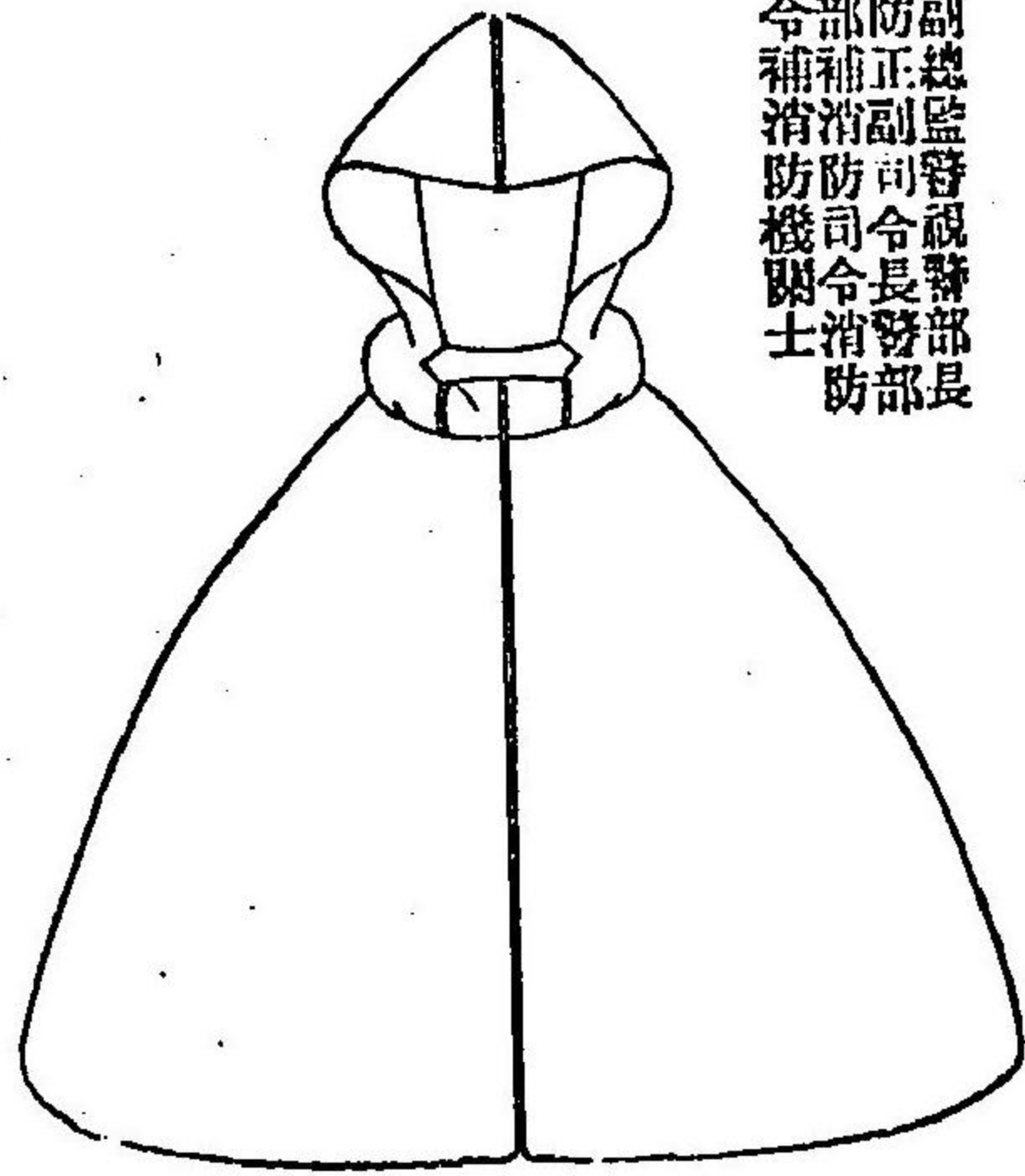
章 袖



副警部長
副警司長
副警司
副警士
副警士
副警士

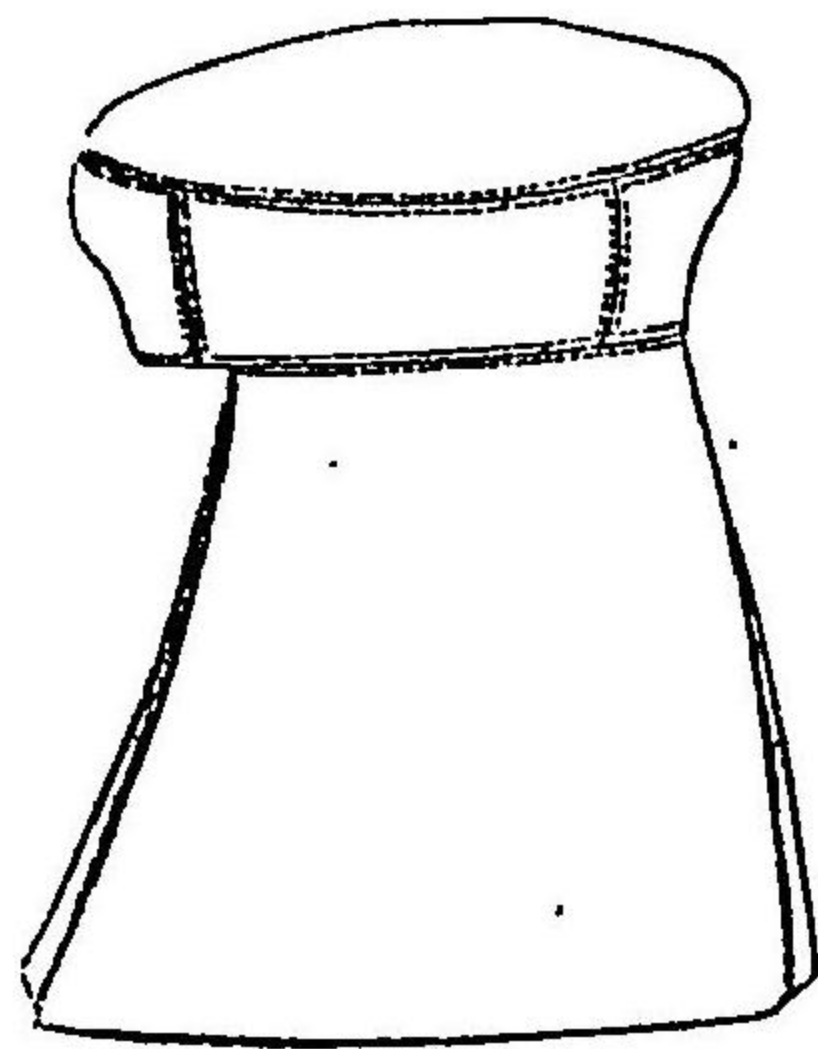
總警長
總警司
總警司
總警士
總警士
總警士

套外種乙

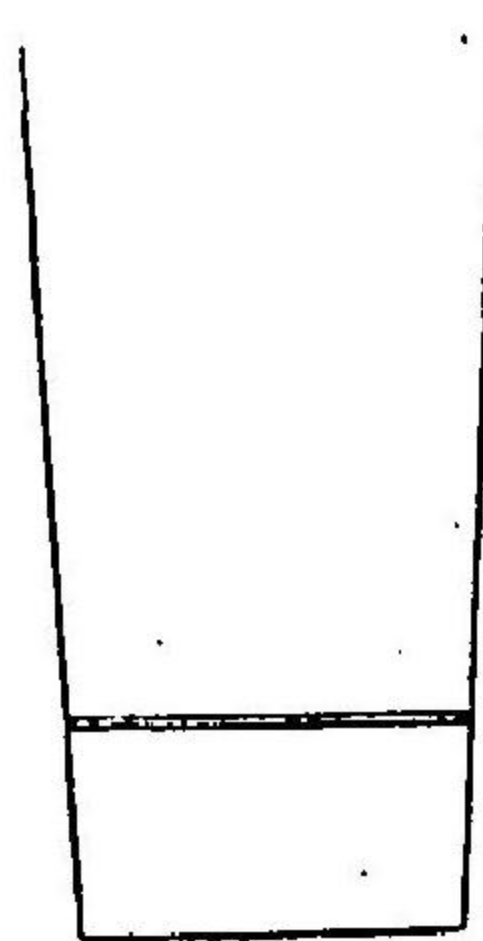


正副警部長
正副警司長
正副警司
正副警士
正副警士
正副警士

覆 日

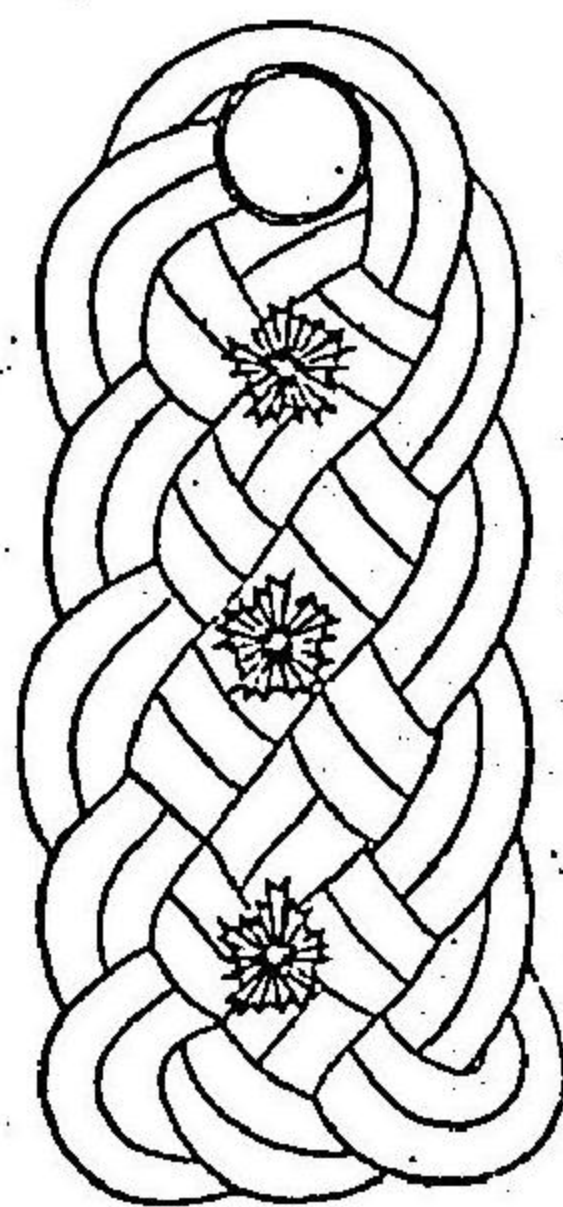


警部補
警司補
警司
警士
警士
警士

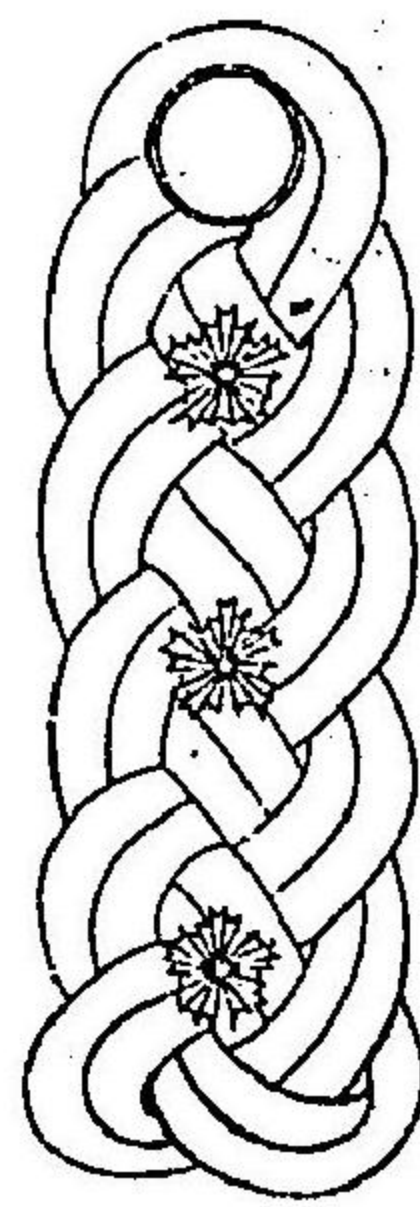


肩章

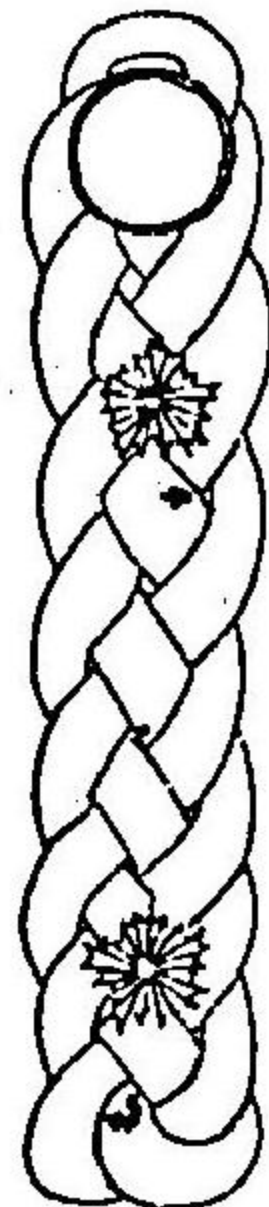
總監



副總監
部長
正司
副司
長

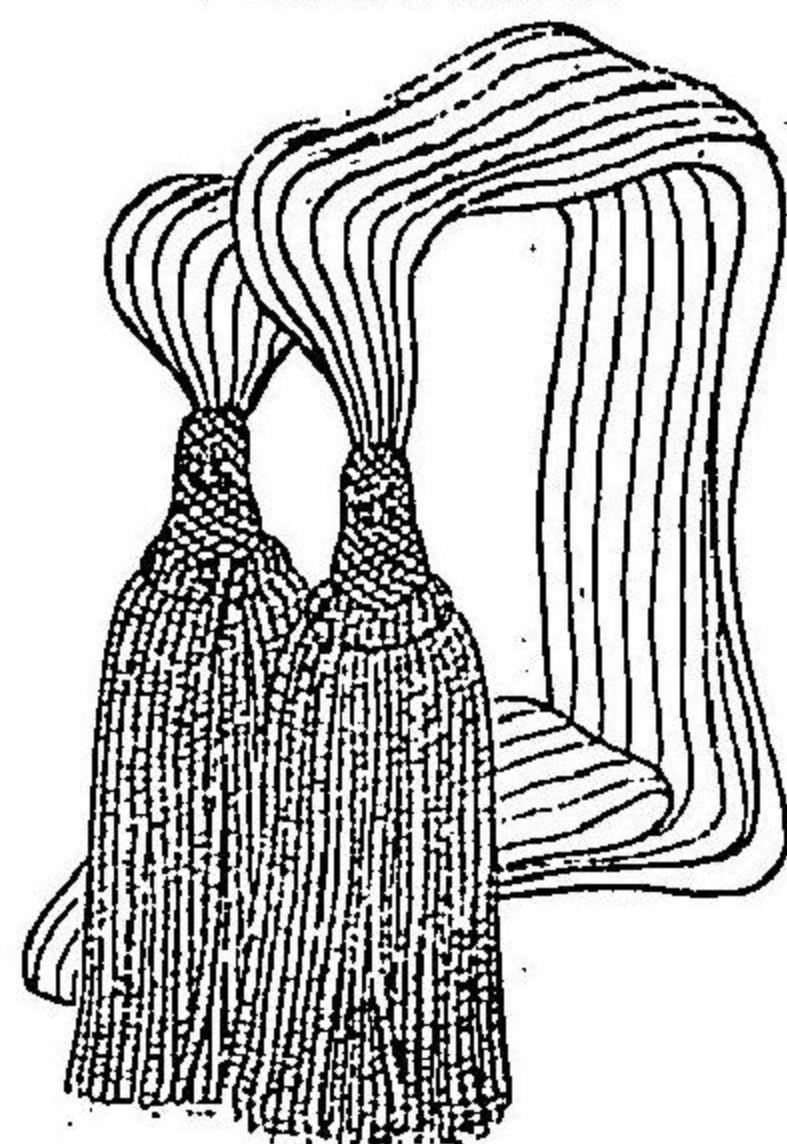


警部
補防
司防
司防
司防
補防
關防
士機



帶飾

高等官



朕富岡製絲所製絲ニ係ル荷爲換金處分ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十一日

勅令第二百二十四號(官報 七月十二日)

富岡製絲所ヨリ二十二年以前海外ニ直輸出シタル製絲ニ關シ借入タル荷爲換金ハ二十三年度ニ於テ之ヲ償却シ及利子ヲ支辨スルコトヲ得

大藏大臣 伯耆松方正義
農商務大臣 陸奥宗光

朕官吏遺族扶助法納金收入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十二日

勅令第二百二十五號(官報 七月十四日)

官吏遺族扶助法納金收入規則

第一條 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條ニ依リ文官判任以上ノ者ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ

大藏大臣 伯耆松方正義

第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ收入官吏ヨリ金庫ヘノ拂込ニ移シテ計算シ直ニ報告書ヲ作り之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ
前條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ差引シタル金員ハ納金額表ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ
免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納人ニ於テ差引スヘシ

朕褒章條例中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

内閣總理大臣伯耆山縣有朋

勅令第二百二十六號(官報 七月十七日)

褒章條例中左ノ通追加ス

第一條中「公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者 疏河築堤修路墾田ノ業或ハ」ノ下ヘ「又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞効顯著ナル者」ノ十八字ヲ加フ
「公衆ノ利益ヲ興シ成績著明ナル者」ノ下ヘ「又ハ公同ノ事務ニ勤勉シ勞効顯著ナル者」ノ十八字ヲ加フ

朕大小林區署官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

内閣總理大臣伯耆山縣有朋
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二百二十七號(官報 七月十七日)

大小林區署官制

第一條 大林區署ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 官林ノ賣拂及貸渡ニ關スル事項
 - 二 官林ノ境界調査分合ニ關スル事項
 - 三 官林ノ施業ニ關スル事項
 - 四 官林ノ產物賣拂ニ關スル事項
 - 五 小林區署業務監督ニ關スル事項
- 第二條 大林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

林務官

林務官補

書記

第三條 林務官ハ奏任ニ等以下トシ十六人ヲ以テ定員トス大林區署長ト爲リ山林局長ノ指揮監督ヲ承ケ署中全部ノ事務ヲ掌理ス

第四條 林務官補ハ判任五等以上トシ九十六人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌ス

第五條 書記ハ判任三等以下トシ百二十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第六條 小林區署ハ大林區署ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

一 官林ノ保護ニ關スル事項

二 官林ノ栽培及土功ニ關スル事項

三 官林ノ產物採取及賣拂ニ關スル事項

四 官林ノ測量製圖ニ關スル事項

第七條 小林區署ニ職員ヲ置ク左ノ如シ

營林主事

營林主事補

森林監守

第八條 營林主事ハ判任三等以下トシ三百八十七人ヲ以テ定員トス小林區署長ト爲リ上官ノ指揮

監督ヲ承ケ署務ヲ掌理ス

第九條 營林主事補ハ判任五等以下トシ四百八十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分

掌ス

第十條 森林監守ハ判任六等トシ四百八十四人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ官林ノ保護ニ従

事ス

朕茲ニ大小林區署判任官俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
農商務大臣 陸奥宗光

勅令第二百二十八號(官報 七月十七日)

林務官補書記營林主事ノ俸給ハ判任官官等俸給令ニ依ル

營林主事補判任五等ノ俸給ハ月俸二十五圓以下十八圓以上判任六等ノ俸給ハ月俸十五圓以下八圓

以上トシ森林監守ノ俸給ハ月俸十二圓以下五圓以上トス

朕郵便及電信局官制中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

内閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
遞信大臣 伯爵 後藤象二郎

勅令第二百二十九號(官報 七月十七日)

郵便及電信局官制中左ノ通改正追加ス

第二條中郵便電信書記ノ次ニ郵便電信書記補ノ七字ヲ加フ

第三條中郵便書記ノ次ニ郵便書記補ノ五字ヲ加フ

第四條中電信書記ノ次ニ電信書記補ノ五字ヲ加フ

第十一條ヲ左ノ通改ム

第十一條 郵便電信書記補郵便書記補或電信書記補ハ判任六等トス書記ノ事務ヲ助ク

第十一條ノ次ニ左ノ二條ヲ加ヘ第十二條ヲ第十四條ニ改ム

第十二條 郵便電信書記補郵便書記補電信書記補ハ二千七百三十五人ヲ以テ定員トス

第十三條 郵便電信局及電信局ニ電信技手ヲ置ク九百四十七人ヲ以テ定員トス

朕郵便及電信局並郵便爲替貯金局書記補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第三百三十號 (官報 七月十七日)

郵便電信書記補郵便書記補電信書記補並郵便爲替貯金局書記補ハ遞信大臣別ニ試驗規則ヲ定メ之ヲ採用スルコトヲ得其規則ニ依リ採用セラレタルモノハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉任スルコトヲ得ス

朕茲ニ郵便及電信局並郵便爲替貯金局書記補俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第三百三十一號 (官報 七月十七日)

郵便電信書記補郵便書記補電信書記補並郵便爲替貯金局書記補ノ俸給ハ月俸拾五圓以下五圓以上

トス

朕明治二十三年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百三十二號 (官報 七月十七日)

明治二十三年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途左ノ通之ヲ定ム

大藏省證券利子及手数料

外國債元利及手数料爲替差増

整理公債ヲ以テ償還サレタル金庫公債ノ利子及手数料

文官 恩 給

陸軍 恩 給

海軍 恩 給

飯 米

外國貨幣ヲ以テ支給スル俸給旅費及定額

アル手當並在外公館經費ノ金額貨幣差増

官報局工場費及雜給

死 亡 賜 金

訴 訟 入 費
 恩 賞 及 救 助 費
 違 犯 密 告 手 當 費
 褒 賞 費
 裁 判 及 囚 徒 費
 印 紙 製 造 費
 看 守 給 助 費
 看 守 滿 年 賜 金
 囚 徒 費
 在 府 縣 獄 囚 徒 費
 巡 查 給 助 費
 巡 查 滿 年 賜 金
 養 育 費
 徵 兵 費
 內 外 國 難 破 船 費
 海 員 取 扱 費
 救 育 費
 警 察 費 連 帶 支 辨 金
 證 券 印 紙 類 製 造 買 戻 切 手 押 印 費
 從 價 稅 品 買 上 代

鑑 札 招 牌 製 造 費
 諸 拂 戻 及 缺 損 補 填 金
 糧 米
 藜 稗 類
 藜 稗 類
 埋 葬 料
 刑 事 裁 判 費
 切 手 類 製 造 買 戻 及 取 扱 費
 爲 替 貯 金 受 拂 費
 萬 國 郵 便 及 電 信 聯 約 中 央 局 維 持 費
 市 町 村 交 付 金
 差 押 物 件 買 上 代
 滯 納 處 分 費
 阿 片 費
 識 員 歲 費 及 旅 費
 所 得 稅 調 查 委 員 手 當
 死 傷 手 當
 海 外 電 信 支 拂 金
 受 繼 電 信 料
 日 本 鐵 道 會 社 利 益 補 助
 北 海 道 製 麻 會 社 補 助

- 北海道紋監製糖會社補助
- 北海道札幌製糖會社補助
- 北海道炭礦鐵道會社補助
- 北海道興産社補助
- 北海道興産社補助
- 北海道北越殖民社補助
- 拂下土地買上代
- 賠償金

朕商業及船舶ノ登記ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

司法大臣伯爵山田顯義
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百二十三號（官報七月十七日）

第一條 商業ノ登記公告ノ手数料左ノ如シ
 第一 商號、後見人、未成年者、婚姻契約及代務ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラヌ各金三十拾錢
 其變更又ハ追加ノ登記公告ニ付テモ亦同シ
 第二 會社ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラヌ合名會社ニ付テハ金六十圓合資會社株式會社ニ

付テハ各金拾圓

其變更又ハ追加ノ登記公告ハ每一件ニ付金三十拾錢

第三 登記簿ノ閱覽ニ付テハ金拾錢

第四 登記簿ノ謄本ハ用紙壹枚ニ付金拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ壹枚トシ十一行以上八壹枚十行以下ハ半枚トス

第二條 商法第八百二十五條ノ登記ニ付テハ金三圓ヲ納ムヘシ
商法第八百二十九條ニ定メタル變更ノ附記ニ付テハ金拾五錢ヲ納ムヘシ

朕日本帝國領事規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十一日

外務大臣子爵青木周藏

勅令第三百二十四號（官報七月二十二日）

日本帝國領事規則中領事手数料及出張入費表目九項左ノ通改正ス

- 九 船舶出入港届出及船舶諸證書保管
 - 登簿噸數十五噸以上五十噸以下 百五十石以上 三拾錢
 - 同 五十噸以上百噸以下 五百石以上 五拾錢
 - 同 百噸以上二百噸以下 千石以上 壹圓
 - 同 二百噸以上五百噸以下 千石以上 三圓

同 五百噸以上
但漁船ハ手数料ヲ徴收セス

五圓

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十一日

内務大臣伯爵西郷從道

勅令第三百三十五號(官報 七月二十二日)

官有地特別處分規則

第一條 内務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

- 一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣都市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡スコトキ
- 二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡スコトキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス
- 三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡スコトキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡スコトキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣都市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徴收セサルモノトス

第三條 府縣都市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣都市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノトス

第四條 北海道官有未開ノ土地並官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

朕陸軍武官進級令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第三百三十六號(官報 七月二十二日)

陸軍武官進級令第十七條左ノ通改正ス

將校相當官並軍吏部衛生部軍樂部ノ下士及諸工下長ノ進級ハ本令ヲ適用ス
砲工兵監護ノ砲工兵上等監護ニ進ミ軍樂次長ノ二等軍樂長ニ進ムハ下士進級ノ例ニ同シ但實役停年ヲ二年トス

二等軍樂長ノ一等軍樂長ニ進級スルハ實役停年五年以上ニシテ隊長ノ職ヲ奉シ功勞顯著ナル者ニ就キ進級セシム

朕陸軍軍樂學舍條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十一日

陸軍大臣 伯爵 大山 巖

勅令第三百三十七號 (官報 七月二十二日)

陸軍軍樂學舍條例

第一條 陸軍軍樂學舍ハ陸軍戸山學校ニ置キ各軍樂隊ノ樂生ヲ補充スル爲メ生徒ヲ養成シ且軍樂學術ノ進歩ヲ計ル所トス

第二條 陸軍軍樂學舍ノ定員ハ左ノ如シ

- 學舍長 一名
- 生徒隊長 一名
- 一等軍樂長 一名
- 生徒隊長 一名
- 軍樂次長 一名
- 一等軍樂手 三名
- 二等軍樂手 六名
- 樂手補 二十七名
- 樂生 十二名

一二三等書記

- 一二三等看護長 一名
- 軍醫 一名

第三條 學舍長ハ戸山學校長ニ隸シ舍務ヲ總理シ學術進歩ノ責ニ任ス

第四條 生徒隊長ハ學舍長ヨリ之ヲ兼ネ生徒ノ教育ヲ掌リ次長以下ヲシテ諸科目ヲ分擔セシム但時宜ニ依リ專任者ヲ置クコトアルヘシ

第五條 一二等軍樂手ノ定員ハ第二條ニ掲グル者ノ外軍樂生徒ノ人員ニ應シ一二等軍樂手ヲ通シ二十名ニ至ル迄ハ増員スルコトヲ得

第六條 軍醫ハ他ニ本職アル者ヲ以テ兼補ス

第七條 樂調ヲ一定スル爲メ軍樂學舍軍樂手ノ内優等ナル者ヲ選ミ近衛並各師團軍樂手ト交換セシム

第八條 毎年採用スヘキ軍樂生徒ノ人員及軍樂手ノ交換ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第九條 軍樂生徒ハ軍樂部ニ出身志願ノ者ヨリ採用ス

第十條 軍樂生徒ノ入學檢査格例ハ戸山學校長之ヲ定メ道廳府縣ニ通牒シ召募スルヲ例トス

第十一條 檢査合格ノ上ハ凡ソ一箇月間通學セシメ實試ノ上之ヲ採用ス此ノ場合ニ於テハ本人所轄ノ道廳府縣ニ通牒スルモノトス

第十二條 軍樂生徒入學ノ上ハ必ス陸軍ニ從事シ決シテ他志ナキノ誓約ヲ爲サシム

第十三條 軍樂生徒ノ修業期限ハ概ネ十五箇月トシ修學上ノ費用其他被服食料等總テ官費トシ且

手當金若干ヲ給ス

- 第十四條 軍樂生徒修業中ハ歸省休暇ヲ許サス
- 第十五條 軍樂生徒修業中行狀不正或ハ軍紀ヲ遵守セス或ハ屢法則ヲ犯シ又ハ傷痍疾病ニテ生徒タルニ堪ヘ難キ者又ハ卒業ノ目途ナキ者ハ軍樂生徒ヲ免ス
- 第十六條 軍樂學舎ノ内務ハ概ネ軍隊内務ノ規定ニ依ル
- 第十七條 學期末ニ於テ生徒ノ終末試験ヲ施行ス事故アル者ハ試験ヲ延期スルコトアリ此ノ試験ニ及第シタル者ニハ卒業證書ヲ付與シ樂生ヲ命ス

朕陸軍軍樂部下士兵卒補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第三百三十八號 (官報 七月二十二日)

陸軍軍樂部下士兵卒補充條例

- 第一條 陸軍軍樂部下士ノ補充ハ樂手補ニシテ樂生ヲ命スル日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シタル者ヲ以テシ樂手補ノ補充ハ樂生トナリ一箇年以上現役ニ服シ品行方正ニシテ學術優等ナル者ヲ以テシ樂生ノ補充ハ陸軍軍樂學舎生徒ノ卒業シタル者ヲ以テス
- 第二條 軍樂學舎長軍樂隊長ハ其部下ノ樂手補及樂生中第一條ニ適當スル者ヲ選抜シ優劣ニ依リ順序ヲ定メ其樂手補ニ在テハ下士候補名簿樂生ニ在テハ人名書ヲ作り學舎長ハ戶山學校長ニ隊

長ハ近衛師團參謀長ニ呈ス

- 第三條 校長又ハ參謀長ハ之ヲ點檢取捨シテ監軍又ハ近衛都督若クハ師團長ニ呈シ同官ノ認可ヲ請ケ隊中ニ缺員アル毎ニ候補者ヲ任命ス
- 第四條 樂生ノ補充ハ陸軍戶山學校長陸軍大臣ノ告達ニ基キ各隊ニ配付ス
- 第五條 軍樂次長以下ハ樂生ヲ命スル日ヨリ七箇年間現役ニ服セシム其現役滿期ノ後ハ陸軍現役下士上等兵再服役條例ニ依リ再服役ヲ請フコトヲ得
- 第六條 樂生ニシテ行狀不正懲戒ヲ加フルモ改悛ノ目途ナキ者ハ樂生ヲ免ス
- 第七條 陸軍各兵科現役下士補充條例第二條第二項及第八條乃至第十條第十二條第十三條ハ本條例ニ適用ス

朕官吏非職條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本令ハ明治二十三年八月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第三百二十九號 (官報 七月二十五日)
官吏非職條例中左ノ通改正ス

- 第七條一項 非職員ハ特ニ本團長官ノ許可ヲ得テ地方病院學校及農工商陸海運輸等會社ノ業務ニ從事シ其役

員ト爲リ又ハ商業ヲ營ムコトヲ得但此場合ニ於テハ第五條ノ俸給ヲ支給セス
第八條 削除

朕造幣局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四百四十號(官報七月二十五日)

造幣局官制

第一條 造幣局ハ大阪ニ置キ大藏大臣ノ管理ニ屬シ貨幣ノ鑄造舊貨幣ノ鑄潰賞牌ノ製造地金銀ノ

精製分析及諸鑛物ノ試験ヲ掌ル

第二條 造幣局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

理事官 三人

技師 五人

技師試補 二人

屬 三十人

技手 二十四人

第三條 局長ハ勅任ニ等以下奏任ニ等以上トシ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理

ス

第四條 理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ分掌ス局長事故アルトキハ上席理事官之

ヲ代理ス

第五條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工業ヲ監理ス

第六條 屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事ニ從フ

第七條 技手ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ工業ノ事ニ從フ

第八條 東京ニ造幣支局ヲ置キ地金ノ受入及代リ貨幣拂渡ノ事務ヲ分掌ス

造幣支局長ノ事務ハ理事官ヲシテ之ヲ掌理セシム

朕印刷局官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十四日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四百四十一號(官報七月二十五日)

印刷局官制

第一條 印刷局ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ兌換銀行券印紙郵便切手諸證券類ノ製造竝ニ諸印刷及抄

紙ノ事ヲ掌ル

第二條 印刷局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一人

- 理事官 二人 奏任
 - 技師 三人 奏任
 - 技師試補 一人
 - 屬 四十五人
 - 技手 六十八人
- 第三條 局長ハ勅任ニ等以下奏任ニ等以上トシ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ局中一切ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 理事官ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ文書會計ノ事ヲ分掌ス局長事故アルトキハ上席理事官之ヲ代理ス
- 第五條 技師ハ局長ノ指揮監督ヲ承ケ工業ヲ監理ス
- 第六條 屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ書記簿記計算ノ事ニ從フ
- 第七條 技手ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ工業ノ事ニ從フ

朕稅關官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十四日

内閣總理大臣伯耆山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第四百四十二號(官報セリ二十五日)

稅關官制

- 第一條 稅關ハ大藏大臣ノ管理ニ屬シ海關稅務ヲ掌ル
- 第二條 稅關ニ左ノ職員ヲ置ク
- 稅關長 六人 奏任
 - 稅關副長 二人 奏任
 - 鑑定官 五人 奏任
 - 鑑定官試補 五人
 - 屬 二百七人
 - 鑑定吏 二十一人 判任
 - 監吏 二十四人 判任
 - 監吏補 二百七十四人 判任六等
- 第三條 稅關長ハ大藏大臣ノ指揮監督ヲ承ケ稅關ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス
- 第四條 稅關副長ハ現任ノ稅關長ノ次等以下トシ横濱神戸兩稅關ニ限リ之ヲ置キ稅關長ノ事務ヲ助ク稅關長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
- 第五條 鑑定官ハ稅關長ノ指揮監督ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ヲ掌理ス
鑑定官ハ課長ヲ兼メルコトヲ得
- 第六條 屬ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ書記計算簿記ノ事ニ從フ
- 第七條 鑑定吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ貨物検査鑑定ノ事ニ從フ
- 第八條 監吏ハ各上官ノ指揮ヲ承ケ監吏補ヲ監督シテ密商脫稅監視ノ事ニ從フ
- 第九條 監吏補ハ監吏ノ事務ヲ助ク

朕茲ニ稅關監吏補俸給ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年七月二十四日

勅令第四百三十三號(官報 七月二十五日)

稅關監吏補ノ俸給ハ月俸拾五圓以下五圓以上トス

朕稅關監吏及監吏補任用ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十四日

勅令第四百四十四號(官報 七月二十五日)

稅關監吏及監吏補ハ大藏大臣別ニ試驗規則ヲ定メ之ヲ採用スルコトヲ得其規則ニ依リ採用セラレタルモノハ普通試驗ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉任スルコトヲ得ス

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

勅令第四百四十五號(官報 七月二十六日)

供託規則

第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省預金局ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第二條 供託シタル金錢ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ拂込ノ翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マデ通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

第三條 供託ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣定ムル所ノ式ニ依リ供託書ヲ製シテ供託物ニ添ヘ其申込ヲ爲スヘシ

第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第二百六十八條及商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所ノ通知ニ依リ拂渡スヘキモノトス但供託者ニ於テモ其受領スヘキ理由アルコトヲ證明シ返戻ヲ請求スルコトヲ得

第六條 有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ヲ受取ントスルトキハ有權者ヨリ大藏省預金局ニ請求スヘシ此請求ナキトキハ政府ハ損害ノ責ニ任セサルヘシ

第七條 前條ノ請求ニ依リ大藏省預金局ニ於テ受取リタル償還金利子又ハ配當金ハ代供託物又ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管スヘシ

朕看守奉職滿五年以上ノ者ヲ看守長看守副長ニ任用スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
内務大臣伯爵西郷從道

勅令第四百四十六號(官報 七月二十六日)

看守奉職滿五年以上ニシテ精勤證書ヲ有シ現ニ其職ヲ奉スル者ハ文官試験試補及見習規則第二條ノ規定ニ據ラス文官普通試験委員長ノ銓衡ヲ經テ看守長看守副長ニ任用スルコトヲ得
但試験ヲ經スレテ任用シタル看守長看守副長ハ普通試験ヲ經ルニアラサレハ他ノ判任官ニ轉スルコトヲ得ス

朕海軍檢閱條例ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十八日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第四百四十七號(官報 七月二十九日)

海軍檢閱條例

- 第一條 海軍檢閱ハ特命檢閱恒例檢閱臨時檢閱ノ三トス
- 第二條 特命檢閱ハ將官勅ニ依リ檢閱使ト爲リ鎮守府ノ艦團隊若クハ常備艦隊ニ於テ軍紀ノ張弛服務ノ勤惰教育ノ精粗軍備ノ整否ヲ閱視檢實スルモノトス
- 第三條 檢閱使ニハ大佐一人少佐一人尉官二人少主計一人ヲ附シ檢閱ノ事務ニ服セシメ其下ニ主

帳二人ヲ屬シ上官ノ命ヲ受ケ庶務ニ服セシム又准將校各一人若クハ二人ヲ附シ檢閱ノ事務ニ服セシムルコトアルヘシ

第四條 檢閱使ハ檢閱ノ爲メ司令長官ニ通告シテ艦船ヲ便宜ノ港ニ召集スルコトヲ得

第五條 檢閱使鎮守府ヲ置ク府縣ノ治所ニ至レハ知事控訴院長檢事長地方裁判所長及檢事正ノ存

問ヲ受クルモノトス

第六條 檢閱使ハ閱視ノ事ニ付意見ヲ司令長官ニ訓示スヘシ

第七條 檢閱使使務ヲ終レハ其實況ヲ奏上スヘシ

第八條 恒例檢閱ハ鎮守府司令長官艦隊司令長官一年ニ一回部下艦團隊ニ於テ軍紀ノ張弛服務ノ勤惰教育ノ精粗軍備ノ整否ヲ檢閱スルモノトス

第九條 鎮守府司令長官艦隊司令長官檢閱ヲ行フトキ外國派遣中ノ艦船アルトキハ歸朝ノ後其檢

閱ヲ爲シ修理中ニ在テ檢閱ヲ行フニ支障アル艦船アルトキハ修理落成ノ後其檢閱ヲ爲スヘシ

第十條 鎮守府司令長官艦隊司令長官部下艦團隊ノ檢閱ヲ終レハ其成績ハ海軍大臣ヲ經テ奏上ス

ヘシ

第十一條 鎮守府司令長官艦隊司令長官部下艦船ニ外國派遣ヲ命セラレタルモノアルトキハ第八

條ニ依リ檢閱ヲ行フノ外發艦ノ前及歸著ノ後檢閱ヲ爲スヘシ但此檢閱ハ成績ヲ奏上スルヲ要セ

ス

第十二條 鎮守府司令長官艦隊司令長官事故アリ部下艦船ヲ檢閱スルコト能ハサルトキハ鎮守府

司令長官ハ軍港司令官若クハ其部下先任艦長ヲ派遣シ艦隊司令長官ハ司令官若クハ其部下先任

艦長ヲ派遣シ檢閱セシムルコトヲ得

第十三條 臨時檢閱ハ海軍少將ヲ以テ教育檢閱使若クハ兵器檢閱使ト爲シ海軍大臣ノ命ヲ受ケ鎮

守府若クハ艦隊ニ就キ教育ノ精粗若クハ兵器準備ノ實況及其供給事務ノ整否ヲ檢閲セシムルモ
ノトス

第十四條 教育檢閲使兵器檢閲使使務ヲ終レハ其實況ヲ具シ意見ヲ附シテ海軍大臣ニ復命スヘシ
第十五條 檢閲ニ關スル細則ハ海軍大臣之ヲ定ム

朕海軍軍人俸給令中改正追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十八日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第四百四十八號(官報七月二十九日)

海軍軍人俸給令中左ノ通改正追加ス

第一條二項

水雷夫ニハ其等級相當日給十分ノ五ヲ増給ス

第五條中「在職俸十分ノ八」ヲ「在職俸十分ノ九」ト改ム

第十七條二項

艦船ノ乘員航海スルトキハ俸給半額ヲ其家族ニ下渡スコトヲ得

朕海軍軍人手當金規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十八日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第四百四十九號(官報七月二十九日)

海軍軍人手當金規則中左ノ通改正ス

第一條 軍港外ニ在ル艦船ノ乘員ニハ經緯度ニ應シ第一表ノ手當金ヲ給シ水雷船ニ乘組軍港外若
ハ碇泊港外ニ於テ十二時間以上航行スル者ニハ經緯度ニ應シ第二表ノ手當金ヲ給ス

上官ノ職務心得ヲ命セラレタル者ニハ其官職相當ノ手當金ヲ給ス

軍港外ニ在ル艦船軍港ニ入ルトキ其日ヨリ一週日以内ハ本條ニ準シ手當金ヲ給ス但水雷船乘員
ハ此限ニ在ラス

第四條中「第二表」ヲ「第三表」ト改ム

第二表 水雷船乘員航海手當金表

候補生及准士官	官士		官長上		東經百十度以東 東經百六十度以東 北緯二十度以南	東經百十度以東 東經百六十度以東 北緯二十度以南	東經百十度以東 東經百六十度以東 北緯二十度以南	東經百十度以東 東經百六十度以東 北緯二十度以南	東經百十度以東 東經百六十度以東 北緯二十度以南
	其	艇船	其	艇船					
三十錢	六	八	一圓四十錢	一圓六十錢	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南
九十錢	十	十	二	三	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南
一圓二十錢	十	十	三	三	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南
一圓四十錢	十	十	四	四	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南
一圓八十錢	十	十	五	五	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南	北緯二十度以南

卒		士		下	
五等	四等	三等	二等	一等	一等
錢十四	錢十六	錢十八	錢二十	錢二十四	錢二十六
錢十四	錢十六	錢十八	錢二十	錢二十四	錢二十六
錢十四	錢十六	錢十八	錢二十	錢二十四	錢二十六
錢十四	錢十六	錢十八	錢二十	錢二十四	錢二十六
錢十四	錢十六	錢十八	錢二十	錢二十四	錢二十六

朕艦船ノ乗員俸給前渡及糧食料前渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十八日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第五百五十號(官報七月二十九日)

艦船ノ乗員三箇月以上ノ航海ヲ爲ストキハ出航ノ際翌月マテノ俸給ヲ前金渡スルコトヲ得
海軍糧食條例第七條ニ依リ糧食ニ代ヘ給スル現金ハ航海ニ際シテハ其見積リ日數以內其他ノ場合
ニ於テハ一箇月以內ニ於テ前金渡スルコトヲ得

朕坑業ニ關スル手数料徴收ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十九日

農商務大臣陸奥宗光

勅令第五百五十一號(官報七月三十日)

- 第一條 坑業ニ關シ次ニ掲ケタル出願ヲ爲ス者ハ左ノ手数料ヲ納ムヘシ
- 一 試掘ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金三圓
 - 一 借區ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金拾五圓
 - 一 試掘ノ讓與、延期、加除名ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金壹圓
 - 一 借區ノ繼年期讓與、加除名訂正、合併若ハ分割ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金五圓
 - 一 借區外製煉所建設又ハ借區外ノ坑道、通洞ヲ出願スルトキ 一願書毎ニ金貳圓

第二條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ

第三條 本令ハ明治二十三年八月一日ヨリ施行ス

朕海軍下士任用進級條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月三十日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第五百五十二號(官報七月三十一日)

海軍下士任用進級條例

第一條 海軍下士ハ二等ヲ初任トシ海上勤務一箇年半以上若クハ陸上勤務二箇年以上ノ實役停年ヲ經タル一等卒中ヨリ左ノ區別ニ從ヒ任用ス

一 三等兵曹ハ高等水兵練習艦若クハ砲術練習艦若クハ水雷術練習艦卒業ノ一等水兵又ハ海兵團ニ於テ信號教程ヲ卒業シタル一等水兵ヨリ任用ス

二 三等機關手ハ機關學校卒業ノ一等火夫又ハ水雷術練習艦ニ於テ水雷教程ヲ卒業シタル一等火夫一等鍛冶ヨリ任用ス

三 三等軍樂手ハ一等軍樂生中三等船匠手ハ一等木工中三等鍛冶手ハ一等鍛冶中三等主帳ハ一等廚夫中海軍大臣ノ定ムル所ノ教育規則ニ依リ卒業シタル者ヨリ任用ス

四 三等看護手ハ學術検査ニ合格シタル一等看護病夫ヨリ任用ス
技工ハ前項ニ依ラス造船工學校卒業ノ生徒又ハ海軍大臣ノ定ムル任用試験ニ及第シタル者ヨリ任用ス

第二條 左ニ掲グル事項ノ一ニ當ル者ハ下士ニ任用スルコトヲ得ス
一 年齡二十年未滿ノ者

二 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

第三條 進級ハ超級ノ陞進ヲ許スコトナク缺員アルニアラサレハ進級セシムルコトナシ又機關學校ヲ卒業シタル機關手特別教育規則ニ依リ卒業シタル主帳ノ外ハ學術検査ニ合格シタル者ニアラサレハ進級セシムルコトヲ得ス

第四條 三等下士ニシテ海上勤務一箇年半以上若クハ陸上勤務二箇年以上ニシテ海上勤務二箇年以上若クハ陸上勤務二箇年八箇月以上一等下士ニシテ海上勤務三箇年以上若クハ陸上勤務四箇年以上ノ實役停年ヲ經タル者ハ各其上級ノ官ニ進級セシムルコトヲ得

第五條 戰時ニ在テハ實役停年最下期限ヲ其半ニ減スルコトヲ得

第六條 敵ノ捕虜トナリ正當ノ理由アル者ハ其年月ヲ實役停年ニ算入スルコトヲ得

第七條 收禁處刑及歸休中ノ日數ハ實役停年ニ算入セス

第八條 停年ヲ算スルニハ三月一日ヲ以テ終期トス

第九條 海上勤務ト稱スルハ軍艦ニ乘組ミ服務スルヲ云フ

第十條 公務ニ原因セサル傷痍疾病ニ依リ上陸療養ノ日數ハ海上勤務ニ算入セス

第十一條 海上勤務ヨリ陸上勤務ニ轉シタル者ノ停年ハ海上勤務日數ノ三分一ヲ加算シ陸上勤務ヨリ海上勤務ニ轉シタル者ノ停年ハ陸上勤務日數ノ四分一ヲ減算スルモノトス

第十二條 下士ノ任用進級ハ海兵團在籍ノ區別ニ從ヒ各鎮守府司令長官之ヲ行フモノトス但艦隊ニ屬スル下士ノ任用進級ハ艦隊司令長官之ヲ行ヒ一等下士ノ進級及造兵廠火藥工廠水路部ニ勤務セシムル技工ノ任用進級ハ海軍大臣之ヲ行フモノトス

第十三條 艦隊隊長各廳長ハ毎年學術検査終ルノ後部下ノ下士及一等卒中進級セシムヘキ者ヲ選拔シ下士任用進級候補名簿ヲ調製シ所屬ノ鎮守府司令長官艦隊司令長官ニ出ス可シ但練習生タル下士ノ進級候補名簿ハ在籍海兵團ヲ管スル鎮守府司令長官ニ出スヘシ

第十四條 兵曹機關手ノ任用進級候補名簿ハ海軍大臣ニ出ス可シ
鎮守府司令長官ニ出ス可シ但技工ノ候補名簿ハ海軍大臣ニ出ス可シ

甲 兵曹

- 一 掌砲ノ職ニ充ツ可キ者
- 二 掌水雷ノ職ニ充ツ可キ者

三 掌帆ノ職ニ充ツ可キ者
四 信號ノ職ニ充ツ可キ者

乙 機關手

一 汽關部員ノ職ニ充ツ可キ者
二 水雷工ノ職ニ充ツ可キ者

丙 技工

一 造船ノ職ニ充ツ可キ者
二 汽機汽罐製造ノ職ニ充ツ可キ者
三 造兵ノ職ニ充ツ可キ者
四 火藥製造ノ職ニ充ツ可キ者
五 水路測量ノ職ニ充ツ可キ者

第十五條 鎮守府司令長官ハ部下ノ軍港司令官參謀長軍港内ニ在ル部下艦隊長ヲ會同シ艦隊司令長官ハ部下ノ司令官參謀長同港ニ在ル部下ノ艦長ヲ會同シ下士任用進級候補名簿ニ就キ候補者ノ技能ノ優劣ニ依リ順序ヲ定メ下士任用進級決定候補名簿ヲ調製シ海軍大臣ニ出ス可シ艦隊司令長官決定候補名簿ヲ調製スルニハ軍艦ノ本管ニ依リ鎮守府毎ニ區別ス可シ鎮守府司令長官他鎮守府本管ノ艦ヲ管轄スルコトアルトキ亦同シ

第十六條 決定候補名簿ノ効ハ次回ノ決定候補名簿調製迄ノモノトス

決定候補名簿ニ登載ノ後任用進級セシムル能ハサル事由ヲ生シタル者ハ之ヲ除名ス可シ

第十七條 定員外ノ下士ハ陞進ノ順次ニ當ルト雖モ定員ニ充テタル後ニ非サレハ敘任スルコトヲ得ス

練習生ハ豫備艦非役艦ノ定員ニ充ツ可キ現員不足アルトキニ進級セシムルコトヲ得

第十八條 左ノ場合ニ在テハ前諸條ノ例ニ依ルコトナク任用シ又ハ進級セシムルコトヲ得

一 敵前ニ在テ殊勳ヲ奏セシ者アル時

二 戦地ニ在テ人員多ク缺乏シ補敘定規ヲ履ム能ハサル時

第十九條 鎮守府司令長官艦隊司令長官司令官ハ典軍ノ日ニ方リ戦地ニ派遣スル艦長ニ下士任用進級ノ權ヲ假スコトヲ得

朕集治監假留監官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
内務大臣 伯耆西郷從道

勅令第五百五十三號 (官報 八月四日)

集治監假留監官制

第一條 各集治監假留監ニ左ノ職員ヲ置ク

典獄

書記

看守長

監獄醫

第二條 各監ニ典獄一人ヲ置ク奏任三等以下トス内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ監獄ノ事務ヲ掌理ス

第三條 典獄ハ所屬ノ官吏ヲ統督シ判任官ノ進退ハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

第四條 典獄ハ臨時ノ須要ニ依リ判任官以下俸給豫算定額内ニ於テ雇員ヲ使用スルコトヲ得

第五條 典獄ハ一週年末ニ其監ノ豫算定額内ニ於テ判任官以下特別ノ勤勞アル者ヲ賞與スルコト

ヲ得其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具狀シ看守以下ニ係ルモノハ之ヲ專行ス

第六條 典獄ハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ所屬官吏ヲ懲戒ス其判任官ニ係ルモノハ内務大臣ニ具

狀シ看守以下ハ之ヲ專行ス

- 第七條 書記ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ庶務ヲ分掌ス
- 第八條 典獄事故アルトキハ上席書記内務大臣ノ命ヲ承ケテ共事務ヲ代理ス
- 第九條 看守長ハ判任ニ等以下トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ノ戒護ヲ掌リ看守ヲ指揮ス
- 第十條 監獄醫ハ判任トス典獄ノ命ヲ承ケ監獄ニ係ル醫務ニ從事ス
- 第十一條 東京集治監宮城集治監三池集治監及兵庫假留監ヲ通シテ書記三十五人看守長三十八人監獄醫八人ヲ以テ定員トス
- 第十二條 看守ニ係ル規程ハ別ニ定ムル所ニ依ル
- 第十三條 事務ノ分課並處務ノ規程ハ内務大臣之ヲ定ム
- 第十四條 監獄職員ノ外各監ニ教誨師一人乃至二人ヲ置キ判任ノ待遇トス
- 第十五條 集治監所在ノ地ニ設ケタル假留監ニハ別ニ共職員ヲ置カス集治監ノ職員ヲ以テ之ニ充ツ

朕中央衛生會官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
内務大臣 伯爵西郷從道

勅令第五百五十四號 (官報 八月四日)

中央衛生會官制

第一條 中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ各省大臣ノ諮詢ニ應ジ公衆衛生獸畜衛生ニ關シテ意

見ヲ述ヘ及共施行方法ヲ審議ス

- 第二條 中央衛生會ハ各省主管事務中衛生ニ關スル事項ニ就テハ其主任大臣ニ建議スルコトヲ得
- 第三條 中央衛生會ハ衛生各般ノ事項ヲ警視總監北海道廳長官及府縣知事ニ尋問シ或ハ臨時會員ヲ各地方ニ派遣シテ檢察セシムルコトヲ得
- 第四條 中央衛生會議事規則ハ該會ニ於テ之ヲ議定シ内務大臣ノ認可ヲ請フヘシ
- 第五條 中央衛生會ハ左ノ職員ヲ以テ組織ス

- 一 會長
 - 二 幹事
 - 三 委員
 - 四 臨時委員
- 會長ハ勅任トス幹事ハ一人委任トシ内務大臣奏薦宣行ス
- 第六條 委員ハ左ノ各官ヲ以テ之ニ充ツ

- 陸軍省醫務局長
- 海軍中央衛生會議議長
- 宮内省侍醫局長
- 帝國大學醫科大學長
- 警視總監
- 東京府知事
- 内務省衛生局長
- 内務省警保局長

内務省高等官

三八

- 其他醫師十二人化學家三人ヲ以テ委員トス
- 委員中醫師化學家内務省高等官及臨時委員ハ内務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
- 第七條 會長ハ本會議事規則ニ依リ議事ヲ整頓シ共議定セシメテ内務大臣及主任大臣ニ具申ス
- 第八條 會長事故アルトキハ開會當日ノ上席人ヲシテ其事務ヲ代理セシム
- 第九條 幹事ハ會長ノ指揮ヲ受テ庶務ヲ整理ス
- 第十條 會長及幹事ハ他ノ官職アル者ヨリ兼任スルトキハ別ニ其俸給ヲ給セシム
- 第十一條 中央衛生會ニ書記ヲ置ク上官ノ指揮ヲ承ケ議事ノ筆記及庶務ニ従事ス
- 書記ハ定員三人トシ内務副ヲ以テ之ニ充ツ

○ 朕衛生試驗所官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
内務大臣伯爵西郷從道

勅令第五百五十五號 (官報 八月四日)

衛生試驗所官制

- 第一條 東京大阪横濱ニ衛生試驗所ヲ置ク
- 第二條 衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱フ所トス
- 第三條 各衛生試驗所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

技師

技師試補

技手

書記

第四條 所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所内ノ事務ヲ管理シ所屬職員ヲ統

督ス
第五條 技師ハ奏任トシ七人ヲ以テ定員トス各試驗所ニ分屬シ所長ノ指揮ヲ承ケ試驗ノ事務ヲ分

掌ス
第六條 技師試補ハ四人ヲ以テ定員トシ各所ニ分屬セシム
第七條 技手ハ判任トシ二十一人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ従事ス

第八條 書記ハ判任トシ十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス
第八條 各試驗所事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

○ 朕中央氣象臺官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
内務大臣伯爵西郷從道

勅令第五百五十六號 (官報 八月四日)

中央氣象臺官制

第一條 中央氣象臺ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 氣象觀測
- 二 氣象報告
- 三 氣象調査
- 四 氣象觀測器械検査
- 五 天氣豫報
- 六 暴風警報
- 七 地震驗測
- 八 地磁氣驗測
- 九 空中電氣驗測
- 十 空氣驗測

第二條 中央氣象臺ニ左ノ職員ヲ置ク

- 臺長
- 技師
- 技師試補
- 技手
- 書記

第三條 臺長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ臺務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督ス

第四條 技師ハ奏任トシ四人ヲ以テ定員トス臺長ノ指揮ヲ承ケ臺務ヲ分掌ス

技師試補ハ一人ヲ以テ定員トス

第五條 技手ハ判任トシ十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ臺務ニ従事ス

第六條 書記ハ判任トシ五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第七條 事務ノ分課ハ内務大臣之ヲ定ム

朕土木監督署官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣伯備山縣有朋
内務大臣伯備西郷從道

勅令第五百五十七號(官報八月四日)

土木監督署官制

第一條 内務省直轄ノ土木工事ヲ施行シ及地方ノ土木工事ヲ監視スル爲メ土木監督區ヲ置ク左ノ如シ

第一區

- 武藏 上總 下總 常陸 上野 下野 安房 相模 伊豆 駿河
- 甲斐 遠江 信濃ノ内

第二區

- 磐城 岩代ノ内 陸前 陸中 陸奥 羽前 羽後

第三區

越後 岩代ノ内 越中 佐渡 能登 加賀 越前 飛騨ノ内 信濃ノ内

若狹

第四區

三河 尾張 美濃 信濃ノ内 飛騨ノ内 伊勢 志摩 伊賀 近江

山城

淡路

第五區

阿波 讚岐 伊豫 土佐 備前 備中 備後 安藝 周防 長門

美作

第六區

豐前 豐後 筑前 筑後 肥前 肥後 薩摩 大隅 日向 壹岐

對馬

第二條 土木監督區ニ土木監督署ヲ置キ内務大臣ノ管轄ニ屬シ左ノ職員ヲ置ク

署長

技師

技師試補

技手

書記

第三條 監督署長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署務ヲ管理シ所屬職員ヲ統督

ス

第四條 監督署長ハ部内地方ノ土木事業ヲ巡視シ利害得失ヲ精査シ之ヲ内務大臣ニ報告ス可シ

第五條 監督署長ハ内務省直轄ノ土木事業ヲ計畫シ意見ヲ内務大臣ニ開申シ其命令ニ依リ之ヲ施行ス可シ

第六條 監督署長ハ内務大臣ノ命令ニ依リ特ニ新設工事又ハ既成工事ノ變更等ヲ検査スルトキハ

意見ヲ内務大臣ニ開申ス可シ

第七條 技師ハ奏任トシ二十八人ヲ以テ定員トス各監督署ニ分屬シ署長ノ指揮ヲ承ケ署務ヲ分掌

ス

技師試補ハ十六人ヲ以テ定員トシ各署ニ分屬セシム

第八條 技手ハ判任トシ百二十五人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ工務ニ従事ス

第九條 書記ハ判任トシ四十八人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

○

朕茲ニ判事檢事官等俸給令ヲ裁可ス

御 名 御 璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
司法大臣伯爵山田顯義

勅令第五百五十八號(官報八月四日)

判事檢事官等俸給令

第一條 判事檢事ノ官等年俸ハ別表定ムル所ニ依ル

第二條 判事檢事ノ各職ニ付其人員官等年俸ヲ限定スルコト左ノ如シ

大審院

長 一人 年俸五千圓

勅任一等 但特ニ年俸五千五百圓ヲ給スルコトアルヘシ

部長 三人 年俸四千五百圓四千人

勅任一等二等 二十七人

判事 勅任二等乃至奏任二等 年俸三千五百圓乃至千八百圓

大審院檢事局

檢事總長 一人 年俸五千圓又ハ四千五百圓

勅任一等 五人

檢事 勅任二等乃至奏任二等 年俸三千五百圓乃至千八百圓

控訴院

長 七人 年俸四千五百圓

東京 勅任一等 年俸四千圓三千五百圓

大阪 勅任二等 十五人

部長 奏任一等二等 年俸二千六百圓乃至千八百圓

判事 八十五人

奏任三等四等 年俸千六百圓乃至千圓

控訴院檢事局

檢事長 七人

勅任二等 東京 年俸四千圓 千圓

檢事 奏任一等乃至四等 其他三千五百圓三千圓

地方裁判所 長 四十八人 年俸二千四百圓乃至千圓

東京 奏任一等 年俸二千六百圓

大阪 奏任一等 年俸二千四百圓乃至千六百圓

其他奏任一等乃至三等 九十八人

部長 奏任三等四等 年俸千四百圓乃至千圓

判事 奏任四等乃至六等 年俸九百圓乃至五百圓

地方裁判所檢事局 檢事正 四十八人

東京 奏任一等 年俸二千四百圓

大阪 奏任一等 年俸二千二百圓乃至千百圓

其他奏任二等乃至四等 百二十五人

檢事

檢事

檢事

奏任四等乃至六等

年俸千圓乃至五百圓

區裁判所

判事

八百四十人

奏任四等乃至六等

年俸九百圓乃至五百圓

區裁判所檢察局

檢察

二百七十五人

奏任四等乃至六等

年俸九百圓乃至五百圓

第三條 豫備判事ハ其人員ヲ二十五人トシ豫備檢察ハ其人員ヲ十五人トス

豫備判事豫備檢察ハ奏任六等ニ敍シ年俸四百圓ヲ給ス

司法官試補ハ其人員ヲ百八十人トス

司法官試補ハ其待遇ヲ奏任トシ年俸二百圓以下ヲ給ス

第四條 第二條ノ各職中年俸ニ等差アルモノハ每俸平等ニ其人員ヲ定ム但端數ノ人員ヲ生スルト

キハ最下級ヨリ漸次上級ノ人員ニ併合ス

第五條 裁判所構成法第六十二條ニ依リ新任スル判事又ハ檢察ニシテ直チニ補職スル者ハ奏任六

等ニ敍シ年俸五百圓ヲ給ス豫備判事又ハ豫備檢察ニシテ補職スル者モ亦同シ

裁判所構成法第六十五條第一項ニ依リ新任スル判事又ハ檢察ハ其補スヘキ職ノ最下ノ官等ニ敍

シ最下ノ年俸ヲ給ス

判事又ハ檢察ニシテ他ニ轉官シ若ハ退官シタル者ヲ更ニ判事又ハ檢察ニ任スルトキハ前官ト同

等若ハ其以下ノ官等ニ敍シ前官ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ヲ給ス

第六條 判事又ハ檢察ノ進級ハ關員アルトキニ限り之ヲ行フ

進級トハ陞等又ハ増俸ヲ謂フ

第七條 判事又ハ檢察ノ進級ハ第二條ニ掲ケタル各職毎ニ先任ノ順序ニ依リ之ヲ行フ但區裁判所

判事ハ地方裁判所判事ト併合シ區裁判所檢察局檢察ハ地方裁判所檢察局檢察ト併合シテ先任順

序ヲ定メ進級セシム

大審院ノ部長判事大審院檢察局ノ檢察總長檢察控訴院ノ部長判事控訴院檢察局ノ檢察長檢察

地方裁判所ノ部長及地方裁判所檢察局ノ檢察正ノ補職ハ拔擢ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得但官等

ヲ超越セシムルコトヲ得ス又其補スヘキ職ノ最下ノ年俸ニ非サレハ給スルコトヲ得ス

東京大阪ノ控訴院ノ長同院檢察局ノ檢察長及東京大阪ノ地方裁判所ノ長同地方裁判所檢察局ノ

檢察正ノ補職モ亦拔擢ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得但官等ヲ超越セシムルコトヲ得ス

第八條 判事檢察ノ各職ニ於ケル先任順序ハ年俸ノ多寡ニ依リ之ヲ定ム年俸相同シキモノハ年俸

下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ其日付相同シキモノハ前年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ其日付

相同シキモノハ年俸ニ依リ之ヲ定ム

判事檢察ノ裁判所内ニ於ケル席次ハ前項ノ規程ニ從フ

第九條 判事又ハ檢察轉職スルトキハ前職ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ニ非サレハ給スルコトヲ得

ス此場合ニ於テハ前職ノ年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ後職ノ先任順序ヲ定ム

待命ノ判事又ハ檢察補職セララルトキ及司法行政官吏ニシテ判事檢察タルノ資格ヲ有スル者判

事又ハ檢察ニ轉任シ補職セララルトキモ亦同シ

退職ノ判事又ハ檢察補職セララルトキハ前職ト同年俸若ハ其以下ノ年俸ニ非サレハ給スルコト

ヲ得ス此場合ニ於テハ後職ノ年俸下賜辭令ノ日付ノ前後ニ依リ先任順序ヲ定ム

第十條 高等官官等俸給令第二條第三條第四條第六條第二十一條乃至第二十四條第二十六條及第

二十七條ハ判事檢察事ニモ亦之ヲ準用ス

附則

第十一條 裁判所構成法實施ノ際敘任スル者ハ第七條第一項ノ規程ニ依ラス進級セシムルコトヲ得

第十二條 裁判所構成法實施ノ際在職ノ裁判官檢察官ハ其官等年俸第二條ニ定メタル官等年俸ヨリ高等多額ナルモ其官等年俸ノ儘其職ニ補スルコトヲ得

第十三條 本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

官等	勅		任						
	一	二	一	二	三	四	五	六	
年俸	五千五百圓	五千圓	四千五百圓	四千圓	三千五百圓	三千圓	二千五百圓	二千圓	一千五百圓
	上	下	上	中	下	上	中	下	上
	五千圓	四千五百圓	四千圓	三千五百圓	三千圓	二千五百圓	二千圓	一千五百圓	一千圓

朕茲ニ裁判所書記長書記ノ官等俸給ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣 伯耆山縣有朋
司法大臣 伯爵 山田顯義

勅令第五百五十九號 (官報 八月四日)

裁判所書記長書記官等俸給

第一條 書記長ノ官等ハ奏任三等又ハ四等トス

裁判所書記ハ判任官一等以下六等以上トス但判任官六等ニハ八圓九圓拾圓ノ月俸ヲ給スルコトヲ得

第二條 裁判所書記ノ各職ニ付其人員ヲ限定スルコト左ノ如シ

大審院

書記長

裁判所書記

大審院檢察局

裁判所書記

控訴院

書記長

裁判所書記

控訴院檢察局

裁判所書記

地方裁判所

裁判所書記

地方裁判所檢察局

裁判所書記

區裁判所

- 一人
- 二十人
- 五人
- 七人
- 百四十五人
- 二十五人
- 七百七十五人
- 百五十八人

裁判所書記

四千六百八

區裁判所檢事局

裁判所書記

四百八十五人

第三條 本令ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行ス

朕華族懲戒例廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第六十號 (官報 八月四日)

明治十八年 太政官號外達華族懲戒例ヲ廢止ス

朕非職官吏俸給ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月七日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十一號 (官報 八月八日)

非職官吏ニシテ府縣郡市町村及公共組合ノ吏員トナリ其給料ヲ受クル者ハ官吏非職條例第五條ノ

俸給ヲ支給セス

朕二等郵便及電信局長手當金並退官死亡賜金ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月八日

遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第六十二號 (官報 八月九日)

第一條 二等郵便電信局長三等郵便局長及三等電信局長ハ俸給ヲ給セス年額四百圓以下ノ手當金ヲ給與ス其給與額ハ遞信大臣之ヲ定ム

第二條 三等郵便電信局長三等郵便局長及三等電信局長在官中死亡シタルトキ若クハ廢官廢局ノトキ又ハ滿三年以上勤續シタル者退官セシトキハ遞信大臣ニ於テ其勤勞ニ依リ百圓以内ノ金額ヲ給與ス但懲戒處分ニ依リ免官セラレ若クハ刑事裁判ニ依リ官職ヲ失ヒタル者ハ總テ之ヲ給與セス

朕監軍部條例第六條中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月九日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第六十三號 (官報 八月十一日)

監軍部條例第六條中「輜重兵中佐ヲ以テ」ヲ「輜重兵大(中)佐ヲ以テ」ニ改ム

朕衛戍條例監獄職官表中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第六十四號(官報八月十一日)

衛戍條例監獄職官表中東京ノ區畫看守卒二十四ヲ十八ニ計四十ヲ三十四ニ改メ備考ノ二左ノ如ク改ム

二 仙臺名古屋ニ在テハ定員ノ外看守卒三名ヲ増加ス

朕茲ニ判任官官等俸給令中改正ノ件ヲ裁可ス

御名 御璽

明治二十三年八月十二日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
大藏大臣伯爵松方正義

勅令第六十五號(官報八月十三日)

判任官官等俸給令中左ノ通改正ス
第二條 判任文官ノ月俸ハ別表ニ依リ毎月下旬ニ於テ之ヲ支給ス

朕海軍高等武官進級條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第六十六號(官報八月十四日)

海軍高等武官進級條例中左ノ通改正ス

第十一條中「刑罰」ヲ「處刑」ニ改ム

第十四條中「停年」ヲ「敘任」ニ改ム

第十八條中「進級」ノ下「及大佐ノ少將ニ進ム」ノ九字ヲ加フ

朕海軍火藥工廠官制廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第六十七號(官報八月十四日)

明治二十二年^四勅令第五十二號海軍火藥工廠官制ヲ廢ス

朕海軍造兵廠官制改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十三日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第六十八號 (官報 八月十四日)

海軍造兵廠官制

第一條 海軍造兵廠ハ兵器火藥及爆裂藥ノ製造改造修理購買ヲ掌ル所トス
 第二條 海軍造兵廠ニ左ノ職員ヲ置ク

廠長	一人	大佐
造兵科長	一人	大技監
造兵科主幹	五人	技監或ハ技士
製藥科長	一人	少佐或ハ技監
製藥科主幹	二人	技監或ハ技士
検査科長	一人	少佐
検査科主幹	四人	大尉或ハ技士
會計課長	一人	主計少監
倉庫主管	一人	大尉
材料主管	一人	大主計
上等兵曹	二人	

技手

三十六人

上等技工ヲ得
用スルコトヲ得

屬

三十一人

- 第三條 廠長ハ海軍大臣ノ命ヲ受ケ廠務ヲ總理ス
- 第四條 造兵科ニ於テハ兵器ヲ製造修理シ及其圖案入費概算書ヲ作ルコトヲ掌ル
- 第五條 製藥科ニ於テハ火藥及爆裂藥ヲ製造シ及其入費概算書ヲ作ルコトヲ掌ル
- 第六條 検査科ニ於テハ兵器火藥及爆裂藥ノ検査試験ノ事ヲ掌ル
- 第七條 會計課ニ於テハ金錢ノ收支材料物品ノ購買賣却及火藥拂下ニ關スルコトヲ掌ル
- 第八條 倉庫主管ハ兵器火藥及爆裂藥ノ保管及其輸送ニ關スルコトヲ掌ル
- 第九條 材料主管ハ材料物品ヲ出納保管スルコトヲ掌ル
- 第十條 科長課長主管ハ廠長ノ命ヲ受ケ其主務ヲ整理ス
- 第十一條 主幹ハ科長ノ命ヲ受ケ科務ヲ分掌ス
- 第十二條 上等兵曹ハ検査科ニ屬シ検査ニ係ル事ヲ掌ル
- 第十三條 技手ハ造兵科製藥科検査科ニ分屬シ技術ニ係ル事ヲ掌ル
- 第十四條 屬ハ科長課長主管ニ分屬シテ書記計算ノ事ニ從ヒ又廠長ノ命スル特務ニ服ス
- 第十五條 第二條ニ掲クル職員ノ外軍醫二人看護手一人看病夫二人ヲ置ク



朕東京市區改正條例中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十四日

内閣總理大臣伯耆山縣有朋
内務大臣伯耆西郷從道
大藏大臣伯耆松方正義

勅令第六十九號 (官報 八月十五日)
東京市區改正條例中第八條ヲ削除ス

○
朕東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區内清酒輸入規則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十四日

内閣總理大臣伯耆山縣有朋
内務大臣伯耆西郷從道
大藏大臣伯耆松方正義

勅令第七十號 (官報 八月十五日)

第一條 東京市區改正條例東京市區改正土地建物處分規則及東京府區内清酒輸入規則ノ規定ニ依リ東京府知事ニ屬スル事務ハ東京市參事會ニ之ヲ屬セシメ東京府市部會ニ屬スルモノハ東京市會ニ之ヲ屬セシム

第二條 市區改正ノ費用ヲ補助スル爲メ東京府市部ノ基本財産トシテ下付シタル河岸地ハ之ヲ東京市ニ引繼クヘシ

第三條 明治二十三年度東京市區改正ノ收支豫算ニシテ東京府市部會ノ議定ヲ經タルモノハ東京

市ニ於テ之ヲ存續スヘシ

○
朕砲兵方面條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十四日

陸軍大臣伯耆大山 巖

勅令第七十一號 (官報 八月十五日)

砲兵方面條例

第一條 砲兵方面ハ要塞ノ備砲及陸軍所要兵器彈藥ノ購買貯藏保存修理及支給分配ノ事ヲ掌ル所トス

第二條 砲兵方面ハ第一方面第二方面第三方面トス第一方面ハ本署ヲ東京ニ置キ第一第二師管及北海道ヲ管轄シ第二方面ハ本署ヲ大阪ニ置キ第三第四師管ヲ管轄シ第三方面ハ本署ヲ下ノ關ニ置キ第五第六師管ヲ管轄ス

第三條 師團司令部要塞司令部所在ノ地ニ砲兵方面支署ヲ置キ支署ノ附近ニアラサル旅團司令部所在ノ地ニ武庫ヲ置ク武庫ハ支署ノ管轄トス

前項ノ外樞要ナル衛戍地ニハ支署又ハ武庫ヲ置クコトアルヘシ其設置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

本署

提理 砲兵大中佐

副提理 砲兵少佐

一人
一人

署員 砲兵大中尉 一人

二三等軍吏 一人

支署

支署長

砲兵少佐或ハ砲兵大尉 一人

署員

砲兵大中尉 一人

第五條 前條ノ外本署支署ニ砲兵上等監護砲兵科下士及軍吏部下士若干ヲ置キ武庫ニ砲兵科下士若干ヲ置ク其人員ノ區分配置ハ陸軍大臣之ヲ定ム

第六條 第三條第二項ニ掲ル支署ニ在テハ衛戍地ノ位置ニ依リ署長ハ大中尉ヲ以テ之ニ充テ署員ハ置カサルコトアルヘシ又支署及武庫附下士ニ在テハ該地衛戍隊附下士ヲシテ其業務ヲ兼ネシムルコトヲ得

第七條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ方面ノ事務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任シ且管内要塞ノ防務ニ參與ス

第八條 提理ハ陸軍大臣ニ具申スヘシ
提理ハ毎年一回管内ヲ巡回シ要塞ノ備砲竝ニ諸隊ノ兵器彈藥ヲ検査シ修理保存ノ良否及其存廢ノ景況ヲ陸軍大臣ニ具申スヘシ

第九條 副提理ハ提理ヲ補佐シ方面ノ事務ヲ整理ス

第十條 支署長ハ提理ニ屬シ砲兵方面ノ事務ヲ分擔シ兵器彈藥ノ受授修理交換ノ事ヲ掌リ兼テ所在地ノ砲兵工廠派出所ノ事業ヲ管掌ス

要塞所在地ニ在テハ要塞司令官ノ命ヲ受ケ其防務ニ參與シ砲兵諸般ノ勤務ニ服ス
木署所在地ノ支署長ハ方面副提理之ヲ兼メルモノトス

第十條 支署長ハ兵器彈藥ノ支給修理交換ニ就テハ近衛都督師團長要塞司令官及所在地衛戍司令官ノ命ヲ受ケ之ヲ行フヘシ

官ノ命ヲ受ケ之ヲ行フヘシ

但兵器ノ修理ニ止ルモノハ直ニ各隊長ノ請求ニ應シテ之ヲ行フコトヲ得

第十一條 木署署員軍吏以下ハ提理ノ命ヲ受ケ支署署員以下ハ支署長ノ命ヲ受ケ各事務ヲ分掌ス

第十二條 武庫附下士ハ支署長ノ統轄ニ屬スト雖トモ其職務ニ就テハ尙ホ所在地衛戍司令官ノ監督ヲ受ルモノトス

第十三條 砲兵方面所管ノ兵器彈藥ハ陸軍大臣所定ノ數量ニ基キ之ヲ分テ本須及第一第二支須トス

第十四條 本須ハ木署ニ直轄シテ方面ノ庫内ニ貯藏シ第一支須ハ支署ニ貯藏シテ第二支須ノ補充ニ備ヘ第二支須ハ支署ニ配備シテ出師準備及演習用ニ供スルモノトス

第十五條 武庫ハ第二支須内ニ於テ專ラ後備諸隊所用ノ兵器彈藥ヲ保管スル所トス
前項ノ外特ニ武庫ノ保管ヲ要スルモノハ陸軍大臣之ヲ定ム

第十六條 凡テ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラサレハ本須ヨリ支須ニ移シ又ハ各方面相互交換スルコトヲ得ス

第十七條 所在兵器彈藥庫ニハ砲兵監護又ハ定番人ヲ置キ尙ホ交番守兵ヲ置クヘシ其守兵ヲ置クト否トハ場地ノ便宜ヲ圖リ提理ノ上申ニ依リ陸軍大臣之ヲ定ム但交番守兵ヲ置クトキハ監護又ハ定番人ヲ置カサルコトヲ得

第十八條 各堡壘及砲臺内ノ兵器彈藥ハ砲臺監守ヲシテ之ヲ監守セシム

第十九條 兵器彈藥庫附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アレハ提理又ハ支署長ヨリ該地衛戍若クハ要塞ノ司令官ニ牒告シ守衛ヲ嚴ニスヘシ

附則

第二十條 第三方面本署ハ追テ設置スルモノトス但之ヲ設置スルトキハ陸軍大臣之ヲ告示スヘシ
 第二十一條 第三方面本署設置ニ至ルマテ第一第二第三師管及北海道ヲ第一方面ノ管轄トシ第四
 第五第六師管ヲ第二方面ノ管轄トス
 第二十二條 明治二十一年勅令第三十號衛戍條例ニ掲クル衛戍武庫及職官表ハ本令施行ノ日ヨリ
 廢止ス

朕砲兵工廠條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七十二號(官報 八月十五日)

砲兵工廠條例

第一條 砲兵工廠ハ陸軍所要ノ兵器彈藥ヲ製造及修理スル所トス
 第二條 砲兵工廠ハ之ヲ東京及大阪ニ置キ其製造所ヲ設クルコト左ノ如シ

- 東京砲兵工廠
- 小銃製造所
- 銃包製造所
- 火具製造所
- 砲具製造所

板橋火藥製造所
 岩鼻火藥製造所

- 大阪砲兵工廠
- 火砲製造所
- 砲架製造所
- 彈丸製造所
- 火具製造所
- 砲具製造所

第三條 兵器ノ修理ハ東京大阪ニ在テハ直ニ工廠ニ於テ之ヲ執行シ其他ハ砲兵方面支署所在地ニ
 工廠ノ派出所ヲ置キ方面支署長ヲシテ其事ヲ管掌セシム但其經費ハ總テ工廠ノ負擔トス

第四條 砲兵工廠ニ左ノ職員ヲ置ク

提理	砲兵大中佐	一人
副提理	砲兵少佐	一人
検査官	東京砲兵少佐 大阪砲兵大尉	一人 一人
製造所長	砲兵大中尉若クハ技師	一人
一等軍醫	東京砲兵工廠ニ在テハ砲兵 工科學會軍醫ヲ以テ兼補ス	一人
技師若クハ技師試補		四人

第五條 第四條ニ掲クル職員ノ外砲兵上等監護及技手屬若干ヲ置ク但技手ニ限リ當分ノ内砲兵科
 下士ヲ混用スルコトヲ得

第六條 提理ハ陸軍大臣ニ隸シ工廠ノ事務ヲ總理シ兼テ工廠ニ關スル建築工事ヲ掌トリ管掌ノ事務ニ於テハ共責ニ任ス

東京砲兵工廠提理ハ砲兵工科學舎ヲ監督シ其實業教授ノ事ヲ管理ス

第七條 副提理ハ提理ヲ補佐シ工廠ノ事務ヲ整理ス

第八條 検査官ハ製造ノ兵器彈藥審査檢定ノ事ヲ掌ル

第九條 製造所長ハ製造所ノ工務ヲ擔任ス

第十條 技師及砲兵上等監護技手屬ハ上官ノ命ヲ受ケ共事務ヲ分掌ス

第十一條 砲兵方面支署所在地ノ工廠派出所ニハ屬若干ヲ分派シ方面支署長ノ命ヲ受ケ兵器修理

ニ關スル費用及材料ノ出納ヲ掌ラシム

第十二條 凡テ兵器彈藥ハ陸軍大臣ノ許可ヲ經ルニアラサレハ製造スルコトヲ得ス但砲兵會議議

長ヨリ試驗ノ材料模範等ヲ要求スルトキハ此限ニアラス

第十三條 官廳又ハ人民ヨリ物品ノ製造ヲ依頼スルトキ軍用ノ製造事業ニ妨ケナキ限リハ之ニ應

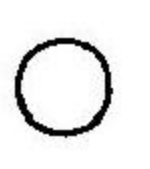
スルコトヲ得但軍用制式ノ製造ハ必ス陸軍大臣ノ許可ヲ經ヘシ

第十四條 工廠及製造所附近ノ地ニ騷擾警戒ノ事アレハ提理ヨリ地方衛戍司令官ニ牒告シテ衛兵

ノ派遣ヲ請ヒ守備ヲ嚴ニスヘシ

附則

第十五條 連發銃並海岸砲創製中各工廠ニ佐官各一人ヲ置ク



陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七十三號(官報八月十六日)

陸軍砲兵監護同諸工下士補充條例

第一條 砲兵監護ノ補充ハ現役砲兵較工銃工木工鍛工鑄工長ニシテ實役停年二年以上ノ者若クハ

監護志願者ニシテ砲兵方面附トナリタル再服役以上ノ砲兵曹長火工曹長ヲ以テス

火工二等軍曹ノ補充ハ砲兵上等兵ニシテ陸軍砲兵工科學舎學生トナリ卒業ノ者ヲ以テス

砲兵諸工下長ノ補充ハ陸軍砲兵工科學舎生徒ニシテ卒業ノ者ヲ以テス

第二條 砲兵諸工長ヲ砲兵監護ニ任スルニハ隊長若クハ直屬長官ハ所要ヲ量リ第一條一項ニ該當

スル者ヲ撰拔シ砲兵監護候補名簿ヲ製シ順序ヲ經テ近衛都督師團長若クハ之ト同等以上ノ權ア

ル長官ニ呈シ同官ノ認可ヲ經テ缺員アル毎ニ之ヲ砲兵監護ニ任ス

砲兵曹長火工曹長ヲ砲兵監護ニ任スルニハ砲兵方面提理陸軍大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ砲兵監護ニ

任ス

第三條 陸軍砲兵工科學舎卒業ノ砲兵上等兵ヲ火工二等軍曹ニ任スルニハ學舎長卒業試驗成績表

ヲ東京砲兵工廠提理ニ呈シ提理ハ其人名簿ヲ陸軍大臣ニ呈シ同大臣ノ認可ヲ請ケ近衛都督師團

長ヲ經テ聯隊長ニ移ス聯隊長ハ該隊ニ缺員アル毎ニ之ヲ火工二等軍曹ニ任ス

第四條 陸軍砲兵工科學舎卒業生徒ヲ工下長ニ任スルニハ學舎長卒業試驗成績表ヲ東京砲兵工廠

提理ニ呈シ提理ハ其人名簿ヲ陸軍大臣ニ呈シ認可ヲ經テ之ヲ工下長ニ任シ同大臣ノ告達ニ基キ

各部隊ニ配付ス

第五條 砲兵監護ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス監護ニ任セラレタル日ヨリ更ニ四年間現役ニ服セシム

其現役ヲ離ル、トキハ入隊ノ日砲兵工科學舎生徒ノ内一般人民ヨリ採用ヨリ起算シ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第六條 火工二等軍曹ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス陸軍砲兵工科學舎卒業ノ上原隊ニ復歸シ更ニ三年間卒業ノ日ヨリ起算ス現役ニ服セシム

其現役ヲ離ル、トキ前役ヲ通算シ七年ニ滿タサル者ハ豫備役ニ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第七條 諸工下長ニ任セラレタル者ノ兵役期限ハ一般ノ兵役期限ニ拘ハラス任官ノ日ヨリ七年間現役ニ服セシム

其現役ヲ離ル、トキハ入隊ノ日一般人民ヨリ採用シヨリ起算シ十二年ニ滿タサル者ハ後備役ニ服セシム

第八條 各兵科現役下士補充條例第二條第二項及第八條第九條第十條第十二條第十三條ハ本條例ニ適用ス

陸軍砲臺監守補充條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十五日

陸軍大臣 伯耆大山 巖

勅令第七十四號(官報八月十六日)

陸軍砲臺監守補充條例

第一條 砲臺監守ノ補充ハ現役砲工兵科曹長同一等軍曹中志願者ニシテ其入隊ノ日教導團ヲ卒業シタル者ハヨリ起算シ七箇年以上隊附勤務ニ服シ品行方正勤務勉勵ナル者ヲ以テス

第二條 砲臺監守ノ補充ヲ要スルトキハ陸軍大臣之ヲ告達ス

第三條 志願者アルトキハ隊長若クハ直屬長官ハ志願者中第一條ニ適當スル者ヲ撰ヒ其人名書ニ考科表ヲ添へ順序ヲ經テ近衛都督師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ呈シ同官ハ之ヲ審査シテ陸軍大臣ニ呈ス

第四條 陸軍大臣ハ前條人名書ヲ軍務局長ニ下シ同局長ハ志願者ノ各官等中ニ於テ其服役實期ト考科表トヲ參照シ砲臺監守候補名簿ヲ製シ之ヲ陸軍大臣ニ呈ス

第五條 砲臺監守ノ服役年限ハ砲臺監守ニ任セラレタル日ヨリ更ニ七箇年間現役ニ服セシム

第六條 現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ現役ニ堪ヘ難キ者ハ其役ヲ免ス但入隊ノ日教導團ヲ卒業シタル者ハ其ヨリ起算シ十二箇年ニ滿タサルトキハ前兵科ノ曹長ニ復任シ後備役ニ編入ス

第七條 現役中疾病若クハ傷痍ニ依リ永久服役ニ堪ヘ難キ者ハ兵役ヲ免ス

第八條 第六條第七條ニ當ルモノアルトキハ工兵方面提理ハ陸軍大臣ニ具申シ認可ヲ得テ現役若クハ兵役ヲ免ス

第九條 服役期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキハ其期限ヲ延スコトアルヘシ

朕陸軍下士以下服制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七十五號(官報八月十六日)

陸軍下士以下服制中左ノ通改正ス

第一條 火工曹長ノ服制ハ砲兵曹長ニ火工一等軍曹砲兵鞍工長同銃工長同木工長同鑄工長ノ服制ハ砲兵一等軍曹ニ火工二等軍曹砲兵鞍工下長同銃工下長同木工下長同鑄工下長ノ服制ハ砲兵二等軍曹ニ同シ

但現ニ乘馬ノ職ニアラサル者ノ外套ハ徒歩外套トス

第二條 砲臺監守ノ服制ハ工兵監護ニ同シ

第三條 縫工長靴工長ノ服制ハ各其所屬兵科ノ一等軍曹ニ同下長ノ服制ハ二等軍曹ニ同シ

第四條 要塞砲兵幹部練習所生徒砲兵工科學舍生徒ノ服制ハ砲兵科ノ卒ニ同シ

但袖章ヲ附セス外套ハ徒歩外套トス

第五條 教導團輜重兵生徒隊附喇叭卒同團輜重兵科生徒ノ服制ハ輜重兵科ノ卒ニ同シ

但生徒ハ袖章ヲ附セス

第六條 輜重檢卒ノ服制ハ輜重兵科ノ卒ニ警備隊砲兵助卒ノ服制ハ砲兵科ノ卒ニ同シ

但袖章ヲ附セス外套ハ徒歩外套トス

第七條 看守卒ノ服制ハ歩兵科ノ卒ニ同シ

第八條 縫工及靴工ノ服制ハ各其所屬兵科ノ卒ニ同シ

朕海軍公債證書條例中削除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十五日

大藏大臣伯爵松方正義

勅令第七十六號(官報八月十六日)

明治十九年^六勅令第四十七號海軍公債證書條例第八條第二項ヲ削除ス

朕陸軍被服工長學舍條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七十七號(官報八月十八日)

陸軍被服工長學舍條例中左ノ通改正ス

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

陸軍一等軍醫 一名

第八條刪除

朕陸軍現役縫工長靴工長補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第七十八號(官報八月十八日)

陸軍現役縫工長靴工長補充條例中「三等工長」トアルヲ「工下長」ト改ム

朕水雷隊配備ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月十九日

海軍大臣子爵樺山資紀

勅令第七十九號(官報八月二十日)

水雷隊配備表

所管鎮守府	防禦管區	數	設部	攻撃部	名	稱位	置
橫須賀	東京灣口及橫須賀軍港二	隊	一等水雷艇十三艘	橫須賀水雷隊	橫須賀軍港内長浦		
吳	吳 軍 港		一等水雷艇 四艘	吳 水 雷 隊	吳		
馬關	馬關 海 峽			馬關水雷隊	未		定

備考	室 爾	舞 鶴	佐世保	佐世保 軍 港	隊	一等水雷艇 五艘 <th>佐世保水雷隊 <th>佐世保</th> </th>	佐世保水雷隊 <th>佐世保</th>	佐世保
防禦管區及隊數艇數ハ漸次増加スルモノトス			對馬國竹敷近海二	隊	一等水雷艇 二艘	對馬水雷隊	對馬國竹敷	

朕臨時帝國議會事務局廢止ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十三日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第八十號(官報八月二十五日)

臨時帝國議會事務局ヲ廢ス

朕屯田兵條例改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八十一號(官報八月三十日)

屯田兵條例

- 第一條 屯田兵ハ屯田歩兵屯田騎兵屯田砲兵屯田工兵ヲ以テ編成シ北海道樞要ノ地ニ配置シテ共警備ニ充ツ
- 第二條 屯田兵ハ兵農相兼ヌルノ制トス平常ハ給與ノ兵屋ニ居住シ軍事上ノ訓練及開墾耕稼ニ従事セシム
- 第三條 屯田兵ハ府縣ヨリ志願者ヲ召募シ本籍ヲ北海道ニ移シ家族ト共ニ移住セシム
- 第四條 屯田兵ノ服役期限ハ二十箇年ニシテ現役三箇年豫備役四箇年後備役十三箇年トス服役期限中滿四十歳ニ至リ又ハ死亡若クハ事故ニ由リ免役シタルトキハ其家族中適當ノ男子ヲシテ兵役ノ殘期ヲ相續セシム若シ適當ノ男子ナキトキハ兵役ヲ免ス
- 第五條 後備役滿期後十箇年間補充兵役ニ服セシメ戰時若クハ事變ニ際シ召集ス
- 第六條 第四條第五條ノ各兵役年期ハ編入年ノ四月一日ヨリ起算ス
- 第七條 各兵役ノ期限既ニ滿ツルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期限ヲ延スコトアル可シ

附則

- 第八條 此條例實施以前ニ召募シタル屯田兵ハ左ノ區別ニ依リ服役セシム
 - 一 明治八年ヨリ明治十六年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後九箇年間後備役ニ服セシム
 - 一 明治十七年ヨリ明治二十年迄ニ召募シタル者ハ明治二十四年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム
 - 一 明治二十一年ニ召募シタル者ハ明治二十五年ヨリ四箇年間豫備役ニ服セシメ滿期後召募ノ年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

年ヨリ起算シ二十年ニ滿ツル迄後備役ニ服セシム

- 一 明治二十二年以後ニ召募シタル者ハ此條例ニ依ル

第九條 明治二十一年以前ニ召募シタル屯田兵ノ各兵役年期ノ起算方ハ本條例第六條ニ依ル

明治二十二年及明治二十三年ニ於テ召募シタル者ノ現役年期ハ屯田兵編入ノ當日ヨリ起算シ豫備役後備役年期ハ前役滿期ノ翌日ヨリ起算ス

第十條 本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

朕屯田兵司令部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百八十二號(官報 八月三十日)

屯田兵司令部條例

- 第一條 屯田兵司令官ハ少將ヲ以テ之ニ補シ直ニ天皇陛下ニ隸シ屯田兵ヲ統率シ軍事ニ係ル諸件ヲ總理ス
 - 第二條 司令官ハ屯田兵ノ出師準備ヲ整理シ部下軍隊ノ練成ニ就テハ其責ニ任ス
 - 第三條 司令官ハ屯田兵ノ徵募補充竝ニ開墾耕稼ノ事ヲ掌ル
 - 第四條 司令官ハ不慮ノ侵襲ニ際シ北海道ノ防禦及陸軍諸官廳諸建築物ノ保護ニ任ス
- 北海道廳長官地方ノ靜謐ヲ維持スル爲メ兵力ヲ請求スル時事急ナレハ司令官直ニ之ニ應シテ後

陸軍大臣及參謀總長ニ報告ス可シ若シ其事變危險ニシテ北海道廳長官ノ請求シ能ハサル例外ノ場合ニ在テハ司令官兵力ヲ以テ便宜事ニ從フコトヲ得

第五條 疾疫其他例外ノ場合ニ方リ司令官一時其部下軍隊ヲ移轉セシメントスル時至急ヲ要スレハ之ヲ實行シテ後陸軍大臣及參謀總長ニ報告ス可シ

第六條 司令官ハ北海道ニ在ル軍隊及陸軍官廨ニ於ケル風紀軍紀ヲ統監シ軍法會議及監獄ヲ管轄ス

第七條 司令官ハ軍政及人事ニ係ル事ニ就テハ陸軍大臣國防及出師計畫ニ係ル事ニ就テハ參謀總長ノ區處ヲ受ク司令官ハ此兩官ニ對シ各其主任ノ事ニ就キ定期又ハ臨時報告ヲ爲ス可キモノトス

軍隊及移住給與上ニ關スル事ニ就テハ屯田兵監督部長タル監督ヲ指揮ス

第八條 司令官ハ隨時屯田兵隊ヲ檢閲シ毎年一回其景況ヲ陸軍大臣ニ報告ス可シ

第九條 司令官赴任ノ節司令部所在地ノ地方長官始審裁判所長及檢事^{上席トハ三十日以内互ニ移文訪問ス可シ但官シ北海道ニ在ル控訴院長檢事長始審裁判所長檢事^{上席トハ三十日以内互ニ移文訪問ス可シ但官}}等卑キ者ヨリ先ノス可シ

第十條 屯田兵副司令官ハ大佐ヲ以テ之ニ補シ其職務司令官ニ亞キ司令官ヨリ委任ノ事項ハ之ヲ專行ス

第十一條 屯田兵司令部ハ左ノ諸部ヨリ成ル

一 參謀部

二 副官部

三 法官部

四 軍醫部

第十二條 參謀部及副官部ノ將校ハ各自擔任ノ事務ヲ司リ其司令官ニ具申ス可キ事ニ就テハ先ツ副司令官ニ開陳ス可シ

第十三條 法官部理事軍醫長及屯田兵監督部長タル監督ヨリ司令官ニ具申ス可キ事ニ就テハ先ツ副司令官ニ開陳ス可シ

第十四條 本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

屯田兵司令部職官表

備考	合計	支部		本部				區分	階級	少將	大佐	中佐	少佐	大尉	中尉	少尉	曹長	一等軍曹	二等軍曹	計
		軍醫部	法官部	軍吏	副官部	參謀部	副司令官													
一 軍醫部員ノ内一名ハ藥劑官トス	一																			一
二 書記ハ屬ヲ混用スルコトヲ得但各部(軍醫部)定員ノ半數ヲ超ユルヲ得ス	四	長	理事		副官一 副官	參謀	副司令官	參謀												一
	二		二部員			一		參謀一												三
	二		二書記					書記												八
	三		二餘事					書記												一四
	五							技手												一六
	二五																			七
	四二																			二五

朕屯田兵監督部條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百八十三號(官報 八月三十日)

屯田兵監督部條例

第一條 屯田兵監督部ハ屯田兵司令部所在ノ地ニ之ヲ置キ屯田兵隊會計事務ヲ監督シ屯田兵官衙ノ會計事務ヲ監視シ官金ノ收支官有物ノ出納ニ關スル計算及物件銃器彈藥及其他ヲ檢査シ且屯田兵所在地内軍吏部士官下士ノ人事ヲ掌ル所トス

第二條 屯田兵監督部ニ左ノ職員ヲ置ク

- 部長 一 人
- 二等監督 一 人
- 部長 一 人
- 監督補 一 人
- 副部長 一 人
- 二等軍吏 二 人

第三條 部長ハ陸軍大臣ニ隸シ其部長タル監督ハ軍隊及移住給與上ニ關スル事項ニ付テハ屯田兵司令官ノ命令ヲ承ク可シ

監督部ハ戰時若クハ事變ニ際スルトキ及演習ニ於テ必要アルトキハ屯田兵司令官ニ隸屬ス

第四條 部長ハ部務ヲ總理シ管掌ノ事務ニ於テハ其責ニ任ス

第五條 部長ハ監視監督ニ係ル會計上ニ就テ必要アルトキハ當該長官又ハ主任官吏ニ諮問シ其辯

明ヲ求ムルコトヲ得

第六條 部長ハ屯田兵官衙及軍隊ニ係ル會計上ノ閱檢ヲ行ヒ委任經理金ノ收支ヲ證認シ廢品賣却ヲ許可シ又必要ニ際シ官衙及軍隊ノ金櫃物件及帳簿ヲ檢査ス但軍隊ニ在テハ閱檢前屯田兵司令官ノ承認ヲ經ルモノトス

第七條 部長ハ指揮ヲ承ケ部務ヲ掌理ス

第八條 副部長ハ上官ノ命ヲ承ケ主務ニ服ス

第九條 第二條ニ掲グル職員ノ外軍吏部下士若干名ヲ置ク

第十條 本條例ハ明治二十四年四月一日ヨリ施行ス

朕陸軍各兵科現役士官補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百八十四號(官報 八月三十日)

陸軍各兵科現役士官補充條例中左ノ通改正ス

第一條但書ヲ左ノ如ク改ム

但屯田各兵科士官ノ補充ハ他ノ同兵科士官ヲ以テシ輻重兵科士官ノ補充ハ他兵科士官ヨリ轉科セシメ憲兵科士官ノ補充ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第三十四條ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第二十五條 屯田歩兵科ノ士官ハ當分札幌農學校兵學科ヲ卒業シタル者ニシテ見習士官ヲ命シ六箇月以上隊務ニ服シタル者ヲ以テ補充スルコトヲ得
見習士官ノ取扱並士官ニ任用ノ手續等ハ第二十三條乃至第二十八條及第三十二條ノ例ニ準ス但第二十八條及第三十二條ノ書類ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ共第三十二條ニ當ル者ハ陸軍大臣ニ於テ見習士官ヲ免ス

朕陸軍各兵科現役下士補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百八十五號 (官報 八月三十日)

陸軍各兵科現役下士補充條例中左ノ通改正ス

第一條但書中「屯田兵」ノ三字ヲ削リ及左ノ一項ヲ加フ

屯田各兵科下士ノ補充ハ他ノ同兵科ノ現役下士ヲ以テシ又屯田兵上等兵ニシテ入隊ノ日ヨリ起算シ二箇年以上現役ニ服シタル者及近衛各師團ノ豫備後備下士上等兵ニシテ屯田兵ト爲リタル者ヲ以テス

第三條中「十二月一日」ノ下ニ「屯田兵ニ在テハ割註及左ノ一項ヲ加フ

近衛及各師團ノ豫備後備下士上等兵ニシテ屯田兵ト爲リタル者ハ入隊後二箇月以内中隊長前項ノ例ニ依リ下士候補名簿ヲ製シ大隊長ニ呈ス可シ
第五條中「ニ呈シ」ノ上ニ「屯田兵司令官」ノ六字ヲ加フ

朕陸軍豫備後備將校補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百八十六號 (官報 八月三十日)

陸軍豫備後備將校補充條例中左ノ通改正ス

第一條第二項中「左ノ一項」ヲ追加ス

屯田兵ニ在テハ前項ノ外屯田兵豫備下士ニシテ本隊歩兵ニ在テハ札幌農學校ニ於テ一箇年間軍事學ヲ修メ終末試験及第證書ヲ所持スル者

第八條ノ次ニ左ノ一條ヲ追加ス

第九條 第一條末項ニ掲クル軍事學終末試験及第證書ヲ所持スル者ヲ豫備士官ト爲スニハ屯田兵司令官其成績ヲ詳悉シ之ニ考科表ヲ添ヘ陸軍大臣ニ進達ス

第九條ヲ第十條トシ同條第二「下」ニ及末項「ノ三字」ヲ加ヘ以下繰下ク

朕陸軍各兵科豫備後備下士補充條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八十七號 (官報 八月三十日)

陸軍各兵科豫備後備下士補充條例中左ノ通改正ス

第一條割註ハ中「屯田兵」ノ三字ヲ削ル

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

屯田各兵科ニ在テハ歩兵ハ現役滿期ノ際各中隊ニ四名以上騎砲工兵ハ毎年各中隊ニ一名以上トス

第三條第二項中ニ具狀ノ上ニ「屯田兵司令官」ノ六字ヲ加フ

朕陸軍現役下士上等兵再服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八十八號 (官報 八月三十日)

陸軍現役下士上等兵再服役條例中左ノ通改正ス

第一條中「及屯田兵」ノ四字及第二條ヲ削ル

第九條左ノ如ク改ム

第九條 第七條第八條ニ當ルモノアルトキハ聯隊長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ヨリ近衛都督又ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官 局長又ハ醫務局長以下同シノ認可ヲ請ヒ再服役ヲ停止シ若クハ兵役ヲ免ス但近衛都督又ハ師團長若クハ之ト同等以上ノ權アル長官ニ在テハ自カラ之ヲ處分ス

○

朕陸軍豫備後備將校服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第八十九號 (官報 八月三十日)

陸軍豫備後備將校服役條例中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

北海道徵兵令未行地在籍ノ豫備後備將校ハ北海道ノ兵籍ニ編入シ屯田兵司令官ノ管轄ニ屬ス

第十七條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ以下線下ク

第十八條 本條例中師團長トアルハ北海道徵兵令未行地ニ在テハ屯田兵司令官トシ又師管トアルハ北海道ニ在テハ徵兵令未行地トス

○

朕陸軍豫備後備下士兵卒服役條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第九十號 (官報 八月三十日)

陸軍豫備後備下士兵卒服役條例中左ノ通改正ス

第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

北海道徵兵令未行地在籍ノ豫備後備下士兵卒ハ屯田兵司令官ノ管轄ニ屬ス

第十九條左ノ如ク改ム

第十九條 本條例中大隊區司令官トアルハ北海道徵兵令未行地ニ在テハ屯田兵司令官警備隊區ニ

在テハ警備隊區司令官トシ監視區長トアルハ北海道徵兵令未行地ニ在テハ屯田兵司令官警備隊區

ニ在テハ警備隊區副官トス

師管旅管監視區トアルハ北海道ニ在テハ徵兵令未行地トシ又監視區トアルハ警備隊區ニ在テハ

其區トス

朕東京郵便電信學校官制中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第九十一號(官報八月三十日)

東京郵便電信學校官制中左ノ通改正ス

第五條第一項「教授ハ」ノ下「五人」ノ二字ヲ加ヘ第二項ヲ削ル

第六條助教ハ「ノ下」六人「ノ」二字ヲ加フ

第七條書記ハ「ノ下」六人「ノ」二字ヲ加フ

朕行政裁判所處務規程ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十九日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋

勅令第九十二號(官報八月三十日)

行政裁判所處務規程

第一條 行政訴訟各事件ノ掛評定官ハ行政裁判所長官ノ指定ニ依ル

第二條 行政裁判法第八條ニ依リ評定官ヲシテ裁判長ヲシムルトキハ同法第七條第二項ノ順序

ニ從ヒ之ヲ命スヘキモノトス

第三條 裁判長ハ一事件毎ニ審判準備ノ爲メ掛評定官中ノ一名若ハ二名ニ專理員ヲ指命スルコト

ヲ得

第四條 裁判長行政裁判法第三十八條第二項ノ場合ニ於テ科罰ヲ言渡シタルトキハ書記ヲシテ訴

訟ノ記録ニ之ヲ記入セシム

第五條 毎年七月十一日ヨリ九月十日マテノ間ハ行政裁判所ニ於テ緊急ノ事項ト認ムルモノハ外

既ニ著手シタル訴訟ヲ中止シ竝ニ新ナル訴訟ニ著手セス

第六條 行政裁判所ノ總會議ハ評定官總員三分ノ二以上列席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得

ス

第七條 總會議ノ議事ハ長官之ヲ整理ス若シ長官故障アルトキハ評定官中官等最モ高キ者之ヲ代

理ス

第八條 行政裁判所ハ訴訟ノ呼出狀及其他ノ書類ヲ使丁若ハ郵便ヲ以テ送達シ又ハ通常裁判所ニ囑託シテ送達セシムルコトヲ得

第九條 行政裁判所ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ其職權ニ屬スル事件ニ付告示ヲ發スルコトヲ得

第十條 行政裁判所長官ハ法律命令ノ範圍内ニ於テ事務取扱ノ順序方法ニ關スル規定ヲ設クルコトヲ得

書記ノ職務ニ關スル規程ハ行政裁判所之ヲ定ム

○ 朕政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月一日

大藏大臣伯爵松方正義

○ 勅令第九十三號(官報 九月二日)

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

○ 朕陸軍給與令中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○ 勅令第九十四號(官報 九月二日)

陸軍給與令中左ノ通改正ス
第二十四條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ
但幼年學校生徒中半官費生ハ精米ヲ官給シ賄料ヲ自辨トス

第六十七條第二項

三里未満ト雖モ船舶ニアラサレハ旅行シ難キ地方ノ船舶料ハ一海里以上又下士以下傷痍疾病ニ依リ歩行シ難キトキノ車馬料ハ一里以上之ヲ給ス

第九表區分中「東京」ノ下「及横須賀」伏見ノ下「由良」福岡ノ下「赤間關」ヲ加フ

第十二表中末項

幼年學校生徒中半官費生ハ大被服ヲ官給シ小被服ヲ自辨トス但修業用脚絆拍車體操用被服及裝具寢具ハ半官費生及自費生共官費生ニ準シ之ヲ貸與ス

第二十六表及第三十一表中「野戰電信隊」ノ上ニ「要塞砲兵隊ハ歩兵隊ノ金額ニ」ノ十三字ヲ加フ

第三十六表ノ末ニ左ノ一項ヲ加フ

一 下士兵卒竝歸休兵解散ノトキ傷痍疾病ニ依リ歩行シ難キ者ハ車馬料トシテ一里金五錢ヲ増給ス但三里未満ニ在テハ一里毎ニ金七錢ヲ給ス

各條項及諸表中「砲兵工廠生徒學舎」トアルヲ「砲兵工科學舎」ニ「軍樂基本隊」トアルヲ「軍樂學舎」ト改ム

朕志願軍吏生志願獸醫生ヲ陸軍軍吏部竝獸醫部豫備士官ニ補任スルノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百九十五號（官報 九月四日）

一 志願軍吏生ニシテ陸軍豫備後備將校補充條例第六條ニ依リ實地ノ試験ニ及第シタル者ハ當該監督部長木人所屬隊ノ軍吏ヨリ其勤務勉勵品行方正學術適當ノ者ニシテ軍吏部士官タルヲ得ヘキ保證書ヲ出サシメ且自ラ是認シタル後其意見書ヲ添ヘ三等軍吏ニ補任ノコトヲ會計局長ニ稟申ス會計局長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シ陸軍大臣ニ進達ス若シ監督部長之ヲ否認シタルトキハ其事由ヲ悉シ會計局長ニ稟申シ會計局長ハ更ニ理由ヲ具ヘ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ一等書記ニ任シ豫備役ニ編入ス

二 志願獸醫生ニシテ陸軍豫備後備將校補充條例第六條ニ依リ實地ノ試験ニ及第シタル者ヲ獸醫部豫備士官ニ補任スルハ陸軍獸醫部現役士官補充條例第十五條ニ依ル但シ獸醫部士官タルノ資格ナシト認ムルモノハ獸醫長ヨリ其事由ヲ具シテ軍務局獸醫課長ニ呈シ獸醫課長ハ之ヲ審査シテ軍務局長ニ上申シ軍務局長ハ之ヲ陸軍大臣ニ進達シ大臣ニ於テ見習士官ノ分限ヲ除クコトヲ裁定ス此裁定ヲ受ケタル者ハ蹄鐵工長ニ任シ豫備役ニ編入ス

朕徵發事務條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

勅令第百九十六號（官報 九月五日）

徵發事務條例中左ノ通改正ス

第六條ニ左ノ一項ヲ加フ
 徵發令第三條第二項中ニ掲クル師團長ニハ近衛都督旅團長ニハ屯田兵司令官ヲ包含ス
 第十條ニ左ノ一項ヲ加フ
 徵發令第十二條第二項ノ物件ニ限リ場合ニ依リ徵發書ヲ北海道廳長官府縣知事ニ付スルコトヲ得
 第二十一條ニ左ノ一項ヲ加フ
 鐵道局長及鐵道會社社長ハ陸軍省ヨリ送付スル所ノ離形ニ依リ毎年十二月三十一日調ヲ以テ鐵道表ヲ製シ翌年三月三十一日限リ同省ヘ送付スヘシ又新タニ鐵道ヲ布設シ若クハ改築シタルトキハ其時々鐵道表ヲ製シ陸軍省ヘ送付スヘシ
 第二十四條
 北海道廳長官府縣知事ハ三箇年毎ニ附錄第三號二二三ノ離形ニ依リ徵發物件表ヲ製シ郡區市長ヨリ差出シタル表ト共ニ翌年三月三十一日限リ陸軍省ヘ送付スヘシ
 第二十五條
 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第四號一二三ノ離形ニ依リ西洋形船舶器械製造修履場表日本式西洋式鑄造場表旋盤三臺以上裝置鐵工場表ヲ製シ毎年二月二十一日限リ海軍省ヘ送付スヘシ
 北海道廳長官府縣知事ハ附錄第五號一二ノ離形ニ依リ汽船表ヲ製シ毎年三月三十一日限リ海軍省ニ送付シ管内ニ於テ新造シ若クハ買入レタル登簿噸數百噸以上ノ汽船アリタルトキハ第五號三ノ離形ニ依リ汽船表ヲ製シ其時々海軍省ニ送付スヘシ但海軍大臣ハ便宜ニ依リ船舶會社ヲシテ直チニ送付セシムルコトヲ得

第二十九條
 徵發物件ノ差出場所ハ各徵發區内ニ設クルヲ定例トス但時宜ニ依リ徵發區外ニ設クルコトヲ得
 差出場所ハ陸海軍官憲之ヲ指定ス
 第四十條
 徵發區ハ徵發令第三十條ニ從ヒ徵發物件ヲ差出場所ニ輸送スルノ義務アルヲ以テ之カ爲メニ生シタル費用ハ其區ノ負擔トスヘキモノトス但差出場所ヲ徵發區外ノ地ニ設ケタルトキ其區外ニ係ル輸送賃ハ當該官憲ヨリ賠償スヘシ

附錄第三號ノ一改正

何府縣

何國何郡(市) 東西何里何町 南北何里何町

郡(市)役所 何郡(市)何町(村)

明治何年十二月三十一日調

市町村名	幅員	家	屋	人口		夫	人	宜	倉庫	概	寺	院	學校	製造	水	病	院	日本形船舶
				男	女													
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何	何
計																		

何 計 區	何 市	何 町	何 村	何町(村)				組 何町 (村)		合 計	
				何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々	何々

乙

一表中中部ハ東京京都大阪三市ノ例トス乙部ハ東京京都大阪ノ三市ヲ除キ其他一般ノ市郡部ニ通用スヘキ表式トス

一本表ハ一郡一市各別ニ一表ニ製スヘシ

一本表區畫内ヘ記載方ハ總テ附録第三號ノ一表ノ例ニ依リ調製スヘシ

一乘馬ハ年齢四歳以上ニシテ若干日ノ使用ニ堪ヘ現在又ハ合テ乘馬ニ役セシモノヲ記載スヘシ

一駕馬ハ年齢四歳以上身幹四尺五寸以上ニシテ若干日ノ駕馭ニ堪ヘ現在又ハ合テ駕馭ニ役セシモノヲ記載スヘシ

ノヲ記載スヘシ

一駄馬ハ凡三拾貫目以上ヲ負擔シ若干日ノ勞役ニ堪ヘ現在又ハ合テ駄馬ニ役セシモノヲ記載スヘシ

一耕馬ハ年齢四歳以上ニシテ若干日ノ勞働ニ堪ヘ現在耕馬ニ役スルモノヲ記載スヘシ但會テ駕馬又ハ駄馬ニ役セシモノハ各其欄内ニ合記スヘシ

一乘馬駕馭馬耕馬ノ内前項ノ資格ヲ有セサルモノハ不合格ノ部ニ記載スヘシ

一馬車ハ二輪又ハ四輪ノ人乘馬車ニシテ器具稍々完備シ數日ノ運轉ニ耐ユルモノヲ記入スヘシ但三頭曳以上ノ車輛ハ二頭曳ノ欄ニ合記スヘシ

一荷馬車西洋荷馬車及大八車製ノ如キモノニシテ器具稍々完備シ馬ニ駕シ得ルモノヲ合記スヘシ

一馬車曳具及鞍轡器具等ハ其材料完備シ數日間ノ使用ニ耐ユルモノヲ記載スヘシ

一車輛ハ國稅ヲ徵收(下半年期ノ國稅ヲ納メタル數)シタル數ヲ記載スヘシ

一馬匹ハ乘馬備養令ニ依リ飼養スルモノヲ除却スヘシ

一市制町村制ヲ施行セサル府縣ニ在テハ第三號ノ一表末項ノ說明ニ據ル

附録第三號ノ三改正

物産收穫高

明治何年調

何市 何區	何町 何區	何村 何區	郡市		何市 何區
			町	市	
			支	米	
			石	六	
			石	小	
			石	麥	
			石	稗	
			石	麥	
			石	鹽	
			石	味噌	
			石	醬油	
			石	漬物	
			石	梅干	
			石	苧	
			石	葛	
			石	藥	

何市	計	何郡				計	何郡				計
		何町	何町	何村	何村		何町	何町	何村	何村	
合計											

一本表ハ一郡一市各別ニ一表ニ製スヘシ
 一市ニ在テハ町村ニ拘ラン一市ヲ以テ調査スヘシ
 但三府ノ如キハ毎區ヲ以テ調査スルモノトス
 一木表物産ハ其中ニ收穫セシ總數ヲ記載スヘシ
 一發油ハ其年中國稅徵收ノ檢査ヲ爲シタル高ヲ記載スヘシ
 一物品ノ計數ハ四拾五入ノ法ヲ用ヒ石貫樽ニ止ムヘシ
 一市制町村制ノ施行セサル府縣ニ在テハ「市名」「區名」ニ代ヘ郡區ヲ以テ調査スヘシ

附錄第五號ノ一改正

登簿噸數百噸未満汽船表

道廳(何)府縣

免狀番號	船名	用途	方	運	航	港	津	所屬會社及船主
一〇二五	何丸	郵船	船	何港ヨリ何港ヲ經テ何港迄				何國何郡何町(村)何某
一二五六	何丸	旅客船	船	何港ヨリ何港迄				何國何郡何町(村)何某
	何丸	港内使用船						何國何郡何町(村)何某

附錄第五號ノ二改正

登簿噸數百噸以上汽船表

道廳(何)府縣

船名	何	丸	所屬會社或ハ船主	何國何郡何町(村)何番地	何々社或ハ何某
免狀番號	何				
定 繫 港	何	港	或	ハ	何
船内構造變更ノ箇所	何	甲板ニ上中等客室何箇所ヲ設ケ或ハ之ヲ除キ艙庫又ハ何々ニ改造ス			
一晝夜ノ油費	何	升	何	合	一晝夜ノ炭費
全 速 力	何		哩	尋常	速力
	何		哩		何

附錄第五號ノ三改正

汽船表

船名	何丸	所屬會社或ハ船主		道廳(何)府縣
		何國何郡何町(利)何番地	何々社或ハ何某	
免狀番號	何番	定航地方事務扱所		何港何郡何町(利)何番地 何々社或ハ何某
登簿噸數	何噸	二	五	買入代價
製造年月	何年何月	何年	何月	航路定限
検査年月	何年何月	何年	何月	検査證書有効期限
用方	郵船旅客貨物或ハ挽船	運航	港津	何港ヨリ何々ヲ經テ何港迄或ハ何港何港間
定 額	何港或ハ何灣	石炭貯量	何	何
一晝夜ノ炭費	何	斤	一晝夜ノ油費	何
一晝夜ノ脂費	何	斤	蒸氣水機械一晝夜 蒸氣量	何
船長及運轉手定員	何	人	機關手定員	何
事務係定員	何	人	水夫定員	何
火夫定員	何	人	自餘乗組定員	何

朕商船學校官制ノ改正ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月四日

内閣總理大臣伯耆山縣有朋
遞信大臣伯爵後藤象二郎

勅令第百九十七號(官報九月五日)

商船學校官制

第一條 商船學校ハ東京函館ニ置キ遞信大臣ノ管理ニ屬シ航海、運用、機關ノ學術及ヒ技藝ヲ教授スル所トス

第二條 商船學校ニ左ノ職員ヲ置ク

- 校長 二人 奏任
- 幹事 二人 奏任
- 教授 五人 奏任
- 助教 十四人 判任
- 書記 七人 判任

第三條 校長ハ遞信大臣ノ指揮監督ヲ承ケ校務ヲ掌理ス

第四條 幹事ハ現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ庶務ヲ掌理シ校長事故アルトキハ其事

務ヲ代理ス

第五條 教授ハ現任校長ノ次等以下トス校長ノ監督ヲ承ケ生徒教授ノ事ヲ掌ル

第六條 助教ハ校長ノ監督ヲ承ケ教授ヲ佐ク

第七條 書記ハ校長若クハ幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

朕鐵道局改稱並管轄ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月五日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
内務大臣伯爵西鄉從道

勅令第九十八號 (官報九月六日)

鐵道局ヲ鐵道廳ト改稱シ内務大臣ノ管轄ニ屬セシム

朕鐵道廳官制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月五日

内閣總理大臣伯爵山縣有朋
内務大臣伯爵西鄉從道

勅令第九十九號 (官報九月六日)

鐵道廳官制

第一條 鐵道廳ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 官設鐵道ノ布設工事並其運輸ニ關スル事項

二 私設鐵道ノ許否並其布設工事運輸及營業ノ監督ニ關スル事項

第二條 鐵道廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官 一人

部長 三人

事務官 十八人

參事官 一人

技師 三十人

事務官試補 二人

技師試補 六人

屬 三百人

技手 三百八十人

驛長 百二十人

第三條 鐵道廳ニ長官官房ヲ置キ左ノ事務ヲ掌ル

一 各部成案ノ審査公文ノ起草統計報告ノ調整ニ關スル事項

二 私設鐵道ノ許否及監督ニ關スル事項

第四條 鐵道廳ニ三部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

第一部

一 官設鐵道ノ新設工事及其修理保管並車輛器械ノ製作修理保管ニ關スル事項

第二部

一 官設鐵道ノ乘客荷物運輸ニ關スル事項

第三部

一 官設鐵道ノ歲入歲出豫算決算出納並需用物品購買保管出納ニ關スル事項